

Copyright Notice

This document is provided under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License (CC BY-NC-SA 4.0):

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/>

You are free to:

- Share — copy and redistribute the material in any medium or format
- Adapt — remix, transform, and build upon the material

Under the following terms:

- Attribution — You must give appropriate credit to the publisher, provide a link to the license, and indicate if changes were made. You may do so in any reasonable manner, but not in any way that suggests the licensor endorses you or your use.
- NonCommercial — You may not use the material for commercial purposes.
- ShareAlike — If you remix, transform, or build upon the material, you must distribute your contributions under the same license as the original.

About the Project

This document was created with the permission of participating publishers as part of the Japanese Multi-Volume Sets Discoverability Improvement Project, funded by the Council on East Asian Libraries and the Mellon Foundation for Innovation Grants for East Asian Librarians.

『人民文学』 解説・解題・回想・総目次・索引

不二出版

『人民文学』 総目次

第一卷第一号

〈創刊号〉

一九五〇（昭和二五）年二月一日

作品募集

人民文学社

33

人民作家のおもかげ(一)

中国

趙樹理(チャ

オシューリー)

島田 政雄

34
39

国際文学通信

朝鮮 地下から出た文学——朝鮮の進歩的文

学運動

ロマン・キム

40
42

ソ・同盟 ソ同盟の作家から朝鮮の作家たち

へ

42
43

ドイツ ドイツ作家同盟の誕生

アメリカ アメリカの大詩人

43
44

中国 丁玲と文芸報

文学者と平和を守る運動

藤森 成吉

45
49

読者諸君に訴える——「人民文学友の会」の設

立について

人民文学編集部

49

詩人の性格——「ひろし・ぬやま詩集」を読む

赤木 健介

50
51

長次郎の妻

江馬 修

52
63

後記

江馬 生

64

カット

吉井忠／佐藤忠良

「私たちの村」と作者

栗栖 継

32
33

私たちの村

マフムト・マカル、栗栖継訳

25
31

スケッチについて

「学新聞」七月二十五日号より

栗栖継訳

22
24

青いからしな

高橋 暁樹

21

スケッチは大きな文学である——ソヴェト「文

学新聞」七月二十五日号より

栗栖継訳

22
24

平和と米と自由を

サカイ・トクゾー

16
18

真夜中の爆音

豊田 正子

19
21

で

タカクラ・テル

13
18

霜で白い道

山本 又男

2
12

表紙 釈放された父ちゃん

麦 桿

人民に仕える文学——『シアチウ物語』をよん

タカクラ・テル

13
18

サカイ・トクゾー

16
18

豊田 正子

19
21

高橋 暁樹

21

スケッチは大きな文学である——ソヴェト「文

学新聞」七月二十五日号より

栗栖継訳

22
24

スケッチについて

マフムト・マカル、栗栖継訳

25
31

栗栖 継

32
33

表紙 新居 広治

ドイツ ゼーゲルス女史の近作 55 ~ 56
ロバート・フリードマン

アメリカシロヒトリ 田中 政雄 2 ~ 25

チエコスロヴァキア チエコの労働者文学

筆者紹介 25

校 殺すということに対する感覚について 56 ~ 57

芸術より政治が優位ということ 江馬なかし 26 ~ 27

新劇の危機 松田 解子 58 ~ 59
藤森 成吉 60 ~ 61

私たちの村（つづき） マフムト・マカル、栗栖継訳 28 ~ 35

下総台地の一端で 牛越 玉恵 61
靴なおしのおじさん 豊田 正子 62 ~ 64

読者諸君に訴える——「人民文学友の会」の設立について 人民文学編集部 35

筆者紹介／作品募集／人民文学十一月号目次 64
眞実の道を歩む 河原崎長十郎 65 ~ 69

サークル活動における普及と達成の統一 増山 太助 36 ~ 37

読者だより 田沢良子／正木十与／矢野正次

病床日記——清瀬病院にて 鹿地 亘 38 ~ 39

／加藤紀夫／入江澄夫／高柳正次／深野利雄

人民作家のおもかげ(2) フランス アラゴン マイケル・ゴールド、栗栖継訳 40 ~ 48

／荒井金弥／勝宗章／編集部 70 ~ 71

人民詩の高まり サカイ・トクゾー 49

Enhavo（*エスペラントの目次）

詩三篇 ヒクメット、鹿地訳 50 ~ 52

地方サークル誌紹介 編集部 72

国際文学通信

編集後記 江馬 生 (73)

中国 中国文学者の平和運動 53 ~ 54

カット 吉井忠／佐藤忠良／吉岡憲／佐伯良夫

フランス フランスの進歩的な作家たち

所感

佐藤 忠良

54

表紙 山のおかみさんたち

鈴木 賢二

「ソビエトの芸術」より

本郷 新

55

人民の牛となれ——魯迅はこう教えている

所感

原 武男

55

郭沫若、島田訳

車庫の中——機関区の春(1)

佐伯 良夫

56

スケッチの機動力

中山 五郎

(*画)

牛越 玉恵

56

闘う大衆と共に——自己批判・文学会の批判か

峠——人民路線の文学者に

石毛助次郎

63

ら

平中 忠信

忘れえぬ人たち

佐伯 良夫

63

私の創作活動について(党委員会での活動報告)

(*画)

(*編集部)

64

オストロフスキイ、おおたけ・ひろきち訳

地方誌紹介

藤森 成吉

64

人民作家のおもかげ(3) 中国 丁玲

分派

僕たちは風をよぶ——函館共闘懇談会に寄せて

67

運河よ

島田 政雄

あいはら・きよし

76

革命暦の一月——三つのしについて

たなはし・一じ

李家荘の変遷(第一回)

趙樹理、島田政雄訳

76

いろいろよ燃えろ 「二月の夜話」——三人の偉い

(*画) 中国の版画

わが生涯の果実——フーチクの手紙

77

人

サカイ・トクゾー

国際文学通信

栗栖 継

77

ぶたの歌

タカクラ・テル

中国 文学芸術界は抗帝援隣のため宣伝のし

栗栖 継

77

二本の木の芽

半田 義之

中国 文学芸術界は抗帝援隣のため宣伝のし

栗栖 継

77

職人一家のゆくえ

豊田 正子

中国 文学芸術界は抗帝援隣のため宣伝のし

栗栖 継

77

(*画)

佐藤 忠良

ごとに起て

栗栖 継

77

(*画)

佐藤 忠良

ごとに起て

栗栖 継

77

ギリシヤ 死の島からの手紙——ギリシヤの

マクロニソス島からの訴え

92
94

東欧 新しいヨーロッパの三人の作家

94
95

読者だより 江原光太／室谷好枝／早乙女勝

元／鹿島てる／大内卓／斎藤千／安藤長蔵／

横山浩／編集部

96

編集後記

江馬生

(97)

作品募集

(97)

第二巻第二号

一九五二（昭和二六）年二月一日

表紙

新居 広治

目次カット 「中国木版画集」ヨリ

文学の大衆路線へ——なかの・しげはるの「人

民文学と江馬の言葉」をよんで 江馬なかし 4
10

李家荘の変遷（第二回） 趙樹理、島田政雄訳 11
19

(*画) 「中国木版画集」より 11

中国文芸報社より島田政雄氏への便り

文芸報社文芸報編集委員会

19

平和の戦士 パブロ・ピカソ——平和擁護大会

での素描

小林 哲平 20
23

大衆の力で「人民文学」を守れ！ 五十万円基

金募集 藤森成吉／島田政雄／野間宏／豊

田正子／江馬なかし

23

松川事件をデッチあげた虫けらどもにおくる

片羽登呂平

24

一九五〇年国際青年デー

川崎 隆志

24
25

ビラに想う

福田 穂

25
26

祖国の山河たちへ

酒井 真右

26

詩を送れ

サカイ

26

夜の脱柵

野間 宏

27
35

(*画)

佐藤 忠良

27

投稿者諸君へ

人民作家のおもかげ(4)

35

ソヴェト オストロ

フスキー 矢島 昇一 36
39

煙突 勝谷ふきお 39

「わだつみの声」に答える 山本 又男 40
55

建立を拒否された戦歿学生記念像「わだつみの

こえ」(本郷新作)

40

書評

絵本「日立物語」と「常東ものがたり」

藤森 成吉 55

旅順口

M 生 60

二つの反戦作文

岩倉 政治 56
60

葉挺の詩

葉 挺 61

附記

61

きれいな髪のゆくえ——少年のための話

上田 千之 62
63

(*画)

吉岡 憲 62

作者紹介

63

地方サークル誌紹介

63

「原動力」が世にでるまで——中国女流作家の

創作苦心談

草明、三好一訳 64
69

(*画)

64
67

おねがい

編集部 68

作品募集

68

全国的な批判と討議へ

サカイトクゾー 70
71

大衆はニヒリストか(佐々木小次郎の幻術)

中山 五郎 72

職人一家のゆくえ

豊田 正子 73
80

(*画)

佐藤 忠良 73

憎しみ——首のない詩抄

黒崎 桃吉 80

美術における大衆路線——「押仁太」について

押 仁 太 81
84

平和ようごだより

F 85
86

国際文学通信

ソヴェト 平和のためにたたかうソヴェトの

文学雑誌 87
88

中国 文芸宣伝はじまる／文芸通信員懇談会

ひらく／中国の労働者演劇 88
91

ドイツ 新しいドイツのためにたたかう文学 91
92

読者だより 松木良雄／斎藤千／福沢正一／

斎木サチ子／藤田／楠田俊子／向山宏／パル

チザン／柚木衆三／タカクラ・テル／堀越克

子／編集部

93
96

編集後記

正子／なかし (97)

第二巻第三号 一九五一(昭和二六)年三月一日

表紙 北京における文学者の平和愛国デモ

大衆の力で「人民文学」を守れ！ 五十万円基

金募集 藤森成吉／島田政雄／野間宏／豊

田正子／江馬なかし 1

文学運動のあたらしい方向 島田 政雄 4／16

四月号予告 16

夜の脱柵 野間 宏 17／22

(*画) 佐藤 忠良 17

人民に仕える文学と人民におしつける文学

柴田 昭三 23／26

投稿者諸君へ 26

人民作家のおもかげ(5) ソヴェト ファデー

エフ 袋 一平 27／32

日本の夫へ——はるか新中国の妻よりの手紙

山原袈裟乃 33／37

(*画) 佐藤 忠良 33

作品募集 37

私の心 ヒクメット、鹿地亘訳 38／39

忘れられた作家ヴァレスおよびユーゴーのこと

など——パリ・コンミュンと芸術家たち

江上つぎお 40／42

たつた二本の煙草

伊知井幸三 42

検針員 藤田 孝美 43／52

(*画) 佐藤 忠良 43

地方サークル誌紹介 51

読者諸君へ 52

宮本百合子について 53／54

宮本百合子の死 六戸 弥生 55／57

「風知草」その他 玉城 素 57

詩 小林多喜二と宮本百合子 大場 進 57

風がレールいつぱいに吹いている 鳴木 民夫 58／59

一九五一年の正月(北多摩平野の片隅から、

松川事件の仲間におくる)

こばやし・つねお 59／60

湖 亘理 妙子 60／61

赤ん坊 むらかみ・たかを 61／62

どうして後悔をくりかえそう(全国講話愛国

運動によせて)

多田 洋一 62

人民の演芸 藤森 成吉 63

映画紹介 中国人民の勝利 64 ~ 67

フランス映画とイタリア映画を見て

瀬藤 祝 68

書評

続シアチウ物語 藤森 成吉 69 ~ 70

「銃殺されたフランス共産党員の手紙」 浜田 初広 70 ~ 71

蓮湖 孫犁、中垣虎児郎訳 72 ~ 77

「玄海」 水谷 護 77

誓い 橋本勝三郎 77

詩をかこう！ 岡崎ふゆ子 78 ~ 79

Bの結婚式 (＊画) 「中国木版画集」より 78

平和のまもり／附記 F 80 ~ 81

一九五〇年一月六日午前一一時二〇分

斎藤 千 82 ~ 83

俳句 トロッコ 玉木 葉月 84

国際文学通信

ソヴェト 国際婦人デーを迎えて

サラ・イシアントウラエワ 85 ~ 86

中国 たたかう北京の文芸界 唐 至 86 ~ 88

中国 党機関が文芸運動を支援せよ 88

ブルガリア ブルガリアの作家たち 88 ~ 89

五十万円基金カンパの状況 89

読者だより 吉田嘉志雄／森本義輝／伊藤洋

／浅沼源治／こまち・たかし／金井広／向山

宏／松木良雄／橘孝治／編集部 91 ~ 95

編集後記 正 子 96

第二巻第四号 一九五一(昭和二六)年四月一日

表紙(＊花岡鉦山の一場面) 押 仁 太

大衆の力で『人民文学』を守れ！ 五十万円基

金募集 藤森成吉／島田政雄／野間宏／豊

田正子／江馬なかし (1)

目次カット 徳永 富子

人権擁護のために闘え 編集部 4

人民作家のおもかげ(6) 平和の戦士パブロ・

ネルーダ 馬凡陀、浅井／大野訳 5 ~ 11

文学運動における組織の問題 星野まもる 12 ~ 15

俳句 工代会議 相田百世木 15

再軍備反対と『蟹工船』 島田 政雄 16

新聞を売る娘 瀬木 富夫 19

ぼんせいべえ屋も唄う 酒井 真右 20

欠席裁判——松川事件の同志へ（裁判長よ検事 23

達よ聞くがいい） 坂本 俊雄 24

港湾労働者の歌 どの・よしのぶ 25

在中国の日本人から——人民文学編集部あてに 28

人民文学を読んで……感想 佐 伯 20

編集部の諸同志へ…… 志村 幸子 24

（*無題） 福原 真志 25

親愛なる人民文学編集部のみなさま 居 坂 27

われわれは宮本百合子をダンガイする 斎藤 千 29

「太陽は桑乾河を照す」について 福島 要一 30

作品募集 32

たで喰う虫もすきずき 馬 凡陀 33

戦争に抗して 野間 宏 34

短歌 再軍備反対 宇多川 良 37

書評 アラゴン著『フランスの起床ラッパ』 38

ワシレフスカヤ著『愛』 39

五十万円基金応募者芳名録 38

国際文学通信 39

アメリカ アメリカ文壇の傾向 40

ソヴェト 朝鮮解放五周年を記念する文学の 41

夕べ タベ 41

チェッコ 新中国の文学に何を学ぶか——作 42

家大使ヴァスコップ氏の言葉 42

中国 上海の文芸工作者より日本の文芸工作 43

者へ 43

読者だより 佐藤代治／阿部市次／大崎栄太 43

／太田省次／鈴木賢士／あらい・いさむ／お 43

いかわ・とおる／古井戸重介／脇／成達一／ 43

おのだ・す・む／久富勝義／加藤朝吉 44

戯曲 本郷村善九郎 六場 江馬なかし 48

（*画） 徳永富士子 48

町工場で 石田 幹雄 76

（*画） じつかわ・すすむ 76

職人一家のゆくえ(三)

豊田 正子 88~95

子供たちと一しよに——人形劇団日曜座

(*画)

佐藤 忠良 88

近江 幸正 7~8

エスペラントの目次について/訂正

96

人民の統一のために 青森労働者文学研究会 8~10

(*もつと詩を送れ)

(97)

メーデーにむかつての前進座 市川楽三郎 10~11

編集後記

正子 (97)

(*画) 麦 稗 5

第二巻第五号 一九五二(昭和二六)年五月一日

あたらしい国際平年賞受賞者 11

国際スターリン平和賞を受けた人々——「文化
と生活」誌より 西郷竹彦抄訳 12~14

表紙 中国版画 報復(おもいれ)

平和の鳩(*カット) ピカソ 12

チエン・イエンチャオ

地方サークル誌紹介 14

大衆の力で『人民文学』を守れ! 五十万円基

人民作家のおもかげ(7) トルコの愛国詩人ナ

金募集 藤森成吉/島田政雄/野間宏/豊

ジム・ヒクメット

(1)

モイセイエンコ、佐藤修一訳 15~20

目次カット

麦 稗

毛沢東の「実践論」と文学 島田 政雄 21~29

メーデーを目ざして——各大衆団体の文芸工作運動

(*画) 滝平 二郎 21

すべては大衆の力によつて 関 鑑子 4~6

愛国人民詩歌の発展 サカイトクゾー 30~33

愛国的人民の炎をもやせ——北海道から

(*画) 新居 広治 30

ひら・しんじ 6

春日正一の書簡 人民文学社へ 春日 正一 33

メーデーはおれたちのもの

五月一日の歌 おいかわとおる 34

共同印刷労組人民文学友の会 6~7

女房よ——第二十二回メーデーによせて

漫画二題

サカイトクゾー

36
37

多摩の青年たちにおくるうた

さかいばらいつお

37
38

パイパイ草へ

岡本 重吉

38
39

ひつぱがすならばがしてみよ!

川原 治

39

わたしのあるいてきた道

タカクラ・テル

40
45

(*画)

新居 広治

40

五十万円基金応募者芳名録

日本の夫へ——はるか中新国の妻よりの手紙

(2)

山原袈裟乃

46
52

(*画)

吉岡 憲

46

詩 戦争

藤森 成吉

53

アンケート 上海文化芸術工作者総会の行動綱

領十カ条をよんで 福島要一／竹内好／渡

辺順三／徳永直／新居広治／吉井忠／鈴木賢

二／淡徳三郎／松田解子／秋田雨雀／新島繁

／袋一平／荒正人／河原崎長十郎／金親清

54
56

国際文学通信

中国 上海の文化芸術工作者より日本の文化

芸術工作者へのメッセージ／中国文学芸術

界における一九五〇年の成果と一九五一年

の方針

57
59

ソヴェト 文学におけるスターリン賞受賞者

ソヴェト ソヴェト作家同盟の青年作家たち

との対談 エフゲニー・プラリニコフ

59
61

アメリカ ハワード・ファストの新作／アメ

リカの受賞作品

61

俳句 旗の波 高橋星河／滝本互／北丘求介

／中山一進路／高木みどり／村石玉恵／川村

志青／松尾勝／いでい冬平／上村白塔波／ケ

ンキチ・オサ／大蔵千穂／松野進／東武雄／

今村景火／漆畑吐志男／佐藤久次郎／石橋貞

次／桜井博道／竹村文一／富田弘一／向坂愁

風／江口のぼる／新井紅石／青倉月海／ムラ

カミタモツ／穂水／高木まさる／林瓢月／六

角一良／小柳蛙飛／増田西嶽

職人一家のゆくえ(四)

豊田 正子

63
70

(*画)

佐藤 忠良

63

短歌「軍用列車」から

おおせきこういち

69

人民作家のおもかげ (前号までに紹介したもの)

70

日本人労働者 第一部

春川 鉄男 4 ~ 29

馬小屋

石毛助次郎

71 ~ 84

(*画)

佐藤 忠良 4

(*画)

さえきよしお

71

短歌 軍用車音
あらしに抗して

福田 穂 29

俳句 多喜二の忌

かしはら・かずを / 村石玉恵

83

道づれ

小島 進 30 ~ 40

かしはら・かずを / 村石玉恵

83

道づれ

加賀 耿二 41 ~ 48

戯曲 斗かう仲間 一幕

工藤 武雄

85 ~ 93

短歌 選挙戦

押 仁 太 41

(*画)

鈴木 賢二

85

文学とことば

北奥 三郎 48

中国の絵物語「松川事件」

93

ア・ファデーエフ、T 訳

49 ~ 52

読者だより 河合好子 / 斎藤ふみよ / 中野三郎 / 土谷美好 / 峰のぼる / 真木尚二 / 仲野谷清 / 編集部

96

前号の修正とおわび

51

読者諸君に 編集部

96

俳句 職安の道

青倉 人士 52

清 / 編集部

94 ~ 95

「桑乾河」と「綴方教室」をよんで

春日 正一 53

編集後記

なかし

(97)

詩歌はたたかっている——詩歌活動家の当面する任務についての断片的感想

53

第二巻第六号

一九五二 (昭和二六) 年六月一日

96

第二十二回 統一メーデーをうたう

サカイ・トクゾー 54 ~ 57

表紙 平和の歌

全面講和大会

今岡 正三 58 ~ 60

世界平和評議会の呼びかけ

チェコスロヴァキアの兄弟の激励に答えて

畑中 俊平 60 ~ 61

協定締結の要求

よるの工作

斎藤 千 61 ~ 62

目次カット 極端な対照 (漫画)

よるの工作

うさみなおき 62 ~ 63

1

1

よるの工作

うさみなおき 62 ~ 63

裁判 岩瀬日出雄 63～64

握手 相良 春子 64

「新日本詩人」一部幹部の分裂策動について

人民文学編集部 64

関西の平和運動 藤森 成吉 65～67

中国の文化芸術工作者のメッセージに答える 人民文学社 68～69

「原動力」の作者 草明女史の自伝

草 明 70～71

俳句

斗争宣言 大逸敬二郎 72

その日のために 金子蛙次郎 72

参議戦川上氏演説会 多胡比佐志 72

地下足袋 西村 八代 72

老工 おおはら・よしお 72

選挙 横村 貞光 72～73

若葉 富田 弘一 73

仕事よこせ 松野 進 73

復員抄 潮田 春苑 73

山間 海野 岩雄 73

私の村の話 大木 石子 73

短歌

許さざりけり 小松三千夫 74

本部の赤旗に寄す 酒井 孝 74

弾圧と闘う 畑中ひろし 74

塗工の歌える 金田 明夫 75

ページを越えて たかはし・もとひろ 75

サークル誌寸評 石井藤子／福田穂 76～77

詩人集団について(一) 野間 宏 78～80・96

国際文学通信 平和のためにたたかう作家たち 其井 豊 81～85

人民作家のおもかげ(8) ソヴェトの作家シヨ 袋 一平 86～92

一口ホフ

五十万円基金応募者芳名録

読者だより 某／園部芳子／たざわ・ごろう

／長谷川昭俊／人民文学宇都宮友の会通信員

／東京朝鮮人中学校第三学年自治会一同 93～95

編集後記

なかし／正子 (97)

表紙 東京荒川の某金属工場での講和署名

「人民文学」の読者倍加運動に諸君の熱心な協

力をねがう

人民文学編集部

(1)

蔵原の文化理論について

岩上 順一

4 ~ 8

世界青年学生平和祭にわれわれの作品を送れ!

8

真実と文学と人間性——なかの・しげはるの心

伊豆 公夫

9 ~ 13

理と論理

伊豆 公夫

9 ~ 13

芝浦どっこい

O・S 生

13

もりあがる人民文学運動

江馬 なかし

14 ~ 16

二十九才のたくましい党（日本共産党二十九周

年をむかえて）

春日 正一

17

詩 火縄銃のうた——朝鮮の多くの悲しい妻と

許 南麒

18 ~ 46

母と、娘達におくる

許 南麒

18 ~ 46

国際文学通信 平和のためにたたかう作家たち

其井 豊

47 ~ 51

(2)

其井 豊

47 ~ 51

「文学通信」第一号七月一日発行

其井 豊

47 ~ 51

詩

其井 豊

47 ~ 51

詩

其井 豊

47 ~ 51

六三型が火をふいた

ひろし・つだ

52 ~ 53

わが子道程と大地え（獄中の母より）

安信サツエ

53 ~ 55

貯炭場のたそがれ

中田 良克

56

パーマネントをかけた豚

きくちさかり

56 ~ 57

もうドレイ兵士ではない——やがて八・一五

をむかえる

井上 俊夫

57

をむかえる

井上 俊夫

57

朝鮮の大地にささげるうた——朝鮮動乱一周

年をむかえて

まき・かずひろ

58 ~ 59

あなたたちの安否

今井 隆

59

平和のことば——メーデーを祝して

今井 隆

59

エム・イサコフスキー、吉成大志訳

今月の収穫——詩によせて

東

52 ~ 54

書評

笠信太郎著『ものの見方について』

岩上 順一

54 ~ 58

老舎著『四世同堂』

石井 藤子

58 ~ 60

平和の作文運動 八・一五記念日を目ざして

人民文学社

61

俳句

人民文学社

61

新樹

丹田 一

62

新樹

丹田 一

62

新樹

丹田 一

62

新樹

丹田 一

62

新樹

丹田 一

62

新樹

丹田 一

62

爆音 谷 九助 62

氷る獄 畑中ひろし 62

よろけないぞ 漆畑吐志男 62

短歌 横井源次郎 63

速報 田辺 若男 63

祖国と平和 山本須美子 63

モスクワ放送 谷垂水／石原健夫／鳩雅美／針 63

(*無題) 谷正治／(*パン焼職人)／永島鼎 63

詩人集団の活動(二) 野間 宏 64

広島の子 小松三千夫 68

ある朝の荷役労働者 どの・よしのぶ 76

五十万円基金応募者芳名録 80

「人民文学」編集部 80

短歌 土井 道子 81

全面講和の市長 81

(*無題) たかはしもとひろ／酒井孝／中 81

根節子／しげる・こやま 81

職人一家のゆくえ(五) 豊田 正子 82

二十挺の手斧 丁玲、牧浩平訳 87

87

仲間の会を作ろう育てよう

『うたごえ』の出るまで K・I生 92

原稿とくそくの歌 圭 二 92

小さい提案 小野 弘 93

読書だより 宮脇千秋／堀内春吉／湯浅いさ

お／わかつま・けいすけ／都竹通年雄／大室

茂／梶本準一／岩井孝二／斎藤千 94

編集後記 なかし (97)

本文カット 佐藤忠良／滝平二郎

第二巻第八号 一九五一(昭和二六)年八月一日

表紙 ゴーリキーの胸像 トムスキー

原爆の都、広島の平和祭に全日本の平和愛好者

の参加を訴える 広島平和祭祭典準備会 (1)

目次カット いわさき・ちひろ

八・一五平和ようご記念特集

母さん 葦 百合子 4

女だつてできる 大山みよ子 4

木こりは斧を 山崎 正和 4

4

4

おれを調べる松川事件の検事 岩瀬日出雄 6～8

木更津のうた 中原 信吉 8

おれわあいする わがつま・けいすけ 8～9

ガム ささすすむ 9

更生基金箱をぶら下げて こばやしじつや 9～10

五大国平和投票 真木 尚二 10～11

平和の鳩よ！はばたけ！とびたて！ さいとうゆき 12

在中国の日本女性から 豊田正子／斎藤繁子 13～17

横浜ツルミの平和俳句会 とし子／草雨／晴風／紅露／宵石／楸邨 17

一步、一步、大衆の道へ！(走り書きの報告) 中村翫右衛門 18～21

短歌 ○獄はウタル○さ 太田 省次 21

工員手帖 浅野 純一 22

郷里の山河 柴田 竜雄 22

「魚屋宗五郎」 土井 道子 22

日本を踏み越えて 鈴木 西夫 22

大切な身体 橘 孝治 22

馬鹿々々しい仕事 矢代 東村 22

人民作家のおもかげ(9) 中国 魯迅

ヒロシマ 牧 浩平 23～28

獄中にて 深川 宗俊 28

俳句——相田百世木／高橋星河／古沢太穂選 中原 淳吉 28

松川事件 二階堂さんを迎えて 青倉 人士 29

生きている 江崎 美実 29

映画「無防備都市」を観て 漆畑吐志男 29

供出キキンの村 大木 石子 29

(*無題) 上原康文／木村鉄路／倉上二郎 29

／岩沢克子／当山青波／小宮昭子／中山和 夫 29

日本人労働者 第二部 春川 鉄男 30～33

『日本人労働者』の作者から 春川 鉄男 34～36

同志をうばい返す話 沢 まや子 37～45

文芸時評 新しい現実をえがこう 「日本人労働者」その他 赤木 健介 46～49

ピカソのこと——若い画家へおくる 江馬なかし 50～53

第五回職場美術展をみる

吉井 忠 54 ~ 56

「私の仕事」(*出品作品)

宮寺己之吉 54

「友達」(*出品作品)

杉浦 ふき 56

平和と独立の歌 北海道の巻(サークル訪問)

サ 57 ~ 59

五つの大国に父母兄弟と共に

『どつこい生きてる』のいいところ悪いところ

岩崎 昶 60 ~ 62

松川事件の真相(人民文学編集部)

真実はこうです 阿部 市次 63 ~ 64

松川事件 斎藤 千 64 ~ 67

国際文学通信

平和の戦士マキシム・ゴーリキー(ゴーリキ

ーの十五年忌によせて)

セルゲイ・ペトロフ 68 ~ 70

平和の事業につかえるソヴェトの詩

エフゲニー・ドルマトフスキー 70 ~ 72

金日成の文学者へのよびかけ

百合子の「道標」をめぐる 除村吉太郎 74 ~ 78

中野の手口 藤森 成吉 79 ~ 81

農民小説、農村通信を求む

編集 部 81

民族解放の文学のために——葦原の文学論批判

岩上 順一 82 ~ 87

松川事件と宮本百合子

鈴木 信 88 ~ 89

仲間の会サークルを作ろう育てよう——文学サークルと

はどんなものか 90 ~ 92

ゴーリキーのために記念集會をもて

編 集 部 92

読者だより 金哲 / 石田仁 / 小野英 / 海老名

札太 / 永井謙 / 某 / 福島要一 / 青倉人士 93 ~ 95

原稿募集

松川被告の詩

あおいの花 加藤 三佐 96

労働者の祭 佐藤 代治 96

生きる道 さとう・はじめ 96

本文カット 滝平二郎 他

第二卷第九号 一九五一(昭和二六)年一〇月一日

〈9・10合併 中国・朝鮮文学特集〉

表紙 九・一平和推進国民会議主催の単独講和

反対デモ（東京）

文工隊のうた 許南麒作詞、金敬在作曲

目次カット 朝鮮の虐殺 ピカソ

すべての愛国者・文学者にうったえる

桑サンフランシスコ 港 講和とそれにつづくもの——民族解

放の統一戦線に参加しよう／日共にたいする

弾圧に抗議する 「人民文学」編集委員会 4～6

新中国は日本人民の胸に サカイ・トクゾー 7～9

単講節（炭坑節の替うた） 9

地底の人々——中国人をはじめとする花岡の犠

牲者に捧げる 松田 解子 10～24

奄美大島を語る もりあがる民族運動

昇 曙夢 25～28

詩 君たちの闘いは平和と独立の闘いだ——英

雄的に闘いをすすめる上砂の兄弟え

坂本 俊雄 28

（*短歌）

嵐の中に 小川 宇一 29

（*無題） 関口恒四郎／太田省次／熊木勢

代子／堀間春吉／小谷一美／斎藤瑞穂 29

同志佐藤の自己批判を読んで 北塔 英示 29

チャオ・シユリ（趙樹理）の「李家荘のうつり

かわり」 タカクラ・テル 30～37

朝鮮民主主義人民共和国三週年に際し 平和と

自由と文化を愛好する日本国民に訴える 在日朝鮮文学会 38

魯迅逝世十五週年の記念日にあたって——中華

人民共和国建国二週ンを祝いつつ 甘 文芳 39

朝鮮は戦っている！ 趙 基天 40～42

中国革命と中国文学 島田 政雄 43～55

町から村から

その日、私は何をしていたか？ 鈴木 信 56～58

予備隊日記

予備隊の一日 松田 武 59～60

わたしの経験 T・H生 60～62

金さんの平和投票 吉田嘉志雄 62～66

「町から村から」に原稿を送れ

短歌

短歌

短歌

ロップ——ペンキ屋の歌

金田 明夫

67

鶴造文学サークルの古いものと新しいもの

平和への願い

小松三千夫

67

石黒米次郎

78
79

八月十五日

土井 道子

67

書評「原動力」と「甦える大地」

徳永 直

80
82

詩

たたかいを殺すもの

熱田 五郎

83
96

起重機

角 俊広

68

編集あとがき

(97)

亡霊のうた

堀内 春吉

68
69

岡の上から——青年平和代表者会議防衛

第二巻第一〇号

一九五一（昭和二六）年一月一日

田村 英一

69
70

単独コーワとはこんなもの

G・K生

70

（ロシア革命三四週年記念）

京子よ

氏家 惇二

70

表紙 女学生のデモ（ウクライナ共和国一九五一—メーデー）

日本人民よ救国に立ち上れ

郭沫若氏から公開

目次カット

牛のむれ／草はこび（中国版画）

状

郭 沫若

71

古 元

東京都で公安条令の廃止運動発足

救え、20人の愛国者

古 元

読者だより 後藤料光／藤原仲次郎／岡本一彦／斧由男／佐藤代治／丸山三郎

サカイトクゾウ作詩、サカイテルコ作曲

(1)

おいらの日記詩抄

あいくに・わへい

74
75

郭沫若氏のおびかけに答える

編集部／淡徳

仲間サークルの会を作ろう育てよう

三郎／長与善郎／松村一人／佐山済／斎藤秋男／金子光晴／小牧近江／小場瀬卓三／石川達三／竹内好／桑島信一／小松清／内山完造

編集部から

(1)

闘う大衆とともに——新しい活動家をうむ海

／中野秀人／坪野哲久／内山賢次

岸文学サークル

呉 隆

76
77

2
5

十月社会主義革命とソヴェト文学

とマヤコフスキー

西尾 章二 6 ~ 11

スターリンの「作家への手紙」は何をおしえる

か(一)

除村吉太郎 12 ~ 15

ソヴェト文学は平和のためにたたかう

岩上 順一

15 ~ 19・38

ソヴェト新詩選

(*編集より)

編集部 20

平和の民なるわれらは戦争を欲しない!!

ミハイル・ドゥージン、木村浩訳 20 ~ 21

白樺 セルゲイ・ワシーリコフ、長田志郎訳

21

交代部隊

セルゲイ・ミハルコフ、長田志郎訳 21 ~ 22

イランの手帳より

ヤロスラフ・シユポールタ、其井豊訳 22 ~ 23

随筆特集

革命記念日の思い出 モスクワと潜・片山

鳥 徹 24 ~ 29

ハリコフの革命記念日

藤森 成吉 30 ~ 32

菊の花と革命記念日

前芝 確三 32 ~ 34

ロシヤ革命に一命をささげた日本人サトウに

ついて 徳永 直 34 ~ 37

各地で盛大なゴリリキー、魯迅祭

短歌

再製ガーゼ

赤石 達也 38

ビラ

矢代 東村 38

こんな講和

山本 正一 38

工場から

国木田 稔 38

子供らに

高田 国代 38

ブイ

入山 仁一 38

アジア国の良心

石井 努 38

詩集 松川のうたごえ

文学者の良心と正義にかけて松川の人々を救

え 「人民文学」編集部 39

無実の罪にとわれた愛国者のうた——松川の

愛国者たちにさゝぐ 北条さなえ 39 ~ 40

数億の星のひとみよ

鈴木 信 40 ~ 41

『平和のうたごえ』をふところに斗うぞ

加藤 謙三 41

お母さん！もうすこしです	がんばってください			
さい	さいとうゆき	42		
平和の方に向う世界の眼	野間 宏	43		
松川詩集と松川文集について		43		
文芸時評 文学者の統一戦線について	赤木 健介	44	47	
「人民文学」一週年記念祭／読者の投稿をつの		47		
町から村から				
くそとしよんべんの話	広田 耕作	48	50	
よろんちようさ ター坊の日記抄(1)				
動けぬベットから——清瀬上官療園の松川署	諏訪弥佐吉	50	52	
名活動 編集部／K・A生／P生／今泉				
良子／鈴木数馬／斎藤義治／野村実／寺内				
みふみ		52	54	
俳句 日当のピン剣ね	玉木 葉月	54		
短歌(自由律)——矢代東村選				
「どついでい」の歌	羽賀 律夫	55		
レポの同志	新田 信久	55		
工員手帳	浅野 純一	55		
ハリスト	山田 秀厚	55		
親しき友	海上とし子	55		
革命への誓	吉村きくよ	55		
一把のうどん	太田狷之助	55		
うたう国民日記	わ へい	56		
照りかがやく光——一年間の私の回想	野間 宏	57	60	
「新日本文学」と「人民文学」について——私				
の経験から	小泉みち子	61	64	
人民文学の一年 人民文学のあるいて来た道				
われわれの呼びかけにたいする日本の文化人の	島田 政雄	65	73	
答えを読んで 上海文学芸術界連合会				
詩				
村の衆	竹田 葉介	74		
ニューヨークのカブト町	うえまつ・かずお	74	75	
さようなら おやえ	くさか・よしすけ	75	76	
小供たち	権 敬沢	76		
老易者も叫ぶ	内藤三歳子	76	77	

原爆記念全国平和会議万才！——八月六日広

島にて
このの・わたる 77 ~ 78

読書案内

『金の星の騎士』 74 ~ 75

『大陰謀』 75 ~ 76

詩集『平和のうたごえ』 77 ~ 78

仲間の会を作ろう育てよう うわツつらをなで

ていた文学活動 酒井 真右 79 ~ 81

良書紹介 長田新編『原爆の子』 80

労働者の俳句作品から 古沢太穂選評／小沢

太子／柳青芽／高橋流石／大島浜吉 81

読者だより 淵田一久／堀内春吉／まつい・

しげお／田村実／うえまつ・かずお／相原文

雄／武田久 82 ~ 83

朝 アントノフ、吉原武安訳 84 ~ 92

母と予備隊 石毛助次郎 93 ~ 100

(*画) 滝平 二郎 93

地底の人々(2) 松田 解子 101 ~ 112

(*画) 押 仁 太 101 ~ 107

編集あとがき A / サ (113)

本文カット 久米宏一／滝平二郎外

第二巻第一二号 一九五二(昭和二六)年二月一日

〈サークル特集・松川事件特集〉

表紙 日立のたたかい 新居 広治

目次カット 滝平 二郎

松川事件と文学 1

日本人労働者 第二部 春川 鉄男 2 ~ 27

大衆文学とは何か 近頃の新聞小説について

時代物を読む気持 たかはし・しんいち 28 ~ 33

全国編集委員制についてのおねがい 34 ~ 38

文学は大衆の中へ行く——全国各地のサークル報告から

うんとなぎ——松江地方における文学運動

のあゆみ いぜき・みちお／桑原武 39 ~ 42

療養所内の文学活動

熊本再春荘人民文学友の会 42 ~ 43

下丸子文化集団の中から 高島 青鐘 43

より広くより深く——北九州・新萌文学サー

クルの報告

『詩のなかま』が生まれました

中門 英幸 43 ~ 45

新潟詩のなかまの会 45 ~ 46

新しい方向への苦悩——文京詩人集団中間報告

隆村 孝平 46 ~ 47

アンケート 人民文学のよかつたところ悪かつ

たところ——サークルからの批判と希望

袖木衆三／青森労働者文学研究会／おいかわ

・とおる／人民文学盛岡友の会／ささ・すす

む／沢村秀夫／赤い蕾の会 47 ~ 49

サークル誌寸評 福田 穂 50 ~ 51

郭沫若氏に答える 倉石武四郎 51

サークルの方向 編集部 52

うたう日記 あいくに・わへい 53

随筆

現代の悪夢 亀井勝一郎 54 ~ 55

魯迅さんをしのぶ 内山 完造 55 ~ 57

抵抗・平和・文学 クロード・モルガンのこ

となど 石川 湧 57 ~ 59

詩

北風 六戸 弥生 60

みてやって下さい——ある母のうたえる

しまもとただお 60 ~ 61

M丘の日 湯川 純 61 ~ 62

公安条例撤廃せよ！うばいとれ嵐のように

ゆうき・かおる 62 ~ 63

風の子 いぜき・みちお 63

架線電工の歌 朝香 進一 63 ~ 64

「平、和、の、た、め、に、ま、い、り、ま、

し、た」 松本 二郎 64 ~ 65

工場の騒音のなかで あかい・すゝむ 65

牛の谷ズンドコ節 まき・ひろし 65

歌ごえは進む（投稿詩作品批評） サ 66

松川事件の被告と家族をたずねて 松田 解子 67 ~ 73

松川詩集『八千万の兄弟に捧げる歌』を読む

小野十三郎／植村諦／許南麒／近藤東／江口

榛一／新岩手詩人集団／高萩歌人集団／うん

なん詩の会／青森労働者文学研究会／京都詩

文学作家集団／群馬勤労者集団 渡辺 順三 74 ~ 75

松川事件の被告に贈る（*短歌） 渡辺 順三 75

短歌——赤木健介選

被告の妻

多田藤次郎

76

獄中より

春日 正一

76

鋳物工場で

土井 道子

76

敗戦回想

諏訪弥佐吉

76

パンを焼きつつ

小谷 一美

76

奴隷工場

並木 和夫

76
77

(*無題)

うえまつ・かずお／小松三千夫

76
77

／まき・ひろし／関英一／羽賀律夫／水木

剛／くさか・まもる／ひとつばし・すすむ

77

選評

赤木 健介

77

町から村から

百姓武左エ門

松本新八郎

78
80

正坊の映画サークルの巻

沢田 正夫

81
83

たれが犠牲者か？

河原 一枝

83
84

緑の鉛筆

山本平八郎

85
89

新中国からの愛情——続日本の夫へ

山原けさの

89
90

俳句——高橋星河選

講和前後

谷 九助

91

平和の芽

松野 進

91

鉄の火花

北川 吸江

91

抵抗の書

小村 弘

91

暴圧

ほんだ・たつんど

91

読者のたより

稲垣哲／金徹昇／中野和夫／

石原正／出目和子／玉井仁／森毅／安藤正昭

／香川一彦／仲野谷清／北丘求介／とくしま

ぐんぞう／田中静夫／いずみきよし

92
93

原稿募る（詩歌特集）

入門講座 詩作問答

松川詩人集団問、サカイ・トクゾー答

94
98

冬芽のうたごえ（文芸時評）

福田 穂

99
102

地底の人々（3）

松田 解子

103
111

魯迅をしのぶ会

島田 政雄

111

質問室

根本篤／島田政雄／朴元俊

112

編集あとがき

A (113)

かさねて財政の危機をうったえる われわれの

「人民文学」を守ろう

事務局

(113)

原稿募集

(113)

* 原本では通巻表記で「三巻十四号」とあり

〈新年小説特集〉

人民文学の発展のために 第二回基金カンパのうつつたえ
 / 盛大だった「人文」一週年記念『文学祭』 前付 1
 1952年をむかえて 「小説特集」を送る

編集部 1

九十九里海区（第一回） 金親 清 2 / 15

ボタ山の火 山野 五郎 16 / 24

文化短信 24

芽ぐむ雑草 石田 幹雄 25 / 33

川柳 天皇国体に来る（国体へ） 吉田 治平 33

兵士ラニー 松本 鋼一 34 / 39

わたしの友だちはみんな死んだ

エディト・トーマ、安東次男訳 39

ルポ 「平和のうた」は「君が代」をかきけし

た——京大天皇行幸事件 京大文学サークル 40 / 45

京大事件（川柳） 迫 樹 45

ルポ 怒りの街——軍港・佐世保 坂村 忠 46 / 51

南の島の兄弟とともに 大津詩人集団合作 52

武士の町でござる 村上草太郎 52

日本時事詩 片羽登呂平 52 / 53

散文詩 虎大統領の演説 おいかわ・とおる 53

酒ぞう 仲野谷 清 53 / 54

おれは連結手 須山 広志 54

印刷工のうた キムラ・キイチ 55

ひる近き工場 あかい・いさむ 55

道 由利 左門 56

松川公判傍聴記——松川事件第一次調査団長と

して 藤森 成吉 57 / 61

読書案内

どこへ消えゆく——民族の文化財 まつしま・えいいち 62 / 65

短歌——矢代東村選 永塚恒夫／岩田恒雄／

細見正三郎／上坂国博／小松三千夫／熊本勢

代子／植松和人／あきら・みえ／田中修三／

くさか・まもる／土井道子／浅野純一／秋月

人見／林あき子／民正太郎 66

町から村から

生きている俺らの姿——足立職安から

オカノ・ケン 67 ~ 69

小さなクツミがき——ほんとうに、あつたこ

と 能智 愛子 69 ~ 71

それでも行く——街頭で 細川 俊 71 ~ 73

多喜二祭を準備しよう——悪法反対斗争のため

に 人民文学編集委員会 73

サークル誌評 福田穂 / 多田洋一 / 東竹雄 74 ~ 75

全国職場サークル誌展示——東大教養学部駒場

祭の報告から 74 ~ 75

文芸時評

文学者の皆さんに 磯 武平 76 ~ 77

もつと現実にそくして——『母と予備隊』に

ついて 石黒米治郎 77 ~ 79

日本文学の出路——『不在地主』と『ぶたの

歌』 岡田 一夫 80 ~ 81

方言とかなずかいの問題——文章の書き方

原 謙太郎 81 ~ 83

停電のうた 柴田 利夫 83

冬の話——屋根の上

小沢 清 84 ~ 87

『人民文学』二月号予告

どら声 岩崎 宏文 88 ~ 95

現代トコトンヤレ節

犬と泥坊 加賀 耿二 96 ~ 110

読者だより 阿部市次 / 藤井讓 / 鳥取和男 /

松尾晴輔 / 無名氏 / 青木倍夫 / 酒井真右 / 土

谷亘 / 豊田操 / 桑原武 / うえまつ・かずお /

大木清一 / 岡田十良松 / 前倉艶子 / 財津幸雄 111 ~ 112

編集あとがき A (113)

原稿募集 (113)

カット 滝平二郎 / 大野碌郎

第三巻第二号 一九五二(昭和二七)年二月一日

*原本では通巻表記で「三巻十五号」とあり

〈詩歌特集〉

表紙 冬の野良にはたらく日本の農婦

目次カット 郷土玩具 鈴木 賢二

人民文学の発展のために 第二回基金カンパの

うつつたえ／基金カンパ第一次報告 前付 1

平和の友よ手を握ろう！ サカイ・トクゾー 1

解説 大山郁夫氏にスターリン国際平和賞 1～3

日本人民に贈られたもの——大山郁夫氏訪問記

島田 政雄 2～3

パーヴリク・モローゾフ

ステパン・シチパチョフ、佐々木彰記 4～22

まえがき 記者 4

小林多喜二と宮本百合子(1) 徳永 直 23～29

Pさん(*マンガ) 29

日本国民にたいするイ・スターリンの新年のメ

ッセージ イ・スターリン 30

ソ同盟スターリン首相の新年メッセージに答え

る 「人民文学」編集委員会、徳永直起草 30～31

京大平和の歌

京都大学一万の学生よ 山崎 正和 32～33

京大天皇事件のうた 田中マサル 34～35

豆詩集まかり通る サ 32～38

小林多喜二に捧げる

炎は燃えている 若杉 卓二 36～41

誓い——亡き同志小林多喜二に捧ぐ

三枝ともみ 41～42

各地の平和詩集 サ 38～43

南海の島々の声

ふるさとへの愛 山路 隆司 43～44

アメリカ人にはなれない 丸山 三郎 44

アジアは互に戦わず

仲間よ、考えてくれ——すべての、親子爆弾

製造工場の労働者え 唐木田明雄 45～46

アジアの兄弟 鈴木 信 46

民謡とおどり——一歩々々大衆の中へ(二)

中村翫右衛門 47～50

民謡と音楽 箕作 秋吉 51～53

詩サークル運動の発展 サカイトクゾー 54～57

松川被告からの「人民文学」読者へのうつつたえ

編集部 57

詩集「平和のうたごえ」 多田 洋一 58～60

こども(1)(2) 由利 左門 61

いつまでも眠っている妹に 因藤 莊助 61

体温 矢田 妙子 61～62

電気冷蔵庫の中の名誉

宮乃宇良夫

62
63

損札を数える

影山 啓

63
64

ぶんがくまつり——人民文学一週年記念に

黒谷 流二

64

この港をとりかえそう——港湾労働者会議代表

二百のうたごえ

どい・よしのぶ

64
65

同志佐藤の追悼会

徳永 直

66
68

同志佐藤三千夫に捧ぐ

橋本 公成

66
68

故佐藤三千夫第卅回忌に当り墓前にさゝぐ十句

首藤 瓢々

68

日本人サトウにささぐ

村石 玉恵

68

短歌——赤木健介選

街上のピラ

鳩 雅美

69

日本海

桑原 武

69

義足が鳴るなべに生れる歌

玉置 風子

69

年末の新宿にて

前田喜美子

69

たまもの

飯田 実治

69

酒

ムラカミ・タモツ

69

照明弾

関口恒四郎

69
70

爆音

梅田 正

70

(*無題)

古沢多慶夫／浜田矯太郎／岡部

光男／仁昌寺与七／笹本光一路／小村弘／

浅野純一／岩沢克子／松井舜平／赤形直吉

／八木忠雄／須々木清一

選評

赤木 健介

70

町から村から

のろのろ電車(神奈川県住吉小学校二年一組生徒)

生徒)

(*解説)

せんそう

編 集 部

71

大きくなつて

平山 二郎

71
72

おかあさん

小島 悦子

72

あそぶ

川久保正博

72

先生のうまいこと

M・I

72

せんそうがおわる

杉原 征价

72

かえるのおやとどじょうのおや

いむた・ささこ

72
73

高い掃除器・安い賃金

I 生

73

らくがき

林 稔

74
76

ある農村青年の悩み——K君への手紙より

川柳
読書案内

高橋 新治 76 ~ 78
広江天痴人 78

霜(俳句) 古沢 太穂 91
スターリンはじめて日本国民に年頭の辞をよす 井上 満 91

『医師バツーン』

木島 始 79 ~ 80

文化短信 ひとつばし・すすむ 91 ~ 98

『新中国教師の父陶行知』

野間 宏 80 ~ 81

サヨナラ 大野ガ原開拓団 99 ~ 112

昼となく、夜となく

岩上 順一 81

おわび 編集部 112

山の民

春日 正一 82

編集後記 原稿募集 113

下街の故郷

島田 政雄 82 ~ 83

第三巻第三号 一九五二(昭和二七)年三月一日

人間の歴史第一巻

藤森 成吉 83

表紙 帰省 新居 広治

炭坑四人詩集

赤木 健介 83

目次カット 鈴木 賢二

短歌 気違いになることもなく

矢代 東村 84

人民文学基金カンパ 第二回発表(2月10日現在)

俳句——古沢太穂選

(*無題) 小村弘/須々木誠一/松島緑林子

患者大会 石井真朱男/赤形直吉/仁科一

本誌題名をかえることについて——大衆討議をのぞむ 編集部 前付1

路/小谷つや/当山青波/木村鉄路/柴田

竜雄/岩沢克子/岩沢道子/佐羽赤石/山

『人民文学』事務局日誌 文学のおもしろさと夢 1

田秀厚

古沢 太穂 85

入門文学講座 小説をかくくるしみ 松田 解子 86 ~ 90

選後評

古沢 太穂 85

霜(俳句) 古沢 太穂 91

入門文学講座

小説をかくくるしみ

文学のおもしろさと夢

松田 解子

86 ~ 90

1

物語はいかにして作られたか

まるやま・てるお 2〜7

短歌

ピケット・ライン

田中 修三 7

松川公判

山本 幸一 7

此の頃

小松三千夫 7

おんつあんの夜語り

南 昌三 8〜14

新刊紹介 世界抵抗詩選

14

時事解説 スターリンメッセージの背後にある

もの

本田喜代治 15〜17

おまえはいまどこにいるか——愛するむすめへ

エランに

林和、許南麒訳 18〜21

スターリン・メッセージをどう思うか——文化

人の感想（到着順）編集部／深尾須磨子／石

塚友二／平野謙／山田清三郎／小野十三郎／

失名子／小場瀬卓三／久保栄／内田巖／小牧

近江／広末保／井上友一郎／久保田正文／河

原崎長十郎／山岸外史／安部公房／橋本英吉

／神近市子

22〜27

われら詩をもつて——スターリンの挨拶にこた

える

耳底の呼び声——偉大な人のあいさつを聞いて

て あいくにわへい 28

二つのありがとう

赤形 直吉 29

二つのメッセージ

中野 昭 29

短歌 スターリン・メッセージを読んで

春日 正一 30

編集部より

編集部 30

世界平和賞受賞者 郭沫若氏へのお祝いのこと

ば 藤森 成吉 31〜33

郭沫若——平和擁護運動への献身 斎藤 秋男 33〜34

小林多喜二と宮本百合子(2) 徳永 直 35〜38

俳句 餅の話 橋本 夢道 38

ゴーゴリ死後百年祭記念 ゴーゴリとその文学

について 横田 瑞穂 39〜43

俳句——古沢太穂選 豊田 操 44〜45

基地労働者 原 波次郎 44

正月 田村ひろし 44

土工のうた 牧 健介 44

いも掘り

コンクリート道

山田 悦哉 44

監房詩集

いぜき・みちお 65

年末斗争

小村 弘 44

地図

荒井 勇 66

(*無題)

黒沢一太／音無庵 44

その顔

ノサカ・ハタエ 66

日本国民への言葉に接して

小林 明 45

きよーいちにち

わがつまけいすけ 67

感想

古沢 太穂 45

逗子海岸で

瀬木 富夫 67

文芸時評 戦争の傷痕

岩上 順一 46

自由な広場

サカイ・トクゾー 68

読書案内

岩上 順一 52

ひとつかみの紙

佐藤 一 68

暴風しゅう雨(上)

能智 修弥 52

正しい文学理論を

山本 洋助 69

戯曲「新しい事物の前に」

猪野 千鶴 53

特別席からの作品

宮乃宇良夫 70

塔の上の旗

大木 清一 54

東京でうようよしているアメリカ人

コージン 71

町から村から

つやまけいこ 56

私たちのサークル活動の教訓から

高原詩の会 72

農村見聞記

高島 鉄哉 58

おれたちの詩選集紹介

サ 75

世田谷のボロ市

深川 宗俊 62

日本の人民作家(Ⅰ) 木下尚江—明治2年

玉城 肇 76

職安行

根岸忠／神老／水上正弘／岡本 俊夫／寺西邦雄 62

昭和12年

長崎S生／広島E生／編集部 81

ヒロシマから

文化短信

短歌—渡辺順三選

ひとつのレモン 82

北風よ

牧 清一 64

ひとつのレモン

前田喜美子 82

文化短信

ひとつのレモン

ひとつつばしすむ

湊三吉／香椎敏衛／松本正幸 82

詩

ひとつつばしすむ

ひとつつばしすむ

湊三吉／香椎敏衛／松本正幸 82

梅田正／原伊市／三木郁元／細見正三郎 82～83

選後評 渡辺 順三 83

大野ガ原開拓団 岩倉 政治 84～109

読者だより 向山宏／荒井勇／三原タケシ／

若林頼／本多延嘉／斎藤清／あきら・みえ／

鈴木和男／杉本二郎／塔編集部／糸川健一／

飯田実治／岡田芳彦／藤原仲次郎／栗田がん

／牧子実／山本洋助／倉岡純一／笹井徹／杉

山秀男 109～112

編集あとがき A (113)

原稿募集 (113)

本文カット 新居広治 其他

第三巻第四号 一九五二(昭和二七)年四月一日

表紙 子供の顔 レオナルド・ダヴィンチ

目次カット 滝平 二郎

人民文学基金カンパ／『人民文学』事務局日誌 前付1

多喜二を思う 東京の多喜二祭

(*前記) 編集部 1

屍を越えて進め 大山 郁夫 1～3

外にも大ぜいいる 中島 健蔵 3～4

九十九里海区 第二回 金親 清 5～16

(*画) 中原 保男 5・12

学生の詩集を出そう——全日本学生詩集について 16

ある労働者の一日 小島 進 17～24

(*画) 山崎 郷 17・21

駅まで 小沢 清 25～28

(*画) 山崎 郷 25・27

原稿をつのる 斎藤 隆介 29～32

童話 八郎 中原 保男 29

(*画) 冬芽 武田 久 32

国民解放の文学 島田 政雄 33～41

日本人はすぐれた国民だ！ コージン氏は語る 42～43

大衆は雑草ではない 「日本人労働者」によせ

て 徳永 直 44～48

スターリン・メッセージへの感想

詩——サカイ・トクゾー／鈴木茂正選 49

新村猛／貴司山治

ひさかたぶりの手紙——アジアは互にたたか

わず どの・よしのぶ 50〜53

のぶ、おまえのはじめての仕事に

マキ・タカシ 53〜54

新しい芽 まき・あきら 54〜55

そのひとはおあいなさらぬ 岩田 清 55〜56

おれたちはやっぱり坑夫だ 岡本 重吉 56

真理の探究——レオナルド・ダヴィンチの絵に

ついて 内田 巖 57〜59

「アンナ」(部分画) レオナルド

啄木祭のために 59

日本の人民作家(Ⅱ) 石川啄木 渡辺 順三 60〜64

俳句——高橋星河選 上坂くにお/小村弘/

山田源太郎/玉木葉月/音無庵/北村透一/

平島静子/ほんだ・たつんど/白石笛男 65〜66

選者吟/選後評 高橋 星河 65〜66

おことわり 編集部 66

文芸時評 作家は変わりつつある——3月号の諸

作品について 除村吉太郎 67〜73

川柳——石原青竜刀選 山田悦哉/赤形直吉

/福田小猫/平井立茶/仲野酢素 73

選者吟/選評 石原青竜刀 73〜74

町から村から

師走——三越のスト 松本 正幸 75〜78

B 29が墜ちた 星野 虎夫 78〜80

短歌 三人 南 沼夫 80

「人民文学」の財政白書——こんなに苦しいの

です 事務局財政部 81

短歌——渡辺順三選

雪 関 英一 82

共稼ぎ 加茂 六郎 82

(*無題) 小松三千夫/あかい・いし/小

村弘/植松和人/芝野正男/古野雅美/小

川達彦/山村民男/姜喜鉄/長谷川とし子

/牧健介/佐伯わかえ/須々木誠一/民庄

太郎/さいとう・ゆき 82〜83

選後評 渡辺 順三 83

宮乃君の文章に関して 藤森 成吉 84〜85

晩年の木下尚江氏 福島 要一 85

国民楽版

ちよつと三行／青春航路／新々々炭坑節／か

えしやんせ

反戦トンコ節

古川 明子

86
87

文化国

大牟田風流グループ

87

時事川柳

松本 亨

87

Pさん——落花狼藉の巻

呉 隆

88
87

ルポルタージュ ある日の国会

まつやま・ふみお

88
87

(*画)

文化短信

松田 解子

97

地底の人々(第二部)

大野 碌

98
110

(*画)

新刊紹介

赤木 健介

110

読者だより

石田仁／今井正／村上十吉／香

川一彦／須々木誠一／丸山三郎／あきら・み

え／南昌三／荒井勇

111
112

編集あとがき

A

(113)

原稿募集

(113)

第三巻第五号 一九五二(昭和二七)年五月一日

表紙 ブルガリアのメーデー

目次カット

藤尾龍四郎

(第四回発表) 人民文学基金カンパ (四月八日

までの分)

事務局 前付1

ルポルタージュ特集

暗夜を衝いて 二・二二反植民地デーの記録

むらた・ひろし 2
7

(*画)

銀杏並木に自治の旗を——東大警察手帳事件

箕田源二郎 2
5

東大文学研究会

8
18

(*画)

軍事スパイとは何か——柴又事件軍事裁判傍

中原 保男 8
11
14

聴記

石井 藤子 19
22

練馬の表情——印藤巡查殺し事件をめぐつて

塩川 潔 23
27

(*画)

現地報告 北海道十勝沖地震のあと

中原 保男 23
25

8
11
14

19
22

23
27

23
25

現地からのたより	村山 学	28	～	32
ダムに挑む人々	窪田節次郎	32	～	33
青年の植民地化反対の闘を全国民、全世界に知らせよう	原 修	34	～	48
(*短歌)		18		
座りこみ斗争	柏木 源蔵	22		
春分の日	前田喜美子	22		
俳句 身辺	陣ノ内 鎮	48		
メーデー随筆				
三つのメーデー	山田順太郎	49	～	51
メーデー今と昔	富岡 隆	51	～	55
新刊紹介		55		
太陽の旗	メーデーをたたえよ			
マヤコーフスキー、うさみなおき訳		56	～	57
労働者文学の前進 「日本人労働者」は反帝、労働者作品である	真崎 一男	58	～	70
文化短信		70		
啄木の歌と農村	大木 石子	71		
短歌——渡辺順三選				
(*無題)	荒井勇/野口彰一	72		
弾圧法反対講演会	サト・ヨシロー	72		
(*無題)	有賀 清己	72		
松川の兄弟に捧げる	池上 徳三	72		
(*無題)	小松三千夫	72		
街頭で	関 英一	72		
国際婦人デーを祝う	内野由輝男	72		
(*無題)	今井 哲郎	72		
誓いの日	松山みどり	73		
(*無題)	須々木誠一	73		
機織りのうた	鈴木 幸子	73		
(*無題)	松本正幸/さいとう・ゆき	73		
選後評	渡辺 順三	73		
フアデエエフはどのように	若き親衛隊			
をかきかえたか	岩上 順一	74	～	77
ハワード・ファースト	自由の道			
について	林 二郎	77	～	80
破壊防止法治維法復活	大牟田風流グループ	80		
白人ギヤング		80		
文芸時評 私小説について——四月号の雑誌か				

ら
山岸 外史 81 ~ 86

詩
ひとこと
今井 隆 87

国民の告発状
真谷 幸介 87 ~ 88

時事詩 射殺された白鳥警備隊長
朝香 進一 88 ~ 89

時事詩集
ほんだ・たつんど 89 ~ 90

玄海の風ふく屑鉄圧縮職場
池田虎之助 90 ~ 91

こん棒にささげる
うさみなおき 91

鳥追いうた
三輪 民吉 91

人文の詩作品(選評と回顧)
サカイ・トクゾウ 92

自由な広場
編 集 部 93

(*前記)
私はこう考える——血液のついた実印
岩藤 雪夫 93 ~ 95

作家にのぞむ——作品をもって組織せよ
津田 孝 95 ~ 96

紙芝居が出来るまで——「高崎五万石」製作
酒井 真右 96 ~ 98

委員会

大野ガ原開拓団をよんで
榎本 春吉 98 ~ 99

サークル誌紹介(1)(2)(3)(4)
99・107・120・128

俳句——古沢太穂選
大森ひろし 100

(*無題)
おりもの女工
豊田 操 100 ~ 101

(*無題)
古茂田喜一／丹田一／古田弘／本多竜人
古沢 太穂 100 ~ 101

感想
国民娯楽版
東 八郎 102

いざ独立の一步を！(*画)
東 八郎 102

新ヤットン節
三国 一 102

言論不自由の巻
102

街頭録音風景
102 ~ 103

替歌(モシモシカメヨの替歌) ムシモシ吉田
杉本 二郎 103

さん
杉本 二郎 103

新版いろは論語
天野 一夫 103

(*マンガ)
サークル作ろう育てよう 恋愛詩か思想詩か
103

——埼玉つぶやきのU君の手紙に答えて
安部 公房 104 ~ 107

安部 公房 104 ~ 107

サークル詩雑誌紹介 サークル向上の努力 104

九十九里海区(第三回) 金親 清 108

(*画) 中原 保男 108

新タマラン節 111

脱走——パンパンと兵士のものがたり 114

(*画) 香椎 敏衛 115

大野 碌 115

地底の人々(二部) 松田 解子 121

(*画) 桜井 陽司 121

121・124

編集あとがき A (129)

原稿募集 (129)

第三卷第六号 一九五二(昭和二七)年六月一日

表紙 藤尾龍四郎

(*グラフ構成) メーデーの様子 (2) (4)

(*詩) おれたちは忘れまい 5

独立への怒濤 人民広場血の弾圧

(*詩) 6

新緑にこだまする歌声 8

日本の独立と世界平和のために——一九五二 9

年メーデーへのあいさつ 清水幾太郎 9

みんな集れ!(会場で撒かれた詩) 10

人民広場へ!人民広場へ! 10

乙女へ 松田 解子 12

突破する力 13

(*短歌) あらい・いさむ 13

騷擾の罪はだれか? 某高校女子生徒の手記 16

断ちきられた鎖 18

民族の叫びを太鼓にこめて 山崎 達志 17

たちきられたくさりと血のかなしみ 殺され 22

た高橋正夫君にささげる 24

怒は炎ともえて 26

手にもたなかつた石 27

握りあう手 28

われらは勝利した 31

病院の廊下で 31

虐殺の午後——この目撃をわれらの斗いの糧 32

として 三浦 郁雄 33

文化人の声 深尾須磨子／秋田雨雀／赤岩

栄／丸木位里／布施辰治／馬島憫 34

爆発した占領への不満 世界各紙のメーデー

事件論調 35

これが大だまつていられるか 始めてメーデー

に参加して 松川 晴二 36
37

訪問記 警官に殺された近藤巨士君ひろし

石田 幹雄 38
41

(*短歌) 近藤アツ子 39

街の声職場の声

手錠をかけてなぐつて (被害者)

運送屋 41

警官の暴力に負けるな 植字工 41

自動車を焼かなければ クリーニング屋 41

時評 破防法と血のメーデー 伊豆 公夫 42
43

座談会 インテリゲンチヤへの期待——堀田善

衛氏をかこんで 小沢清／赤木健介／野間

宏／山岸外史／堀田善衛／徳永直／石井藤子

／藤田孝美 44
56

織工のおもい 糸野つぎ子 56

細菌戦に抗議する 赤痢菌の歌 河田 良三 57
60

労働者の国際連帯のために 北京の五月は晴れ

わたり——中国の兄弟たちに 岡田 芳彦 60
61

同志よあくまで斗え——「松川事件」の無実な

二十名の被告たちに 洪寧、サカイ・トクゾー訳 62
63

読書案内 「真空地帯」 野村 忠 64
65

「作家への手紙」 徳永 直 65
66

「人間のしるし」 野間 宏 66
67

俳句——古沢太穂選 68
69

(*無題) いしい・こう／手塚捨三／上坂くにお 68

松川事件の真相を讀みて 播磨 碩水 69

(*無題) 内野由輝男／平島静子 69

朝倉病院火の鳥俳句会詠草 陣ノ内鎮／岩沢

道子／石川清／古沢太穂／小谷ツヤ／柴田竜

雄／岩本みつ江／鶴見三郎／小関芙美子／倉

上二郎／浜田矯太郎／海上とし子／当山青波

／仁科一路 68
69

選後寸評 古沢 太穂 68 ~ 69

川柳——石原青竜刀選 平井立茶／須々木誠

一／阿部義治／鈴木信／小沢とおる 70 ~ 71

選者吟／選評 石原青竜刀 70 ~ 71

文芸時評 現実にふれた作品の群——五月号の

作品について 西尾 章 72 ~ 76

国土 古沢 太穂 76

川柳 渡辺 順三 93

自由な広場

(*前記) 編集部 77

最終判決の後で 春日 正一 77 ~ 79

小説「淵」について——部落問題に対する正

しい理解を 土方 鉄 79 ~ 81

『犬と泥坊』などに関して藤森さんへ

宮乃宇良夫 81 ~ 83

批判に答える 藤森 成吉 83 ~ 84

編集部から 編集部 84

盃の話 松原 健二 85 ~ 91

文化短信 91

連載マンガ ブンサン メーデーの巻

三町 半左 91

短歌——渡辺順三選 大野健一／関英一／お

おつか・まさこ／林美子／岩田恒雄／二宮豊

／金田明夫／吉村タツエ／河野貞子／小松三

千夫／梅田正／玉置風子／荒井勇／野口彰／

万能鉄次郎／須々木誠一／浅野純一／立花宗

夫／渡辺進司／村井琢美／北川昭夫 92 ~ 93

選後評 渡辺 順三 93

芸術の効果ということ——新日本文学会の討論

にふれて 滝崎安之助 94 ~ 99

農民小唄 ッやらざなるまい 牧 健介 99

国民ごらくばん

日本独立放送局 100

人民都々逸／人民小唄 石橋 二郎 100

こんなところまで来るやつら 東 八郎 101

時局短歌 石橋 二郎 101

読者だより 住谷春也／赤間勝美／徳永直／

呉林俊／荒井勇／阿部義治／有馬文武 102 ~ 103

カット 元田 斗志 102

短歌 病院から——獄の同志をおもう

さいとう・ゆき

民族解放の歌

1

俳句 二十三回メーデー

潮田 春苑

生命記

高橋 正夫

2
11

春浅き夜

斎藤 利雄

心から (*詩)

2

(*画)

山崎 郷

高橋君のこと

青木 修三

4
5

山の上

むらやま・たかし

12

人民文学基金カンパ (第五回発表)

事務局

雀の宮 予備隊風景

江口 渙

13
20

事務

(*画)

小口 一郎

13
20

九十九里海区 (第四回)

金親 清

金親清詩集「永遠の凱歌」の読者に!

金親 清

20

(*画)

中原 保男

第二の詩歌集「平和のうたごえ」に作品を募る

20

118
123
125
127

編集あとがき

A (133)

底に敵意をひめて——富士山麓軍事基地

20

原稿募集

(133)

駿河 三郎

21
24

カット

箕田源二郎 / 大野 碌

富士山を返せ

編集部

21

銃声とどろく大津橋事件——名大生十名検挙の

21

第三卷第七号

一九五二 (昭和二七) 年七月一日

真相

名古屋学生救援会

25
30

鉦山の人たち

山川 亮

31
37

表紙

藤尾龍四郎

(*画)

大野 碌

31
35

ミンゾクカイホーカ / 人民文学基金カンパ

国民文学の統一戦線について 蔵原惟人氏批判

31

(第六回発表)

前付 1

赤木 健介

38
47

目次カット

新居 広治

国際文学通信 山脈や海原を越えて——「妻よ

ねむれ」と小林多喜二研究

編集部/V・ヒルスカ、栗栖継訳/徳永直 48〜49

時評 偉大な五月一日——菊池章一「独立の証

言」などの考え方 夏川 令三 50〜52

アジアにひろがる民族解放の文学

まつだ・あきら/宮崎ひろし 53〜63

アジアに平和を！——アジア太平洋平和会議へ

の期待 編集部 53〜56

中華全国文学芸術連合会から人民文学社へ

短歌——渡辺順三選

野良にうたう 牧 健介 64

近づくメーデー 南 沼夫 64

京都白峰人民療養所にて 佐野 海三 64

(*無題) おおつ・まさこ 64

医療班 うた 田中 修三 64〜65

射撃音 小松三千夫 65

(*無題) 荒井勇/明野進 65

メーデー前夜祭 関 英一 65

(*無題) 大井一男/石沢武 65

選後評 渡辺 順三 65

俳句——古沢太穂選

(*無題)

本上靖夫/大田守/ほんだ・たつんど 66

サカイ・トクゾーに 山田源太郎 66

(*無題) 荒井勇/川崎徹/岩沢道子/山

崎朗/内野由輝男/浜田矯太郎/小関美美

子/山本厚則/上坂くにお/神山勝治/い

しかわみつお/谷九助 66〜67

感想 古沢 太穂 66〜67

ニュース 破防法とたたかう文学者 68〜70

労働者と文化人の結合を 梅崎 春生 68〜69

パブロ・ネルダー——平和と民族解放の詩人I 北 民彦 71〜73

きこりよ、目をさませ——その一節

パブロ・ネルダー 72〜73

全国に芽生えるサークル協議会 サークル通信 74〜75

文芸時評 ひたすら生活を掘りさげよう

石黒米治郎 76〜80

うちつづく夜に 片倉 照男 80

「人民文学」誌名改題 懸賞募集 81

詩

それでも座っているというのか——早大事

件一学生の詩

あの日を二度とくり返すな

タバタテル

82
83
84

一枚の札は

長谷川義二

84
86

ある少女えおくる歌

いぜき・みちお

86

青むしろ

ひの・まさし

86
87

おれらのメーデー——あるちいさな炭砦で

岡本 重吉

87
88

一本のボルト

深井三木夫

88

読書案内

「引力」

宇田 礼

89

天才への道

藤森 成吉

89
90

『ソヴェト文学史Ⅱ』

松田 解子

90

「死の谷を行く」

岩上 順一

91

「かもめ」と「私の人生論」

赤木 健介

91
92

れんさい ブンサン

三町 半左

93

国民ごらく版

親の仇

YYグループ

94

「富士山頂演習地化」ほか——「渦潮」より

94

「虫へん景気」ほか

(*コント)

墓穴を掘る

YYグループ

95

川柳

天野 一也

95

「借家問題続出」ほか

YYグループ

95

美術 平和美術展を見る

桑原 宏

96

地底の人々

松田 解子

97
105

(*画)

おばあさん——操短で帰郷して

桜井 陽司

97
100
103

連結手

高橋イツ子

105

(*画)

ひと足

松本 正幸

106
110

ひと足

大野 碌

106
109

(*画)

サカイ・トクゾー氏を救え!

熱田 五郎

111
123

九十九里海区

箕田源二郎

111
114
115
119

(*画)

編集あとがき

金親 清

124
128

原稿募集

中原 保男

A
124

(129)

第三卷第八号 一九五二（昭和二七）年八月一日

表紙 工場風景

藤尾龍四郎

目次カット

箕田源二郎

声明 破防法はできたが——たたかいはこれか

らだⅡ／小説・ルポルタージュ・評論コンク

ール

前付 1

グラビア

朝鮮／日本

国際写真通信提供

前付 2 ～ 前付 4

中国

日中友好協会提供

前付 5

平和音頭

小川 銑

1

祖国は斗いの中に 基地抵抗グループ座談会

伊藤一／田中政子／西村玲子／太田順治／乾

弘／佐藤文雄／原田利光／柴田一彦／編集部

2 ～ 11

「石つぶて」の詩の抜

10

神奈川で発行されたガリバン刷りの「日本人労

働者」の表紙版画

島 俊一

11

平和への発言

ら

中村梅之助

48 ～ 52

八月十五日

田宮 虎彦

12 ～ 13

前進座全同志諸君へ

中村翫右衛門

52 ～ 53

平凡な感想

木下 順二

13 ～ 14

平和のためのレジスタンス

淡 徳三郎

14 ～ 15

平和のための団結と斗いの日に——一九五二年

六月二十五日朝鮮解放戦争二周年記念東京大

会によせ

許 南麒

16 ～ 19

富士よ怒れ 富士山麓現地調査報告として

山岸 外史

20 ～ 32

富士

大野 加代

25

短歌 富士よ大和よ

赤木 健介

32

ひろしまその後 原爆からふたたび軍都へ

深川 宗俊

33 ～ 37

祝日本共産党三十週年

野木たかし

37

ゆらぐ銅山「足尾」

石野 健吉

38 ～ 42

(*前号訂正)

鋼鉄にいどむ——八幡製鉄の愛国斗争

石田 仁

43 ～ 47

た、かう前進座

朝香 進一

48 ～ 54

「俊寛」まかり通る 前進座北海道斗争の中か

ら

中村梅之助

48 ～ 52

抗議送り先 告発者

映画になる「真空地帯」

多摩川畔の大平和まつり

講座 文学における言葉について

詩

愛

反抗——福岡県高松一坑

臨時工のうた

みどりの学園よ

時代小説 渡良瀬川の義人(第一部) 逆流に竿

さすもの

(*画)

破防法粉碎 反ファッショ「文化の夕」への弾圧

声明

いやでも人目ひく青かぶと

弾圧の路上にて

スケッチ

宝塚紀行

おかみさんの死

全国学生詩集について

初夏

国民ごらく版

ごぞんじかえ歌コンクール

国民ごらく版応募規定

川柳

俳句——古沢太穂選

健介／小川三郎／山田源太郎／鳳真治／海野

孺子／佐野節子／中沢勇／平井立茶／大井四

郎／神山勝治

選後に

短歌——渡辺順三選

マヤコフスキーの顔

獄窓

(*無題)

牧健介／鈴木幸子／渡辺進司／

牧喜美子／関英一

喫茶商売

六尺の床に

高橋・近藤両君に捧ぐ

88

89

90

91

90

91

91

93

93

93

93

94

94

94

94

94

95

95

95

95

池田 久子

養 志

おくはら・かねお／牧

古沢 太穂

赤石 甚三

中西 次郎

林 美子

引地 正美

荒井 勇

渡辺 順三

選評

渡辺 順三

渡辺 順三

渡辺 順三

渡辺 順三

渡辺 順三

渡辺 順三

渡辺 順三

渡辺 順三

二つの反戦文学——『真空地帯』と『野火』に

ついて

滝崎安之助 96

ウズベクの娘

山田清三郎 101

(*画)

おおの・ろく 101・104

川柳

三 太 103

唇に歌を掌に怒りを

津々美真一郎 108

おつ母ア

高田 糸子 110

梅雨

長淵 芳麿 110

続 大野ガ原開拓団

岩倉 政治 111

(*画)

箕田源二郎 111

人民文学基金カンパ (第七回発表)

111・114

原稿はこんな風に書いてください——投稿される方たちへ

114

編集後記

115・120・124

第三卷第九号

125

一九五二(昭和二七)年九月一日

表紙 ガラス工場

中野 秀人

目次カット

スズキ・ケンジ

平和音頭／民族解放の歌

小川銑作詞、須藤五郎作曲 前付 1

扉絵 栃木の平和うちわ

スズキ・ケンジ 1

指からこぼれる砂であってはならない——アジ

ア太平洋平和会議にさいして平和をのぞむす

べての友と誓う

人民文学社 2

アジア太平洋平和会議のために

平和の鳩とともにモスクワから北京へ 旅行

見聞記 松山 繁 4

「全面講和条約」調印のチャンス 九月・北

京でひらかれるアジア太平洋平和会議

ある午後よろこび——在中国の同胞の便り 福島 要一 18

祝日本共産党創立30周年 徳田書記長に捧げる

伊藤吉太郎 20

祝日本共産党創立30周年 徳田書記長に捧げる

三国 一 22

シユピレッツヒコール 北撰の炎

人民文学大阪友の会 24

国民文学について 野間 宏 26

政治決戦の秋——さきごろの私の体験から、来

35

るべき総選挙のために 新島 繁 36 ~ 40

危機に立つ祖国 ジヤツク・デユクロに

講座 叙事詩のつくり方 許 南麒 69 ~ 72

ルイ・アラゴン、小内原文雄訳 41 ~ 44

家具屋のエエナさん 独立記念日の巻

はやし・かずお 73 ~ 83

民話について 荒 正人 45 ~ 50

(*画) 大沢 三太

予告 増頁刊行 50

詩

いつまでもくるしみがつづくのではない

第六回職場美術展覧会をみて 林 文雄 84 ~ 85
諷刺と文学について——k工場の友に まつしま・えいいち 73 ~ 76 ~ 77 ~ 80 ~ 81

陳 孝敬 51

ぶた——帝国主義者に 金 就楫 52

「総評」大会が教えるもの 中原 淳吉 92 ~ 96

小さくとも正しいものはつぶれない

一九五二・五・三〇——田村一郎氏からの手紙

陳 孝敬 52

樋口 武和 97 ~ 103

スパンはこわれた

短歌——渡辺順三選

身体を鍛えておけ 武田 久 54

許南麒氏の話から 関 英一 104

私は信じる 強いあなたを (妻の詩)

(*無題) 本沢養志 / マツダアキラ / 佐伯

さきのかずこ 54 ~ 55

わかえ / ごとう・ひさお / 林美子 / 鳩雅美

妻にこたえる 獄中から (夫の詩)

／小松三千夫 / 荒井勇 / 金田明夫 / サト・

さきの・もりあき 55

ヨシロー / 大井四郎 / 椿一郎 / 佐々木悦子

続 大野ガ原開拓団 岩倉 政治 56 ~ 68

／朝香頭二郎 / 坂正之助

(*画) 箕田源二郎 56 ~ 64

選後評 渡辺 順三 104 ~ 105

サークル調査について 68

九十九里海区 (第六回) 金親 清 106 ~ 113

小説 ルポルターージュ 評論 コンクール 109

「原爆の子」の映画完成！ 111

おわび 113

オリンピックをめぐつての二つの問題 114

古川 宏 114

本田昇、赤間勝美の両君をオリンピックの競歩

選手に推せんする——驚異的世界記録で優勝

确实 114

れんさいマンガ ブンサン 三町 半左 115

国民ごらく版

オリンピック精神ほか YY同人 116

川柳 隆 117

新作輸入 屯 子 117

住民登録 亘 117

総司令部移転 貧 男 117

通商 吞 117

君知りたまうことなかれ 吞木 呆天 117

小説合評 最近の小説欄から

野間宏／岩上順一／高橋元弘 118

「たたかいをこらすもの」映画に 126

反戦権利擁護青年大会 127

サークル誌を送って下さい (128)

編集あとがき (128)

第三卷第一〇号 一九五二(昭和二七)年一〇月一日

表紙 藤尾龍四郎

目次カット スズキ・ケンジ

アジア及太平洋平和会議日本準備委員会 転交

日本文化・文学・芸術各界の諸友人え

中華全国文学芸術界連合会 前付1

人民文学基金カンパ 第七回発表 前付1

座談会 日本文学の中心課題は何か 安部公

房／梅崎春生／新島繁／猪野謙二／西郷信綱 1～15

愛国と売国のたたかいの中で 人民文学社 16～17

日本人民への公開状 アジア・太平洋会議開催

をまえに 郭 沫若 18～24

読書案内

『ゲリラ』 松田 解子 24

『新中国の基礎知識』 野口 肇 49

『ことごとくの声あげて歌え』 野間 宏 68

『白頭山』 花岡 次郎 68

『声なきバリケード』 松田 解子 69

再軍備と国民精神 滝崎安之助 25

医療班の歌(その二) 田中 修三 28

前進座だより 29

総選挙に際して文学者文化人労働市民に訴える

人民文学編集委員会 30

ずいひつ 選挙区 伊豆 公夫 32

平和のうたげ アジア太平洋地域平和会議開か

る——文学者三代表を派遣 33

国民文学の発展方向——論議から運動へ

新島 繁 34

お詫び 38

国民文学の一試石 巨済島

神山彰一解説、許南麒詩 39

文学関係の立候補者にカンパを! 43

徳永直の小説について——ソヴェト文学一月号

掲載の批評 イー・ルヴォヴァ／宮木春也訳 44

俳句——古沢太穂選 49

人間の歌 福田 穂 50

(*無題) かしはら・かずを 50

夏の夜 関 英一 50

(*無題) 山田源太郎 50

感想 古沢 太穂 50

詩 自由な時間(獄中で三カ月目に) まえだこおいち 51

日本の旗 椿 正康 52

警鐘を乱打せよ 中村 信司 53

掌の歌ふたつ(夫え) ヨーコ・オートリ 54

掌の歌ふたつ(妻え) 鳳 真治 54

選後に K 55

短歌——渡辺順三選

病床に高良とみさんを迎える 大照八重子 56

あらそい 泉 ふか子 56

メーデー特集アサヒグラフ 元口 三吉 56

弾圧の夜 荒井 勇 56

乾燥室 小松三千夫 56

「原爆の乙女」録音ニュース おおつ・まさこ 57

57

(*無題) まき・のりこ／木村成敏／太田

義久／美那川順一 57

選後評 渡辺 順三 57

人間をかくことについて 徳永 直 58

映画トピック 63

サークル 国民的な文学の創造をめざして――

北海道文学者集団発足す 64

サークル、そして集団 名古屋、大阪、北海道

の詩の動き サカイ 64

レトリック・トリック 岡 亮太郎 67

コンクール 小説・評論・ルポルタージュ 69

映画 その声をたやすな――「原爆の子」を見

たあとで 加藤 佳郎 70

童話 駅長とカメ 半田 義之 72

(*画) 遠藤てるよ 72

二人の見たもの(一幕) 藤森 成吉 80

「文連協」を結成 87

続 大野ヶ原開拓団 岩倉 政治 88

(*画) みたげんじろう 88

どかつしゃん(日雇い) 須間 純 99

俳句 五・三〇 いしし・こう 105

何処へ 香椎 敏衛 106

人民文学合本出来! 人民文学社 113

読者だより 山川亨／柚木衆三／とくいさお

最近の小説欄から 小説合評(2) 121

／桜井清助／斎藤隆介／丹治芳郎 122

短信 高橋元弘／野間宏／岩上順一 123

編集あとがき 128

(129)

第三卷第一号 一九五二(昭和二七)年一月一日

表紙 新居 広治

目次カット 鈴木 賢二

芸術コンクールや作品交換で促進 アジア太平

洋平和会議文化交流にかんする決議 4

原稿募集 小説・評論・ルポ 人民文学編集部 4

もつと謙遜に 同志デミアン(同志ベードヌイ

への手紙の抜萃)

イ・スターリン、清水邦生記 6 ~ 10

スターリンのベードヌイへの手紙について

除村吉太郎 11 ~ 13

実践と創作のために

最近の創作論について——実践と創作の環

野間 宏 14 ~ 18

集団と個人

江口 寛 19 ~ 22

文化集団と創作

林 尚男 23 ~ 25

国民文学私論

杉浦 明平 26 ~ 34 · 45

なかまたちよ、今日もまた……——9月のサー

クル誌・投稿作品から（*詩） 35 ~ 45

ハリツケにされた祖国 35 ~ 45

砂ひとにぎり放すもんか

米田 登 35 ~ 36

ドレイ食——軍事基地羽田

無名氏 36 ~ 37

この美しい花の咲くかぎり

職業安定所 石 二 38 ~ 39

もう一度その旗を持たせてくれ 民 庄太郎 39

うすば 八目女 十 39 ~ 40

こいびとよ 磯村 英樹 40

堤を渡る五月の風が——東北毛織金町工場

と他の多くの日本中の東北毛織に

阿部 文勇 40

歌ごえはますますたかく

警察予備隊朝鮮出兵 甲 吉 41 ~ 42

四四番の母 メーデー被告荒川署四四番 43 ~ 44

歌 江木タツミ 44

外国文学通信 アメリカ K 45

基地工作隊——ある隊員の報告から

文章 五 46 ~ 56

川柳——石原青竜刀選

白石笛太郎／奥田武／神沢知義／青柳照夫 57

選評／近作 石原青竜刀 57

雑誌「自由の旗のもとに」批判 看板は正直で

あつてほしい 遠山 茂樹 58 ~ 59

チャリィ・チャプリンの芸術 乾 孝 59 ~ 60

喜シリアル児ものがたり白毛女 安藤彦太郎 61 ~ 63

文芸時評 人間との対決 広末 保 64 ~ 68

魯迅芸術学院について 宮崎ひろし 69 ~ 76

日本の皆さんに アジア太平洋平和会議よりあ
いさつ 中村翫右衛門 77

在中国の同胞よりの便り 伊藤吉太郎／中山

亮一／伊藤吉太郎／伊藤登美子 78
81

読者のみなさんへ！ 81

座談会 文学と思想の改造

神山彰一／入江つとむ／野間宏／広末保 82
97

人民文学 12月号予告 97

絵ものがたり 真空地帯 野間宏原作、さか

ざきつねろう文、みずさわひろし絵 98
105

読書案内

アメリカ アメリカ人 藤川 健夫 106
107

日本 文学の探求 石黒米治郎 107
108

日本 静かなる山々 能智 愛子 108
109

中国 阿Q正伝 宇田 礼 109

人民文学 合本 熊王 徳平 110
132

生れかわつた男 熊王 徳平 110
132

詩を書いて全国民に訴えよう！ 国民救援会か

ら 132

俳句——古沢太穂選

(*無題) 白石 笛男 133

独房の中で ワタナベ・ゲンゾー 133

(*無題) 山口与七／みやもと・きだお／

猪野健治／神沢知義／山田源太郎／青柳昭

夫 133

選後に 古沢 太穂 133

短歌——渡辺順三選

獄房にて 野村 欣治 134

(*無題) 堀田浩／あつし・こじおー／鈴木和夫 134

独房の中で(保釈の同志を送る)

ワタナベ・ゲンゾー 135

国辱記念国民大会より 関 英一 135

蚤の歌 田中 修三 135

ニューギニアで殺された弟を想つて

中西 次郎 135

(*無題) 林 美子 135

農民のうた 西山 正男 135

人民広場へ！ 神沢ともよし 135

基地のメーデー 赤形 直吉 135

短歌選評

渡辺 順三

134

再婚

ましま・てつじ

136

おねがい

編集部

143

落日の子

古野 雅美

144

山を守る人々

輝旗 信治

158

蠅とレジスタンス

岡本 勉

168

山林労務者

あさはら・こうじ

178

編集あとがき

(189)

第三巻第一二号

一九五二(昭和二七)年二月一日

表紙 北多摩の冬

藤尾龍四郎

詩の国民運動を起そう——「人民文学」創刊二

周年にあたって

「人民文学」詩委員会

(1)

鹿地亘を救え!

人民文学編集部

(4)

『人民文学』当面の課題——創刊二週年にあ

つて

編集部

6

徳永直作家と作品

「静かなる山々」によせて——党員作家のあ

りかた

木曾 弥市

8

事実と小説——静かなる山々現地調査(編集

部記者)

林尚男/東竹雄

13

「静かなる山々」をめぐるつて

安部 公房

21

歌の道と党の道と

小関 茂

26

現実を書くということ——人民文学十月号所載

「何処へ」に関して

津々美真一郎

29

外国文学通信 イギリス

K

30

明日のサークルのために

詩人集団の組織と創作(抄)——新潟詩のな

かまの一年の運動の中から 真谷 幸介

31

新しい人間像をどうえがくか——徳永直氏の

論文にたいする意見

東京南部文芸工作者集団、古川宏

34

読者のたより 一読者/並木ひでお/徳永/

五島武雄/脇田道保/編集部

40

『人民文学』を農村へ送ろう

編集部

41

読書案内 レ・コミニスト

目に見えない目——岐阜第二区をめぐるつて

栗林 農夫

43

新しい経験——候補者の報告 伊豆 公夫 46～49
 文化と野蛮人——アジア平和会議の演説から 李 泰俊 50～51

許南麒と叙事詩——詩集「巨済島」を論ず 安東 次男 52～57

十二月詩集

あけ方に、地下の人をおもつて 岩田ようこ 58
 私は看護婦です 松江大衆診療所一所員 59～60
 同志 渡辺に 増子 正司 60

あの人 安豊 定子 60～61

夕刊売り 石川 冬子 61～62
 風景 浜口 国雄 62～63
 ケンジとサワコ 岩井 哲郎 63～64

あの旗をおろして下さい——再び国旗の上る

日に 林 影 64
 起床ラッパ もとね・しろう 64～65

あの人 小野 友吉 65～66
 同志はねらわれている 朴 準熙 66

エタのうた 高市 実 66～68
 サークル投稿 試作品合評

赤木健介／花岡次郎／東竹雄

国民文学の発展方向(二)——論議から運動へ 68～73・49

回顧日本映画の一カ年 いぬい・たかし 82～85

国民文学の課題——フランスの場合 新島 繁 74～81
 ある朝鮮人の話 小林 勝 86～98

明日へ 黒井 力 99～124
 人民文学新年号予告 樋口 武和 124

全滅 戯曲 島の人々 一幕 鄭 泰裕 137～147
 流人(るにん) 江馬なかし 148～180

編集後記 大野 碌 (181)

カット カット

第四巻第一号 一九五三(昭和二八)年一月一日

表紙 鮭 桜井 陽司

目次カット 滝平 二郎

私は訴える (全文)

鹿地 亘 (6)

平和の巨歩——北京からウィーンへ

引越しそば

小林 勝 8 / 15

花岡 次郎 103 / 107

そえがき

徳永 直 15

揚子江上の歌

松山 繁 108 / 110

詩集「祖国を愛し、あなたを愛す」——「平和

のうたごえ」第二集刊行

編集委員会

山はおれたちの故郷——日炭高松たより

西山 勝己 111 / 113

「平和のうたごえ」

短歌——渡辺順三選

北清掃車 29

池田誠治郎 16 / 37

朝鮮の闘い——雑誌「平和」増刊号をよんで

表紙応募作品中間報告

細井 勇 37

荒井 勇 114

師走 (*表紙絵紹介)

西山 梅雄 38 / 43

故郷有情

金田 明夫 114

晩酌

いぜき・みちお 43

(*無題)

四元 桂子 114

十二月十二日

高玉宝、宮崎ひろし 44 / 52

妻の座

新山 光子 114 / 115

村の泣声

鈴木信 / 浜崎二雄 52

ビラ刷り

林 美子 115

松川だより

岩倉 政治 53 / 74

(*無題)

五島武雄 / 大堀勝

続 大野ヶ原開拓団 完結篇

箕田源二郎 54 / 60 / 70

原爆写真展

泉沢 俊 114

(*画)

おもかげ

(*無題)

まつだあきら 114 / 115

相馬が原基地農村ルポルタージュ

その人たち

登記所から

田中 修三 115

の怒り

相馬よし子 75 / 87

選後評

関 英一 115

流人 (第二回)

江馬なかし 88 / 102

メーデー公判と「静かなる山々」によせて

渡辺 順三 115

住所変更

102

松田 解子 116 / 122

外国文学通信 中国——最近の日本の文学運動

について 122

黒人の血の一滴 菊池 謙一 123
128

人民文学2月号予告〈労農詩歌運動特集〉 128

俳句——古沢太穂選 海野孺子／松野進／ワ

タナベゲンゾー／大堀勝／白石笛男／山田源

太郎／小林英次／東武雄 129

感想 古沢 太穂 129

兵士作家高玉宝の物語 石川 文子 130
131

文化の最低線から 石川 湧 132

読書案内 占領下の日本 森 武郎 132

作品評 「何処へ」について 岩上 順一 133
135

国民からはなれて何処へ 三木比呂志 135
137

生きる文学を (＊案内) 137

もうこんな石を抱くまい——一月詩集 137

一つの石のものがたり 138
139

「お茶の水」駅前 古林 尚 139
140

死んだらあかんと言うのに ほうじよてるお 140
141

セーター 石本かずえ 141
142

火炎ビン——A君I君T君S君にささぐ

井上 俊夫 142

パン喰い競走 榎 新太郎 142
143

あの音——新中国建国三周年によせて

北 輝男 143

一つの花輪をあむために——獄中で闘う北京

メーカー日本代表団に捧ぐ

ひやまえたろう 144

たたかいのかけに 北原 れい 144
145

板金工 加川 治良 146

作品と読者——一月詩集詩作品評 人民文学詩委員会 146
148

作家の立場から 「静かなる山々」について

武田 泰淳 149
151

多喜二祭を準備しよう 「人民文学」編集部 151

『なぜ書けぬか?』の問題 徳永 直 152
158

労働者作家の成長によせて——文学大衆コース

におけるひとつの根本問題 神山 彰一 159
167

映画『真空地帯』をみて S/U/J/M 167

日本の近代文学史 その一

日本近代文学史研究会、草部典一 168 ~ 176
外国文学通信 アメリカにおける書物の斗い 木島 始 177

読者だより 化学太郎 / 人文大阪友の会 / 杉

山秀男 / 松沢政治 / 栗田巖 / 岡本潤 / 淵脇巧

／一老人 / 高橋良三 / 日向仁治太 / 荒川署四

四号 / S・U 178 ~ 181

獄中から 小林 勝 182

編集あとがき U (183)

カット 箕田源二郎 / 山崎郷 / 大野碌 / 鈴木

賢二 / 及川とおる

第四卷第二号 一九五三(昭和二八)年二月一日

表紙 北国の街 中谷 泰

啄木祭の準備を始めよう / お礼 (3)

目次カット 新居 広治

人民文学 基金カンパ (第八回発表) (6)

小林多喜二小論

多喜二研究会、除村吉太郎 / 岩上順一 8 ~ 14

多喜二についての感想 春川 鉄男 15 ~ 16
多喜二の死——やがて輝く旗を信じて いその・ありひで 17 ~ 19

人民文学詩委員会より 人文詩委員会 19

アンドレ・スチールは批判する

レエジイ・ベルジュロン、小内原文雄抄訳 20 ~ 22

クロードロワのアンドレ・スチールへの献辞 小内原文雄抄訳 23

叙事詩 松川事件 千代田詩人集団共同創作 25 ~ 38

松川ニュース

特集 労働者の詩について 深尾須磨子 39 ~ 40

労働者の詩について 深尾須磨子 39 ~ 40

詩はすべてのひとによつてつくられなければ 大島 博光 40 ~ 41

ならぬ 中野 秀人 42 ~ 43

詩の前衛的役割 中野 秀人 42 ~ 43

コスモポリタニズムに対する斗い 関根 弘 43 ~ 45

詩の調子とコトバ 岡本 潤 45 ~ 46

反戦平和と詩作 高島 洋 47 ~ 48

ゆるぎなき精神の秩序 小野十三郎 48 ~ 49

体験の質	野間 宏	49	51
若い元気な詩人との三日間(詩作問答)	サカイトクゾー	52	55
人民文学合本	人民文学社	41	
人民文学3月号予告		55	
すがすがしい大気	ポール・エリユール、木島始	56	
エリユールの死を悼んで	木島 始	57	
風よ 伝えよ	林和、許南麒	58	59
大堰河 ^{ダイエンカ} わたしのうば	艾青 ^{アイチン} 、宇田礼	60	62
海外文学通信	U	62	
一人の労働者と詩——詩が書けなくなつたとい	福田 律郎	63	67
うこと			
国鉄とその詩人たち——産業別労働組合めぐり	赤木 健介	68	73
(1)			
文学新年会お知らせ		73	
同人誌 詩人の抵抗	須藤 伸一	74	79
座談会 職場と詩	石垣りん子／岡亮太郎／		
鶉飼札子／赤木健介／許南麒		80	90
2月詩集			
アメリカ兵	金 龍楫	91	
ゆきずりの兄弟へ	萩原 花子	91	92
風景	高島 洋	92	93
小さな要求	谷川みどり	93	94
二年はいているズツクぐつ	西 杉夫	94	
十円位でドレイになれるか	江藤 徹	95	
寒い風景	石田ゆたか	96	
真紅のカーネーション	くわむら・こう	96	
恨む二九度線	海野なるみ	97	
君、めざしよ	井之川 巨	97	98
党本部の屋根の赤旗	片羽登呂平	98	
俳句——古沢太穂選	海野岩雄／三竹柁／白		
石笛男／岩沢道子／倉上二郎／山田源太郎／			
当山青波／紀賀良之／川崎徹／小室健一／勢			
登秀／渡辺宣民／桑山あき子／関英一／阿部			
よしはる／島田三郎／柴田竜雄／井上靖子			
感想	古沢 太穂	99	
短歌——渡辺順三選			
真夏のレクリエション	田中 修三	100	
(*無題)	くりたがん／林美子／やたただ		

あき／養輪喜作／中西次郎／マツダアキラ

／張朴基

100
～
101

マージレット・ライナー、藤川健夫訳
叙事詩「松川」制についての補

150
～
158

選後評

渡辺 順三

101

流人(三)

江馬なかし

159
～
179

子守唄について

境野みち子

102
～
104

読者だより

相原克允／本田実／山本憲親／

川柳——石原青竜刀選

白石笛太郎／奥田武

田原詩郎／松田優／阿部義治／田中正／松浦

／関英一／阿部義治／山草もゆる

保善／向山宏／松井重治／谷中修／岡村栄

180
～
182

近作／評

石原青竜刀

105

編集あとがき

H/U

(183)

時事問題 鹿地・炭労・電産

上杉 捨彦

106
～
109

四回の連絡

なわみちお／久野和

109

鹿地亘のこと

島田 政雄

110
～
111

座談会 映画「真空地帯」をめぐる

安部

表紙

内田 巖

公房／野間宏／真鍋呉夫／岩崎昶／戸石泰一

目次カット

飯島 俊一

／草野心平／岩上順一／青山光二

『人民文学』後援会の出資証券発行について

(6)

外国文学通信 イギリスの進歩的文学の動向

ルポルタージュ 炭鉱

藤森成吉／野間宏

藤川 健夫

118
～
119

「静かなる山々」プラウダで高く評価さる

怒りは根深く 北海道夕張炭砒

熱田 五郎

8
～
17

宮本百合子の生涯と文学

岩上 順一

120
～
127

常磐をささえるもの

松田 解子

18
～
29

日本の近代文学史Ⅱ

近代日本文学研究会

平山炭砒の激励デモ——嘉穂労組前広場で

基地の流れ(一)

春川 鉄男

134
～
149

鉱山のスケッチ(*絵と文)

小野 英

24

平和請願

箕田源二郎

30
～
33

ルポルターージュ 電産

若き電源労働者——伊那谷の電産闘争現地報

告

あるボイラーマン

雨のピケットライン

海外文学短信 朝鮮

「生産面をえがく」について

「ハコネ用水」論——日本の進歩的文学の力作

イ・リヴォヴァ、藤川健夫訳

イギリス映画産業は危機 ハリウッドに押され

特別寄稿 海も山も阻みえない——日本の「人

民文学」に寄せる 黄谷柳、島田政雄訳

平和の大河は小さな流れから

イリヤ・エレンブルグ、編集部記者訳

読書案内 中国の赤い星 松山 繁

社会時評 ことばの魔術 上杉 捨彦

のびのびと勉強し遊んでいる（瀋陽の日本人小

学校・日教組へ便り） 井上知恵子

松川だより 浜崎二雄／本田昇

三月詩集

わたしには出来ない

老婆

或る個室の療友に

失業

岩のくぼみの水たまり

人民文学詩委員会より

天プラ——とらわれている若者達のすべての

母へ

選後に 安東次男／岡亮太郎／こばやし・

つねお、東

日本の女（往復書簡）

山代巴さまへ

松田解子さま（第一信）

ふるさとを遠くはなれて

嫁とおならのはなし——民話のはなし

おれたちのくらし（詩と版画）

まえがき

ともだち

母の着物

堤 真砂

小松原 徹

井上 俊夫

中村 信司

椿 正康

人文詩委員会

戸塚署三十二番

安東次男／岡亮太郎／こばやし・

つねお、東

日本の女（往復書簡）

山代巴さまへ

松田 解子

山代 巴

中村翫右衛門

吉沢 和夫

おれたちのくらし（詩と版画）

まえがき

ともだち

母の着物

86

87

89

90

92

92

93

94

95

96

99

99

103

104

105

109

110

110

110

110

はくさいはこび

清野 進

110
111

巳／川原浩

144
147

こもり

たなべちさこ

110

代議員の娘

アンナ・ゼーガース、藤井透訳

148
159

友だち

いとうかつえい

111

地主の学校

加島 重作

160
174

いねかり

大竹 直子

111

基地の流れ(第二回)

春川 鉄男

175
182

おかあさん

いとうけんきち

111

編集あとがき

U／竹／H

(183)

人民の友とは——きだみのる氏と農民文学

文学の友の会・サークルを作ろう

(183)

岩倉 政治

112
115

カット 新居広治／大野碌／飯島俊一／山崎

糸を紡ぐ歌

福田 律郎

116
125

郷／箕田源二郎／小口一郎

原稿募集規定

125

共通の欲望

猪野 健治

126

第四巻第四号 一九五三(昭和二八)年四月一日

アメリカの女優

金田 明夫

126
127

月賦のラジオ

木村 落子

127

〈小説特集号〉

宮本百合子の生涯と文学(下)

岩上 順一

128
137

表紙

吉井 忠

予告 人民文学4月号 小説特集号

137

目次カット

新居 広治

日本の近代文学史Ⅲ 浪漫主義

『人民文学』後援会の出資証券発行について

日本近代文学史研究会

138
143

藤森成吉／野間宏

(6)

モスクワにて

岡田よし子

143

扉絵

小口 一郎

7

読者だより 長田時子／奥野竹治／岸佐千子

春の花輪

半田 義之

8
23

／田原詩郎／大塚キミコ／村上安正／岡村栄

文化短信 朝鮮人学校連合文化祭開かる

23

／半田義之／松村哲男／田中山五郎／牧下一

続家具屋のエエナさん 第二話 軍需道路をつ

くらせるなの巻	はやし・かずお	24	文学運動の方向	安部 公房	126
お断り／誤植訂正	編集部	39	在日朝鮮文学大会（報告）	朴 元俊	133
病舎抄	赤城さかえ	40	往復書簡 日本のお女（第二信）戸と敷居のこと	山代 巴	134
原稿募集規定		40			138
こそ泥棒	近藤 汎	41	明日のサークルのために	北条さなえ	139
世界平和の旗じるしスターリン		57	春の流れのように		141
人民文学編集委員会、徳永直		58	友達になることから——文学サークルの一年		141
時代小説 渡良瀬川の義人（第二部）そのあと	大谷 竹雄	60	をふりかえつて	水野 繁	141
につづくもの		74	こうして作った闘争詩集	小野 英	143
（*画）	山崎 郷	60	アンケート 編集部／石黒米治郎／斎藤隆介		145
キリストの洋服		62	／香椎敏衛／長部舜二郎／どい、よしのぶ／		146
基地の流れ（第三回）	木原 速夫	64	樋口武和／小林勝		149
サインをする話	春川 鉄男	75	浅草探訪（画入りルポ）	大野碌文、香椎敏衛	150
お知らせ 東京南部の「獄中の手紙、手記、詩集」について	徳永 直	89			151
		96			
		97	書評		
		106	屈原	北条さなえ	152
高貴な人達	李泰俊、朴元俊訳	107	ソヴェト文学史Ⅲ	赤木 健介	153
一番いい女 マーチン・アブザグ、藤井透訳		114	4月詩集		
薪伐り屋	佐々木 忠	115	夕暮れのうた	小林 勝	154
創作研究会お知らせ		125	公共職業安定所	ヤシロ・コイチ	157
		120			156
		125			

お母ちゃん——ヒロシマわ小川の多い街であ

つた 大阪 操 158 159

床芋 山田 真広 160

おつさん かのとおる 161 162

(*解説) どいよしのぶ 162

合評 安東次男/岡亮太郎/こばやしつね

お、花岡 編集部 163 164

御報告御案内 編集部 160

社会時評 日本人の日本 上杉 捨彦 165 168

愛するおれたちの線路 あかまかつみ 168

最近のコンクール応募作品について——五篇の

小説をよんで 松田 解子 169 171

綴子村からの便り(秋田県)

短歌——渡辺順三選 172 173

わが子 つくば・ひでお 172

交渉 本川 正 172 173

医療保護 吉田 博 173

脱穀の音 山花 陽香 173

留置所 浅野 行 173

古い早き父 大宮 健 173

惨虐 有本 牛彦 173

立太子式 きむら・しげとし 172

戦車上陸 まき・のりこ 172

母の顔 亀下てつし 172

メーデー公判に なごみ 172

選後評 渡辺 順三 173

メーデー公判傍聴記(第三組の第一回)

新島 繁 174 175 176 177 178 179 180

『地底の人々』出版にさいして 島田 政雄 176 177

密囚の日々(川崎T・Cにて) 鹿地 亘 178 179

まんが 加古 里子 180

読者だより 後藤洋/さねとうけいしゆう/

山屋寛子/佐藤和男/宮久入達夫/甲賀富士

雄/良永康一郎/染谷ひろし/入江澄夫/小

保方康年/野本達/黒木正彦/橋口清一 181 182

総選挙のための附録

アンケート 人民文学社/正木呉/井上正

蔵/柳田謙十郎/岡本潤/小田切秀雄/竹

内好/玉城肇/高橋義孝/古谷綱武/本多

秋五／壬生照順／枝法／白井健三郎／淡徳

三郎／野間宏／秋田雨雀／サクラサワ・ユ

キカズ

附1〜附7

平和と独立のために——総選挙にさいして訴

える 藤森成吉／徳永直／江馬修／除村

吉太郎／松田解子／野間宏／岩上順一／新

島繁／島田政雄／安部公房／西尾章二／赤

木健介／広末保／山岸外史／山代巴／渡辺

順三／福田久道／北条さなえ／安東次男／

真鍋呉夫／半田義之／サカイ・トクゾー／

古沢太穂／春川鉄男／塩川潔／呉隆／高沖

陽造／中野秀人／熱田五郎／木島始／杉浦

明平／神山彰一／柴崎公三郎

附8

あとがき

編集部

附8

編集あとがき

M／竹／U

(191)

カット 鈴木賢二／吉井忠／箕田源二郎／佐

藤和男／桜井陽司／大野碌／吉田太郎／河尻

隆次

第四卷第五号 一九五三(昭和二八)年五月一日

表紙

佐藤 忠良

目次カット

吉井 忠

『人民文学』友の会をつくろう／「人民文学後

援会」賛成者名簿

(6)

扉

江刷屋珪子

(7)

鉄路の響き(第一部)

足柄 定之

8 32

釜石歌物語抄

泉沢 俊

40 41

汚れた肺——サナトリウムの人々

井上 俊夫

43 55

日本復帰を

島田ちかし

55

死鷄

江津 萩枝

附8

56 65 55

むかでママのたそがれ時に

斎藤 利雄

66 78

進水の酒

渡辺 金司

79 91

(*画)

箕田源二郎

雪はおおう

野間 宏

79 84 85

五月詩集

野間 宏

92 93

塗工

ただし・きんだ

ただし・きんだ

94 95

君たちは知るべきだ	松原 健二	95	母のためにも	柴山 康夫	114
父——申徳休の霊に捧げる		97	信じあえることの無限の勇氣	渡辺 兼雄	115
選後に	しげる・あさむら	98	しよーばいはどーですか	長畑 喜一	117
批評	高島 青鐘	99	ケンカをおぼえてしまつた僕	三田署七番	118
選外——サークル誌より	須藤 伸一	99	お母さんたちの国の息子として		119
社会時評	サカイ・トクゾー	99	被告へ 病床から	長畑 喜一	120
原爆詩人 峠三吉氏逝去	上杉 捨彦	100	平和をまもることもたちより		121
メーデー特集	人民文学社編集部	103	柏原知広／桜田良則／ふじたたかお		121
平和への希望	阿部 知二	104	のり子／つぎお／ひろみ		122
カット	山崎 郷	104	(*カンパのお願い)		122
血のメーデー犠牲者 母たちの手記		104	小菅いろはかるた	山崎 良一	123
私の苦しんだ十ヵ月が……	安田 幾代	106	日本の女(第三信)	松田 解子	124
巨士 <small>ひろし</small> の道を目標として	近藤 篤子	108	印刷工の歌	荒井 勇	130
カット	桜井 誠	108	座談会 歴史と文学	服部之総／高橋慎一／	
私の一つの誇り——正夫の一週をま近に		108	松島栄一／中山義秀／真鍋呉夫／江馬修／武		
して／公判廷にて(*詩)	高橋 トヨ	110	田泰淳／松本新八郎／広末保		131
民族のたましい——メーデー労働者被告の獄中書簡		111	絵入りルポ 昭和電工川崎工場	加古 里子	146
(*編集より)	花 岡	112	美術評 成長するアンデパンダン展		147
のびゆく花に負けないで	土屋 正子	113		吉井 忠	148
		114			

北京片鱗 内山 完造 149～151

おかえりなさい皆さん！——中国からの帰国同

胞をむかえて 徳永 直 152～153・163

日本の近代文学史IV 近代文学の確立

日本近代文学史研究会、草部典一 154～160

人間スターリン 山田清三郎 161～163

甲砲よびびきわたれ 鳴木 民夫 164

号外 高木 伸 164～165

スターリン やまだとおる 165～166

偉大なひとに——スターリンに捧ぐ

黒田 喜夫 166～167

おわび 167

詩歌——その発想から結晶まで 大スターリンの詩精神

と弁証法に学びつつの試論

サカイ・トクゾー 168～173

芸術史の著述について——ハンガリー芸術史家、芸術批

評家会議における演説

G・ルカッチ、鈴木禧八訳 174～180

(*画) 伊藤 仁 174

農民の無表情 タムラ・ミノル 180

四篇の作品について 松田 解子 181～182

療養のあいまに 高瀬 俊介 182

編集あとがき H/M/U/K (183)

カット 箕田源二郎／山崎郷／佐藤和男／大

野碌／海老原友忠

第四卷第六号 一九五三(昭和二八)年六月一日

表紙 牧童 曹 良奎

『人民文学』後援会 『人民文学後援会』賛成人名

簿／『人民文学友の会』をつくろう (3)

目次カット 滝平 二郎

表紙絵「牧童」について 曹 良奎 (6)

扉 中山 正 (7)

鉄路の響き(その二) 足柄 定之 8～29

二つの微笑 船越 亨 30～41

ピカソの鳩 行方 藤男 39

獄中雑詠 安永 守 41

おびえのなかを 片野 潔 42～53

貧乏打破 藤塚 三郎 43

詩運動3号 人民文学編集部詩委員会 53

少年整備兵 金井 広 54 } 63 · 125

朝鮮文学特集——朝鮮の平和を希つて

故郷の途 李泰俊、李殷直訳 64 } 86

徐令監とその一人息子 スオヨンガム 朴 元俊 87 } 95

朝鮮戦争詩抄(許南麒訳)

この人達のなかで キム・ジヨギユ 96 } 97

ある都市で キム・サング・オ 97 } 100

中華人民共和国 リ・ビヨンチヨル 100 } 103

平和と真実を愛する皆さんへ 沖田 一男 95

労働者たちは勢ぞろいをはじめた

——第24回メーデーの記録

統制という名の実行委員会 大原 三郎 104 } 106

朝鮮戦争やめろ——拒否された中立堅

持 徳永 直 106 } 107

五月一日の霞ヶ関——中部地区デモ行進の印象

真鍋 呉夫 107 } 109

民衆は怒る——解散後のバクハツ

社会時評 平和攻勢とは 中村 宏 109 } 110

平和の新たな地平線 周恩来の三月声明を受け 上杉 捨彦 111 } 113

とるわれわれ サカイトクゾー 114 } 115

短歌のうごき 歌壇を中心にした現状

信夫 澄子 116 } 120

平和はいいが仕事がなくなる? 前田 芳雄 121

峠三吉のこと 山代 巴 122 } 125

日本の女(第四信) 東京の多喜二・百合子祭/大阪の多喜二祭 125

親子二代——「妻よねむれ」の女主人公 能智 愛子 126 } 130

書評 「日本の貞操」と抵抗の質について 須藤 伸一 131

私小説と民主主義文学 猪野 謙二 132 } 137

おじいさんマルクス 赤木 健介 138 } 139

6月詩集 鈴木 西州 140 } 141

鉄鉱石 津 吉 141 } 142

ヤドゴ 稲垣 元博 142 } 144

私は医者であるべきか

一枚の写真 144

鉄条網よ 145

土 146

日本の子供 148

選後に 149

ドイツ民主共和国(東独)の文学 150

李泰俊について 153

創作「山林労務者」についての意見——小河内

工作隊通信 154

2頁論壇 統一をさまたげるもの——魯迅評論

集をよんで 156

絵ルポ マイヅル

あかしごろう文、黒須童明え 158

松川の奇蹟 162

座談会 新しい芸術家の為に——帰国者をかこ

んで 163

新/徳永直 164

(*画) 玉城 実 180

郎/永野慶志/鶴喜 181

編集あとがき U/M (183)

本文カット 海老原友忠/中山正/山崎郷/

箕田源二郎/佐藤和男/鈴木賢二/滝平二郎

/新居広治/呉林俊/桜井陽司

第四卷第七号 一九五三(昭和二八)年七月一日

表紙 中谷 泰

『人民文学』後援会 『人民文学後援会』賛成人

名簿 (3)

目次カット 井上長三郎

扉 曹 良奎 (7)

スターリン死後の文学的感想 除村吉太郎 8

窓に向つて——絞首台のそばの窓で ほんだ・のぼる 14

マルクスの文学論——リアリズムについて 西郷 信綱 15

ピカソの描いたスターリン(関義訳) 121

まえがき 編集部 22

読者だより 鈴木盛義/西山隆/五十嵐武司

編集部 22

スターリン(*画)	ピカソ	22	ター坊の保育園	林野 滋樹	65
われわれは抗議する	フージュロン 他	23	「指」——文撰工ノ歌	青木 覈	67
労働者万能主義の怪物	アラゴン	26	電気炉	柳町 京平	68
資料I 典型とはなにか?	マレンコフ	34	ダンブル(船艙)のうたごえ	鈴木 西州	69
資料II 新しい古典への道		35	離郷	祖父江貞子	70
小河内村の二十二票——山村の選挙斗争	モーリス・トレーズ	35	選後に——擬音・労働者の組織性の問題	70	71
久保田正一		37	安東次男/古川宏/ゆうきかおる、花岡	72	73
久保田正一		41	ルポルターージュ 筑豊炭田(第一回)		
散文詩 一斉に指差す手 裁判官の頭の中の夜			投稿原稿についてのおねがい	真鍋 呉夫	74
と昼	サカイ・トクゾー	42	医者の家で	小林 勝	79
絵ルポ 基地立川 須藤伸一詩、山野卓造/		45	家具屋のエエナさん(第三話) 六さんをかえせ	89	89
福田恒太/池田竜雄え		46	の巻	はやしかずお	90
基地の横顔——私の職場から	一橋 進	51	(*画)	宮下 森	107
つなぐれた双手	金田 明夫	55			
職場サークルにおける創作の課題——集団制作			(*短歌)	大塚敬三/高瀬俊介/たんじまさ	90
の報告	谷野耿太郎	56	お/吉田博/沢村創二	91	101
社会時評 「洗脳」療法のききめ	田沼 肇	61	お千代さん	100	101
七月詩集		63	『人民文学友の会』をつくろう	108	111
草履つくり——農村の女たちは今もむかしの		64	鉄道の響き	108	111
ままの苦しみにある	清野 正秋	64		足柄 定之	112
		65		112	139

一人が一人の読者をつくりましょう!!

(＊短歌) 野村 欣治 139

基地の子供達——読者だよりより(＊カット)

谷 新助 139

にくしみの学問 ショーロホフ、岩上順一 140

二人の産婆 馬烽、加藤平八 155

短歌選後評 渡辺 順三 162

古今川柳ものがたり 石原青竜刀 163

小説合評 江馬修／滝崎安之助、M 164

中国のその一 芦田 弘 168

短歌 山畑たけお／玉置風郎／津川真理子／

堀井敏弘／関英一／無名氏／沢村創二／未来

信二郎／築城申二 169

まだ解決されていないもの——「地底の人々」

をめぐつて 岩上 順一 170

174

作男の歌 中西 次郎 174

日本の近代文学史V 漱石と鷗外

日本近代文学史研究会、紅野敏郎

175

川柳——石原青竜刀選 大倉君枝／関英一／

河内南天／山田悦哉／小林玲二／たちばな・

かおる／小野篤／山西次郎／白石笛太郎

選評／近作 石原青竜刀 180

読者だより 平野幸男／村田順子／上田千之

／森田祥一／内村清／徳永直／吉田重蔵／北

原れい 181

編集あとがき M 183

三千部拡大運動の訴え (183)

本文カット 鈴木賢二／海老原友忠／中山正

／大野碌／中山ユリ／曹良奎／山崎郷

第四巻第八号 一九五三(昭和二八)年八月一日

表紙 ウイーンにて 本郷 新

目次カット 滝平 二郎

扉絵 佐藤 忠良 (7)

国民文学の課題と方法——文学運動の新しい展

開のために 滝崎安之助 8

対談 戦争と文学 大岡昇平／野間宏／編集部 22

30

お知らせ	人民文学合評会	人民文学社	30		
スターリン死後の文学的感想(つづき)		除村吉太郎	31	砂丘のいかり	
フランスの作家たちは抵抗する——サルトルの場合を中心に		渡辺 淳	39	屍を越えて——ローゼンバーグ夫妻を悼む	渡辺 順三 69
農民文学断想		伊藤永之介	43	空腹の日曜日に——ローゼンバーグ夫妻にささげる	武田 久 70
朝鮮休戦について	編集委員会、除村吉太郎	46	47	社会時評 悲しみと同時に怒りを——ローゼン	花岡 次郎 72
八月詩集				ベルグ夫妻の死	田沼 肇 74
祖国朝鮮からの便り	柳 貞姫	48		定例『人民文学』読者の夕	76
ある写真	いぜき・みちお	49		父をかえせ、夫をかえせ——松川被告家族の訴え	
便所通信	江口 寛	49	50	お父様が死刑!	杉浦 三郎 77
スパナの歌	盛岡ペンと自由グループ	50	51	再婚の話しもけつて	
きよちやん	志賀 智之	51			二宮キク談話、本田嘉博 78
イ・ヴェ・スターリン	菅原 克己	52	54	共産党をぬければ罪がなくなる	斎藤あつ子 80
選後評	赤木 健介	54		さみしいけど、おるすいします	斎藤 和子 81
サークルあれこれ	サークル誌をよむ会	55	58	ことし、がつこおにありがとうございました	
ボタンをおす手	原爆の背後をつく				たけだやすこ 81
	ヨシダ・ヨシエ	59	65	あの日	小島美代子 82
原爆の図	丸木位里/赤松俊子	59	61	日本の近代文学史VI	
絵ルポ 内灘の火は消えない				日本近代文学史研究会、草部典一	83
					87

友の会・サークルだより新設 編集部 87

読者のたより 鈴木桂子／三坂多一郎／黒田

喜夫／秋山銑夫／坂下強／菅野富士雄 88～89

中間者 山本 洋 90～111

日本の民話 猿の白 野田 克信 112～122

葉桜 中西 次郎 123

弟の写真に くきもとたけひこ 123

ロシヤ民話 あしげくりげ 赤松まり訳 124～129

新刊紹介 「国民の文学」(古典篇) 129

第四回世界青年学生平和友好祭 記念国際芸術

コンクールについての訴え 130

鉄路の響き(第四回) 足柄 定之 131～172

「北京のどぶ」をみて 島田 政雄 172

人文六月号の書評「日本の貞操と抵抗の質につ

いてはこじつげだ」 佐藤 精也 173

討論 浪花節をどうおもう? 新島繁／大谷

竹雄／小場瀬卓三／岩間正男／村上十吉／松

山映／金親清／柴田昭司／本郷一郎／島田政

雄 174～182

編集あとがき M/U 182

第四卷第九号 一九五三(昭和二八)年九月一日

表紙 漁夫 井上長三郎

目次カット 滝平 二郎

九州和歌山地方大水害についてのうつつたえ

人民文学編集部 (6)

扉 藤尾龍四郎 (7)

血の九月 江馬 修

内灘スケッチ(*画) 小溪 住久 8～50・90

湖北の旅 鹿地 亘 52～67

鉄路の響き(第五回) 足柄 定之 68～83

白痴 アンデルセン・ネクセ、岩上順一訳 84～90

「国民文学」は何処へ行つたか

——滝崎安之助氏の論文を批判する 丸山 静 91～97

日本の現実から実践的課題を 丸山 静 91～97

国民文学の母胎をいかにして強化するか

比良 信治 97～99

主観的な論文 杉浦 明平 99～101

指導性ということ 岩倉 政治 101～104

地底の人々について 徳永 直 104

濁流にいとむ人々——九州水害現地ルポ 岡野 敬二 105

内田巖氏を悼む 人民文学社 138

表紙「漁夫」について 井上長三郎 111

自由な討論 記録文学をかこう 滝 修一 112

破戒 名作講座(1) 野間 宏 114

(*短歌) 高瀬俊介/吉田豊 120

アメリカの自由追放記 下村 敏夫 121

書評 日本部落冬物語 片羽登呂平 127

9月詩集

田植歌 宇佐美静治 128

誕生まえ 小熊 忠二 129

工場で 三木進一郎 130

よふけ ごとう・たかお 131

うめずけの味 今井 教子 132

候補作品

選後に 北条さなえ/安東次男/西杉夫 133

サークルの二側面 七月号の選後評をめぐって 134

サカイトクゾウ 134

社会時評 「良心的」という意味 田沼 肇 136

水害地と内灘から 中村 朗 139

座談会 戦車工場と文化のたたかい——日鋼赤

羽のばあい 石谷良三/村田幸夫/古川稔

／長尾修/安部公房/榎木恭介/真鍋呉夫 140

かけ合川柳 車 楽 生 147

友の会だより 読者だより 福田一郎/伊藤

まき/手島千恵子/伊藤吉太郎 149

編集あとがき U/H/社一同 (151)

本文カット 海老原友忠/新居広治/積田鯉

士/藤尾龍四郎/飯島俊一/大野碌

二歩前進のために 野間 宏 投込み

第四巻第一〇号 一九五三(昭和二八)年一〇月一日

表紙 内灘のおかみ 箕田源二郎

目次カット 滝平 二郎

内灘(*写真) (6)

扉 小 溪 住 久 7

声明書 内灘村接收反対実行委員会 8

内灘（*座談会） 寺田貢／岩倉政治／真鍋

呉夫／松川哲雄／菊地謙一／中田ひろ子／箕

田源二郎

8
23

内灘おいわき

ピカソと絵

沢 まや子

45

内灘 ソーラン節

ピカソと平和

エレンブルグ

46
48

被害をうけた漁民の数

パブロ・ピカソの《戦争と平和》——ローマ

41
44

これまでの経過

でのピカソ展

クロード・ロワ

48
50

接收反対かぞえ歌

「戦争と平和」（*カット）

ピカソ

47
49

生活の体験、思想改造と創作実践

「ピカソの描いたスターリン」とわたしたちの問題

茅盾、加藤平八訳

ピカソを育てる人たち・労働者

新居 広治

51
54

解説

加藤 平八

写真でかいたスターリン

井上長三郎

54
55

創作と工作について——中国文学工作者協会に

私の中にもある労働者万能主義

海老原友忠

55
56

まなぶ

松田 解子

おわび

編集部

56

日炭高松の労働者上野鋭之進君に対する会社側

俳句

の暴挙について訴える——文化活動の民主的

落花

海野 猛雄

57

自由を守るために 真鍋呉夫／「現在」の会

開拓のうた

佐々木 忠

57

鈴木裁判長よあなたの任務は重い！

十月詩集——安東次男／片羽登呂平／北原れい選

徳永 直

内灘村長よ

庄司 直人

58
61

「戦争と平和」より（*カット）

夜鷹そば

谷村 康子

58
59

ピカソ

すもも

かわい・ゆりこ

59
60

アメリカ人に与える

ジャン・ポール・サルトル、高木正一訳

41
44

書評 江馬修の「流人」を読む

沢 まや子

45

夏蜜柑

宮部 八重 60 ~ 61

選後評にかえて

北原 れい 62

寄稿の長詩について——我々は前進している

サカイ 63

日本の人身売買

林 克也 64 ~ 69

浪曲とリアリズム

金親 清 70 ~ 73

サークルの歩み(サークル誌をよむ会)

岩

上順一/塩川潔/山岸外史/森春夫、東竹男

74 ~ 77

幻灯作の出来るまで——高崎五万石騒動

群馬勤労者集団、さかい

78 ~ 79

かたむいた屋根の下で

徳永 直 80 ~ 90

二人の青年

山田清三郎 91 ~ 107

鉄路の響き(第六回)

足柄 定之 108 ~ 119

相思樹

秦兆陽、宮崎ひろし訳

120 ~ 141

日本の近代文学史Ⅶ

日本近代文学史研究会、杉伸子

142 ~ 146

表紙説明 内灘のおかか

国鉄特集

サークル指導を正しい軌道にのせよ

無駄弾

酒井 真右 147 ~ 148

形屋 政美 42 ~ 49・59

読者だより

世路

田島啓二郎 50 ~ 59

川野/横田平九郎/みよし/徳田穰 148 ~ 149

日本文学学校設立趣意書

徳永直/野間宏

150

講義草案

黒井 力

150

編集あとがき

(151)

本文カット

山崎郷/滝平二郎/大野碌

第四卷第一一号

一九五三(昭和二八)年二月一日

〈国鉄文学特集号〉

表紙

滝平 二郎

目次カット

滝平 二郎

『人民文学』の新しい出発のために

人民文学社 4 ~ 6

新年号(創刊号)予告

出廷拒否

田所 泉 8 ~ 41

全国詩活動家会議へ 十一月二八・二九日

41

詩五篇

稲の穂のそよぎのように 今井 朝二 60 〱 61

食台とふさえ 小熊 忠二 61 〱 62

この大会が 岡 亮太郎 62 〱 63

夜の鉄橋 中田 久敏 63 〱 64

荷扱手のうた 大沢 盈夫 64 〱 65

労働者文学の現状と課題——国鉄の文学活動か

ら 岩上 順一 66 〱 73

川柳——石原青竜刀選 白石笛太郎／出口泥

子坊／関英一／河内南天／津野田近／梨本栄

／栗栖亀甲 石原青竜刀 74

選評／選者近作 足柄 定之 75 〱 101

鉄路の響き（第七回）

新らしい現実と新らしい任務 中国文学工作者

第二回代表大会における報告

茅盾、宮崎ひろし／加藤平八／宇田礼記 102 〱 114

無実の真実を訴える 竹内 景助 116 〱 117

松川事件と私達の仕事 木下順二講演、編集部

お母さん 阿部 市次 120 〱 121

陽は高く明るく 本田 昇 122 〱 124

江馬修の「山の民」について——とくに第一部

・第二部の意味 きだ・かおる 125 〱 129

農民小説の新しい可能性 杉浦 明平 129 〱 130

栗林農夫の「ヤロビの谷間に」について

大竹 博吉 130 〱 132

日本文学学校開校のおしらせ 132

読者だより 松本鋼一／今井高行／脇田道保

／佐川研二／鈴木信二 133

名作講座（2） 樋口一葉 山岸 外史 134 〱 140

日本の近代文学史Ⅷ 日本近代文学史研究会、

草部典一／湯地美佐子／島田福子 141 〱 147

編集あとがき U／竹 148

カット 海老原／山崎郷

改題『文学の友』

表紙 佐藤 忠良

表紙のことば説明 72

あたらしい出発 1

（*画） 赤松 俊子 1

沈め、沈め、大衆がもつ深さにまで沈め——生

活と文学のあいだ 徳永 直 2 3 5

特集 松川事件

真実は勝つ 広津 和郎 6 3 10

松川事件年表 10

ありがとう！先生——宇野・広津両氏によせ

て 佐藤 一 11 3 14

一九五三年（*詩） 庄司 直人 14

黙つてはいられない すずき・はるえ 15

客観主義の陥穽——「週刊朝日」の松川記事

について 佐々木基一 16 3 17

新しい太陽を求めて 野間 宏 18 3 22

別冊「文学の友」原稿募集 22

労働者と新しい文学 武田 泰淳 23

あゆみ 坂本 ゆり 24 3 25

私の生いたち 安田 幸雄 25 3 27

祖母——私の生いたち 三村 義夫 27

わたし達の文学教室（一） 花は美しいか 安部 公房 28 3 29

詩——われわれの唄声を高くあげよう……

地主の山 島 陽二 30

元山港 白 老 児 30 3 31

流れ作業 杉浦 弘祐 31 3 32

空は青い 伊藤徳次郎 32 3 33

感想 もつと作者の体験を 赤木 健介 31 3 33

全国詩活動家会議の成果

共同報告 米 33

東北通信 真鍋 呉夫 34 3 39

まゆ（*詩） 小幡 陽一 37

資料 いわゆる「米よこせ闘争」の対策につ

いて 38 3 39

山形・農民の表情 松田 解子 40 3 43

人造米 梅崎 春生 42

二つの手紙——ヤロビ農法にめざめる農民たち

栗林 農夫 44 ~ 46

文学と思想(一) 生きるために 山崎 謙 47 ~ 51

フランスも斗っている——アンドレ・スチール

中川 拓 52 ~ 53

祖国の山河

斗争点抄 水沢凡太郎 54

私達は話し合おう 池田 良子 54 ~ 56

アメリカ軍宿舍設置反対運動 山路 源兵 56 ~ 58

郵便配達夫の日記 成田 忠一 58

わたしたちに太陽を 藤田 宏司 58 ~ 59

わたしの生いたち——文学半生記(第一回) 藤森 成吉 60 ~ 61

創作

佐世保海軍病院 磯田 敏夫 62 ~ 72

ずり捨場 河野 直 73 ~ 85

陽の光を 和泉 鋼吉 86 ~ 91

飛驒から東京へ 角 圭子 92 ~ 93

読者たより

石黒博／大里人文友の会／鈴木信／宗俊子 94 ~ 96

阿部・小松両氏の不法逮捕に際しみなさんに訴

える 阿部・小松救援会 95

編集後記 S/K 96

第五卷第二号 一九五四(昭和二九)年二月一日発行

表紙 佐藤 忠良

目次カット 丸木 位里

松川被告のうたえる(*詩)

母 浜崎 二雄 1

娘の手紙 太田 省次 1

着信二尺 鈴木 信 1

おらあ百姓だ(*詩)

夕方／雪ふみ／リアカー 水落 義一 4 ~ 6

ぶたが通る／雨／休み／昼ね 小幡 陽一 6 ~ 7

詩を書く前後 小幡 陽一 8 ~ 13

小幡陽一に おがわ・けん 8 ~ 12

二人の農村中学生の詩について 国分一太郎 14 ~ 15

「松川詩集」と「サカイ・トクゾー詩集」の刊

行計画進む

祖国の山河

今は日本人になりました——これからは平和

のために

吉田 繁樹

16

けがされた砂浜

はやしいさを

17

私たちのあゆみ

みのわきさく

18

能登の民謡

能州 山人

20

京都荒神橋事件

20

朝は明けたり——奄美大島日本復帰祝賀の歌

村山家国作詞、山田耕筰作曲

17

新しい太陽を求めて (II)

野間 宏

22

(*マンガ)

南 義郎

25

映画「花の三度笠」——労働者はこう見た

鶴見 鉄雄

26

掘割事件顛末

杉浦 明平

27

(*画)

佐藤 忠良

27

文学と思想 (二) たたかひの集中点に突破口

がある

山崎 謙

35

誌上日本文学学校

(*画)

本郷 新

53

学校行事

38

39

講座 詩のことば

安東 次男

38

生徒の側より

40

詩——われらのうたごえを高く

もち売りのおばあさん

佐木 伸

40

車窓から

黒木みち子

42

セビロ

佐藤ひろし

43

真実

中井 文雄

43

ある晴れた日のせんとくに

はらきょうこ

44

富有柿

吉田 敏子

44

十一月の風

長沢 正行

45

二日間の感動——全国詩活動家会議にのぞんで

ゆうきかおる

46

どのように作品を書いてきたか——わたくしの

創作経験

茅盾、尾坂徳司訳

47

わたし達の文学教室(2) ふたたび美について

安部 公房

47

共同報告 判決——松川事件第二審公判

のせかつを／三木冬吉

52

(*画)

本郷 新

53

55

57

(*詩)

詩——ひとというひとの前で

草野 心平 60
武田 久 61

使いやすいことばにするために

小場瀬卓三 93~95

世界の正義の力を信じます

鈴木 信 61

読者だより 高山藤三/浅井秀夫/しももと

祖国の山河

ただお/下山一/水田栄三/橋本芳久 96~(97)

ここにはアメリカ製の人形が立っている

62~63

編集後記

S (97)

私は斯く訴える

山野 進 63~64

スキツ腹で十時間

佐川 保治 64

第五卷第三号 一九五四(昭和二九)年三月一日発行

職場だより

子供 茶坊主 65

表紙 佐藤 忠良

チヨンガー ゴミ屋 65

目次カット 佐藤 忠良

わたしの生いたち——文学半生記(二)

生レデルモノニカラ(*詩) 庄司 直人 1

藤森 成吉 66~67

祖国の山河 杉本 佳郎 4~5

公園をつくる人びと 仲間たちと国会と

妙義山にゆく 田口 恒 5

熱田 五郎 68~80

回想だけに陽があたる 好山 勝 5~6

川柳——石原青竜刀選

奄美大島より 村上 章一 6~7

白石笛太郎/矢根郁子/岡山幸子

新しい大神宮のお札 他山 せき 7

カット 南 義郎 79

ひるやすみ 中山 久枝 7~9

弔辞 小林 勝 81~92

出産扶助

(*画) 丸木 位里 81~88

ヴェトナムの春(野間宏訳) 赤い土 ルー キー 10

一つの提案——日本語を美しく、わかりやすく、

赤い土

とり入れ	カングラティの農民	11	クリーニング店員のうた	ヤシロコーイチ	49
ヴェトナムの春	クジエアン ジエウ	11	やつとの買物	秋葉 恵子	50
人類の春	ト フー	12	冬	原田 純	50
訳者あとがき	野間 宏	13	バスの中で	市谷 博	51
「山の民」の劇化	村山 知義	14	新しい太陽を求めて(Ⅲ)	野間 宏	52
家の問題 かがやかしい朝を迎えるまでは			一つの開花によせて——足柄定之著「鉄路のひびき」	金 達寿	56
家の暗さが	宗方 春雄	15	村でする文学——徳永さんに答えて		57
苦難に堪えて	長井 愛子	19	映画二つ	岩倉 政治	58
私と職場	足柄 定之	24	わたしの生いたち——文学半生記(その二)	三木 冬吉	61
青春の問題	亀井勝一郎	28	文学と思想(三) ほろびることのない発展	藤森 成吉	62
頭をあげよう	中川 拓	32	世にも愚劣な汚職事件(*マンガ)	山崎 謙	64
アパート耐乏性/モハンの先生/戸じまり/		34	わたし達の文学教室(3) 人間はなぜ笑うか?	天野 一也	67
生活綴方(*マンガ)	氷川 九	17	志上日本文学学校(講座2) 詩はどうして創るか	安部 公房	68
生きる(その一)	山田うた子	21		安東 次男	72
世界平和評議会からの手紙		27			76
ジャン・ラフィットへの返信	徳永 直	31			
祖国の山河		35			
工場における事	大山 和枝	45			
印刷工場にて	荒井 肇	45			
		47			
		47			
		44			
		47			
		47			
		48			
		49			

間借りのおふくろ (*詩)

中西 次郎

77

第五巻第四号

一九五四(昭和二九)年四月一日発行

メーデー (*詩)

立花 明

77

活字をひらう (*短歌)

三木 郁元

77

表紙

高松甚二郎

地下足袋 (*短歌)

小谷 一美

77

(*詩——中国解放詩集より)

山田うた子 4~18

雪と囚人 (*短歌)

吉田 豊

77

生きる(その二)

山田うた子 4~18

ひとこと (*短歌)

荒井 勇

77

(*画)

箕田源二郎

詩——われらのうた声を高く

4~5・9・14

吹雪を突きすゝんで

小笠原 強

78~79

「生きる」がうまれるまで

サークル土曜会、

胸病む日

阪 亜夫

79~80

大崎倫夫/瀬戸泰士/疋田あさ/鎌田うた子

まだ用意されているものがある

呉 林俊

80~81

/武田久/小笠原八重/東海林瓊子/佐藤一 19~25

砂川村の百姓

宇佐美静治

81

新語/「飯前にやとつても読めやしねえ」/パ

歌うな (*詩)

こばやしつねお

82~83

ン食しようれい運動ざんす/元將軍の春(*

小場瀬卓三の一つの提案を読んで——日本語の

マンガ)

水川 九

問題

大久保忠利

84

21・25・55・59

掘割事件顛末 (完)

杉浦 明平

85~93

読書案内 第二弁証法読本(徳永直/渡辺順三

(*画)

佐藤 忠良

85・89

共著)

U 25

読者だより 鈴木午太郎/広保治/島崎二郎

祖国の山河

/江頭茂/S生/岡本芳雄/松本銅一

94~96

仮寝のわが家で

月島 丸生 26

編集後記

S

96

保育園

木目田蟻夫 26~27

「逃げねばならぬ」

山田 一郎 27~28

選挙

森 道夫 28 ~ 29

祖国の山河

ヤロビの谷間

草野 和夫 29

私達の毎日

高井 信子 72 ~ 73

新しい太陽を求めて (IV)

野間 宏 30 ~ 34

ヒロスケ狸

オンチ詩人グループ 73

消息欄

映画〈ひろしま〉をめぐる私の職場

演劇評／美術評／映画評

小／堀 35

まきの・さくま 73 ~ 74

ポール・エリュアール詩抄

保安隊の中で

ポール・エリュアール、安東次男訳 36 ~ 40

藤原 俊夫 74 ~ 75

ポール・エリュアール、安東次男訳

ルポ「狙われた」学校

安東 次男 40

羽鳥 文昭 76 ~ 81

解説

朝鮮詩抄(許南麒訳)

「福翁自伝」と河上肇「自叙伝」——文章のう

太白山脈を越えながら——前衛詩人・故兪鎮

服部 之総 41 ~ 43

五に

李 秉哲 82 ~ 83

そとまこと

来れ 栄光の峯々に

水野 繁 44 ~ 49

関 丙均 83 ~ 85

職場サークルの報告 壁新聞と文芸——中央

蹴られても

安部 公房 50 ~ 51

正木 豊 86 ~ 93

電信電話局

(*画)

安部 公房 50 ~ 51

山崎 郷 86 ~ 91

わたし達の文学教室(4) サークルをめぐる問

中国からのたより

安部 公房 50 ~ 51

山崎 郷 86 ~ 91

題

読者だより

安部 公房 50 ~ 51

稼農アサ子／新井一雄／長瀬克

座談会 明日の創造のために経験と抱負を語る

一／斎藤勝夫／深田喜市

安部 公房 50 ~ 51

94 ~ 95

——働くことと書くこと 足柄定之／小林

編集後記

安部 公房 50 ~ 51

96

勝／春川鉄男／安部公房／野間宏

52 ~ 62

スターリン (*読書案内)

61

労働者のための文学論——作家の仕事(その一)

63 ~ 71

イリヤ・エレンブルグ、泉三太郎訳編

63 ~ 71

表紙

高松甚二郎

(*詩)

ネルーダ (1)

働くものの愛と創造——職場にて

ガッチヤンコ

池田 洋 4 ~ 9

人物の創造——「ガッチヤンコ」について

野間 宏 10 ~ 13

映画評「女の園」「山椒大夫」

生活記録

苦しんでいるのは一人ではない 園田 綾子 15 ~ 21

昨日から明日へ 吉村 京子 22 ~ 29

祖国の山河

スカをむく 深山 さよ 30 ~ 31

自転車泥棒 戸坂基次郎 31

ある日の汲取風景 無茶苦茶生 31 ~ 32

ヤロビ麦のうた 伊藤 義夫 32

日曜日の午後 おおよし・まさる 32 ~ 33

思想の表現の問題(1) 『現実』をどうとらえる?

中川 拓 34 ~ 37

創作『生きる』についての感想原稿を募ります 37

マンガルポ 文学学校をのぞく 氷川 九 38 ~ 39

「詩」は現実を変革するための武器である

榎木 恭介 40 ~ 44

残された、口夫妻の遺児たちのその後——感化

院に強制収容さる 43

編集部より読者の皆様に 44

詩

君よ、ボクたちの中へ戻つて来い 豊島二三雄 45 ~ 47

ぼくらの優しさのしるしであつた 安東 次男 48

ぼくらは胸のなかに 菅原 克己 49 ~ 50

もし…… 花田 英二 50 ~ 51

春とどんぐり しばやし・つねお 51

街 津布久晃司 52

詩選評 未来ある任務 安東次男／榎木恭介／菅原克己 53 ~ 55

祖国の山河 憂うつなこと 笹田 久雄 56

憂うつなこと

笹田 久雄 56

ボーナス 山川 渡 56 57

明暗 藤原 正高 57 58

北風の日 かまた・ひろし 58

今夜は休み 火吉生 58 59

句会 59

労働者のための文学論 作家の仕事 (その2)

イリヤ・エレンブルグ、泉三太郎訳編 60 67

演劇評 原作を生かしきれぬ舞台——山の民

新協公演 忠 68

ルポ 日曜授業 新田 朝男 69 74

映画「ともしび」について 家城巳代治 75

生きる (その三) 山田うた子 76 94

(*画) 箕田源二郎 76 90

日本外務省のアルバイト / M S A 秘密保護法 /

自信マンマン (*マンガ) 氷川 九 79 85 89

読者だより 前川亨一 / 渋谷勝男 / 三輪和彦

／羽田昭治 / 金子明子 / 電話交換手 95 96

編集後記 96

第五卷第六号 一九五四年(昭和二九)年六月一日発行

表紙 高松甚二郎

(*詩) ネルーダ (1)

座談会 人類は原・水爆製造・実験に抗議する

阿川弘之 / 足柄定之 / 榛葉英二 / 野間宏 / 由

起しげ子 / 戸石泰一 4 17

灰の恐怖 / オサカナを買いに : / 海国ニッポン

／平和な原子力時代 (*マンガ)

氷川 九

日本・原子核特別委員会の意見 7 9 13 17

人間の心をおそう死の灰 安部 公房 18 19

「ビキニの灰」と原子力問題についてのパンフ

レット 19

ルポ 死んだ港 三崎 比留 雅夫 20 25

原子力は世界を変える アメリカとソヴェトの

水爆 林 克也 26 33

祖国の山河

原子野の声——原子病者の告白 清水 信行 34 35

進学できぬ悩み

高橋 テイ 35 ~ 36

討論のば 安東次男の詩と「裸の王様」の話

山切り

古賀 光枝 36 ~ 37

菅原 克己 54 ~ 55

結婚

小川 せつ 37 ~ 39

文章のうそとまこと——「福翁自伝」のこと

十匹のひよこ

横山 志郎 39

服部 之総 56 ~ 60

思想の表現の問題(2) ものが本当に見えるた

めに

中川 拓 40 ~ 42

しょう

お詫び

42

映画評 「七人の侍」

61 ~ 62

第25回メーデー メーデー万才(*詩)

43

演劇評 「女の平和」と「セールスマンの死」

62 ~ 63

詩

ボイラーへよせて

末次 正寛 44 ~ 45

労働者のための文学論 作家の仕事(その3)

忠 62 ~ 63

芽とともに病む——菊池夫人への報告

山中 一郎 45 ~ 46

イリヤ・エレンブルグ、泉三太郎訳編 64 ~ 73

森毅麦をまぜる

山中 一郎 46

青いハンコのハガキ

松田 解子 74 ~ 81

手術

原 暁子 47

(*画)

小山田二郎 74 ~ 77

しきせ

田中 昭三 48

生きる(その四)

山田うた子 82 ~ 94

明日はメーデーだ

庄司 直人 49

(*画)

箕田源二郎 82 ~ 87

詩選評 安東次男/大島博光/こばやし・

49

お知らせ

87 ~ 92

つねお/菅原克己/榎木恭介

49

読書だより

94

詩は現実を変革する武器である(2) 『怒り』

49

太田和枝/森井武夫/佐藤日出

夫/平林和男/長島実男/三浦久仁人/田部

50 ~ 53

勝夫/今井高行

95 ~ 96

とその表現

榎木 恭介 50 ~ 53

勝夫/今井高行

95 ~ 96

第五卷第七号

一九五四（昭和二九）年七月一日発行

表紙

題字

高橋 錦吉

写真

田村 茂

構成

高松甚二郎

日本国憲法前文より

1

生きる（第一部完結篇）

山田 うた子 4～27

（*画）

箕田源二郎

4・10・14・19・23

「外遊じゃない。…帰国じゃよ」／併合／「ポ

スターでは集らん。ハガキで集めるんじゃ」

／放射能の恐怖（*マンガ）

氷川 九

7・12・21・24

生きるについて 読者の感想

「生きる」と日雇いのおばさんとぼく

鈴木 浩 28～29

しみじみと感じたこと

岸 美枝 29～30

貧しさとのたたかいこそ

上原 暁子

30～31

水産加工場は今もなお

桜井 忠雄

31

「生きる」を中心として——新しい文学のために

「生きる」の誕生

野間 宏

32～36

「生きる」について 現代文学へ輸血するも

の

杉浦 明平

37～40

「生きる」と職場とサークル運動 生活の深

みの感動

足柄 定之

41～46

「生きる」を中心に 無限に進歩する確信

川柳「人民川柳より」 石原青竜刀／笠置止

藤原 審爾

47～50

邦／たかはしまん柳／ぼくたく

日本文学学校 第一期生の一つの成果

山岸 外史

40

祖国の山河

車券拾い

栗風 一平

50

ほこりの中で

生理休暇

だいとう・たかはる

51～52

波のささやき

あらそい

林 緋紗子

52～54

新井 八郎

真木 潔

54～55

55～56

車掌 春山すゝむ 57

ビキニの灰 中川 順子 57 〱 58

詩

五月 まさき・うきち 59 〱 60

貨物列車 加藤 超子 60 〱 61

アカのはなし 秋山 軽太郎 61 〱 62

小僧のメーデー 岸佑 喜夫 62 〱 63

赤い眼 あおき・あきら 63

おれたちは日本人だ (原子兵器禁止のために)

仙田 茂治 64 〱 65

詩選評

菅原克己 / 榎木恭介 / こばやし・つねお 66 〱 67

労働者のための文学論 作家の仕事 (その4)

イリヤ・エレンブルグ、泉三太郎訳編 68 〱 76

世界の報道がとらえた デイエンビエンフー解

放の瞬間 77 〱 80

松川事件の一つの鍵『赤間被告の自白』につい

て 塩川 潔 80

牛飼村の人々 はら・てつし 81 〱 87

(*画) 小山田二郎 81・84

壁 アンデルセン・ネクセ、岩上順一訳 88 〱 94

解説 アンデルセン・ネクセについて

岩上 順一 88 〱 89

ネクセの死去に際して 編集部 94

読者だより 斎藤克己 / 佐久馬光男 / 津布久

晃司 / 河本武則 / 加辺利二 / 大谷久次 / 藤本

知近 95 〱 96

編集後記 S 96

第五卷第八号 一九五四 (昭和二九) 年八月一日発行

表紙 渡部 雄吉

つねに新鮮に (1)

思想の戦い さかだちした考えかた——近江絹

糸のストライキ 和泉 鋼吉 4 〱 5

今日 (*詩) ラウル・レイヴァ 6

グアテマラをたすける声をおこそう 6

祖国の山河

私のおかあさん 春日きよみ 7 〱 9

おなじ言葉でも 門久 綾子 9 〱 10

編集部から

書くことをはじめよう——生活記録について

11 10

日本文学学校 第一期をおわる

台所で考える
基地の保育所

川上 きよ
和田 芳子

私たちはもうなかない——近江絹糸の女子労働者

43 45

人間解放の文学を——自治会機関紙『海燕』

勤者

46 49

発刊にさいして

阿部 知二

12 13

みんなで明日の文学を——サークルのために

S

35

日本文学学校の経過

歩みだした第一歩

山岸 外史

14 18

モグラモチのうた (*詩)

宗子 敏

48 49

日本文学の誇るべき基礎

山田清三郎

18 21

詩

かくこととは

菅野 和子

22 23

洗面器のなかの子供

島村順一郎

50 51

日本文学学校卒業製作

こどもたち

坪内なお子

24

文学は人間を高めゆたかにする——アンドレ・

沖村喜美子

51

屋根に生えた草

山元 あさ

25

スチール「最初の衝突」

三木 冬吉

52 55

解説 文学学校卒業製作——二つの詩について

サークル東から西から

56 57

て

こばやし・つねお

26

杉木立 (日本文学学校第一期卒業作品)

モスクワ文学学校のことなど

除村 ヤエ

27 30

永島 敏子

58 64

特集 働く女性の生活記録——よび合う仲間

解説 「杉木立」について

針生 一郎

65

デパートの特売場で

佐々木延子

31 32

一人で貼ったビラ

川本 松三

66 78

休めない生理日

太田 和枝

32 33

(*画)

粟津 潔

66 71

子供を産めない悲しさ

板橋ひさ子

33 34

読者だより 島川実 / 山田清吉 / 那須田稔 /

母も女工だった

志賀はるみ

36 41

徳田穰 / 草島ゆき子 / つやま・けいこ

79 80

読者「友の会」について

79

生活記録 小せえ嫁さま

杉村 佳子

34 ~ 40

映画 太陽のない街

41

書評 月の輪教室

41

ゼンナ——はまぐりの子ノモンストーン地帯ノフ

41

アッシスト (*詩)

村杉 彰

42 ~ 44

故・村杉彰について

金親 清

44

この種子にもヤロビを——「民吉の脱出」と

44

「天草灘」について

真鍋 呉夫

45 ~ 49

松川事件被告団に一円カンパを!

49

民吉の脱出 (上)

玉井 五一

50 ~ 63

(*画)

箕田源二郎

50 ~ 54

続・ひらかれた処女地

54

M・シヨロホフ、岩上順一訳

64 ~ 79

読者「友の会」について

79

読者だより

79

北川雅一ノ岩崎茂夫ノ小宅隆幸ノ本根史朗

80

第五卷第九号 一九五四(昭和二九)年九月一日発行

表紙 中谷 泰

力(*詩) 真 弘 (1)

特集 死の灰の下で

原子の出發(*詩) 菅原 克己 4 ~ 5

思想のたたかい 水爆と人間——新しい人間の結びつき

野間 宏 6 ~ 9

ルポルタージュ 放射能 小林 勝 10 ~ 14

祖国の山河 母への送金 麦畑 生子 15 ~ 18

鉄条網を越える愛情——近江絹糸争議応援記録

水沢宏ノ今泉良子 19 ~ 25

六月の太陽——ローゼンバーク一周年に捧ぐ

本田 昇 26 ~ 27

面会 鈴木 信 27

芸術作品における典型——文化活動家のために

グスターヴ・ユスト、針生一郎訳 28 ~ 31

サークル・友の会 東から西から 32 ~ 33

表紙

曹 良奎

第五卷第一〇号 一九五四(昭和二九)年一〇月一日発行

消灯 ポール・エリユール 1

甚九郎物語 甚九郎／与太郎物語／和平とかき

つゞけている／スターリンさんが死んだ

本郷 二郎 4～9

本郷二郎紹介

特集 文章のつくり方

I 題材をどう整理するか——図式と典型

ヨアヒム・ベック、針生一郎訳 10～16

II 中国の作文教育法（中国・人民日報）

この文章は どうして生れたか 17～22

皿仕事でかたきをとる——働く場所で生れる

言葉 和泉 鋼吉 23～26

「太陽のない街」の映画化——映画「太陽のな

い街」は日本国民の誇り 徳永 直 27～28

高枝とわたし 日高 澄子 29

生活記録

小せえ嫁さま（二） 杉村 佳子 30～35

手記 交換台からの便り 小田 玲子 35

ポンプ工場から 田中 政雄 36～37

十月十五日 角田 かね 38～39

祖国の山河 屋根のある戦場——サークルをつ

くるまで 山口 行雄 40～46

サークル・友の会 東から西から 47～48

思想のたたかい 水爆と人間 安部 公房 49～50

ルポルタージュ たたかいとる生命——生命の

危険をおかして結核患者はなぜたちあがつた

か 上村 武 51～54

手記 コンクリートの上の三日間 高橋登美子 55

民吉の脱出（下） 玉井 五一 56～59

（*画） 箕田源二郎 56～62

続・ひらかれた処女地（二）

M・シヨロホフ、岩上順一訳

70～79・69

読者だより （*無署名）／南山政子／相原美

子／郡司光雄／初汐惣一 80

第五卷第一二号 一九五四（昭和二九）年十一月一日発行

表紙 箕田源二郎

巻頭詩 山畑しげお／稲葉とよ子 1

特集 水爆をゆるすな

九月二十三日——久保山さんの死に

菅原 克己 4〜5

水爆実験反対のしよめい 藤村 千恵 6〜7

久保山さんの死 阿川 弘之 7〜8

祖国のあめのなかで 小野 友吉 8

祖国の山河 第五福龍丸乗組員の妻

鈴木 静枝 9〜11

サークル・友の会 東から西から 12〜13

フランスにおける党芸術(上)——フランス共

産党第十三回党大会における発言

ルイ・アラゴン、小場瀬卓三 14〜23

映画評 「二十四の瞳」 23

詩 トーフ屋のこえをきけ 田所 泉 24〜25

おおばこの詩 小林 道哉 25

どうぞこのビラをもらつて下さい

金 永生 26〜27

妙義のたたかい 27

赤恥を覚悟のうえで学習しよう

へ

常青、竹内実 28〜29

生活記録 小せえ嫁さま(三) 杉村 佳子 30〜34

続・ひらかれた処女地(三)

M・シヨロホフ、岩上順一 35〜52

粘土(第一回) 斎藤 芳郎 52〜79

(*画) 佐藤 忠良 52・68

読者だより

脇田道保／荒田弘子／鈴木浩／本郷二郎 80

第五卷第一二号 一九五四(昭和二九)年二月一日発行

表紙 佐藤 忠良

目次カット 高橋 祥八

巻頭詩 鈴木 信 1

祖国の山河(生活記録)

厚い壁——封建的な結婚に苦しむ田舎の妹と

都会の兄との間にかわされた往復書簡

木村 幸雄 4〜9

キイをたたく指——電信労働者から農村の友

北沢 実 10〜16

へ

友の会だより 日立造船因島労組文学の友の会

松川（獄中）の人たち

サークル東から西から

中国作文教育法の実際

毛主席にご飯をこしらえてあげたこと

あなたはどうやって書いたか 黄成玉さんへ

の質問 張 阿明

私はこのようにして書いた 黄 成玉

処分法 金 時鐘

詩

対話／愛は傷ついても 李 純

第二回全ソ作家大会への動き 泉 三太郎

フランスにおける党芸術（下）——フランス共 産党第十三回大会における発言

ルイ・アラゴン、小場瀬卓三訳

曇天下の埋葬（*詩） 島原 健三

生活記録 小せえ嫁さま（四） 杉村 佳子

職場でも家庭でも話しあうことと書くことをはじめよう

原水爆と私たちの職場 加川 定雄

家賃 堀 三郎

鈴木信の母子面会をともにして 小田島森良

新日本文学会第七回大会おめでとう

粘土（第二回） 斎藤 芳郎

（*画） 佐藤 忠良

読者だより 木村三郎／宮坂彦市／竹内和夫

／森山秀男／韓炳玉

「友の会」のしおりについて／お知らせ

第六巻第一号 一九五五（昭和三〇）年一月一日発行

表紙 大塚 勇

巻頭詩 パヴロ・ネルーダ

全国の読者の皆さん新年おめでとう——「文学

の友」の新しい出発にあたって

炭鉱の記録 村の記録

断崖にたつて 山岡 明雄

水害（*詩） 吉永チトセ

家がつぶされてから 坂口 ユイ

えらい人が見にこられた 太田 愛子

堀 三郎 44～50

小田島森良 50

斎藤 芳郎 52～63

佐藤 忠良 52

木村三郎／宮坂彦市／竹内和夫 64

森山秀男／韓炳玉 (65)

せんぷりせんじが笑った!

版画

上野 英信 4~10
千田 梅二 4~5・8~9

作者の言葉

火は明るく烈しく

10

クレヨンとスケッチブック

杉浦 三郎 11~14

新しい誓い(*詩)

本田 昇 12~13

入廷より退廷まで

高橋 晴雄 15

入廷

赤間 勝美 15~16

獄中で絵を描くあなたたちよ

松川 大作 15

面会

本田 昇 16

全国のサークル誌から二月のうたごえ

よごれ

山田 道生 17

夜あけ

青沼 律子 17~18

おらの股引

潮 文子 18

俺達の社研

岡本 敬一 18~19

赤い豚皮のシヨルダーさえ買えないのは

若山 愛子 19

手

高橋 門吉 19~20

その朝

内堀 和泉 20

瞳

もつこかつね

高橋 昭子 20~21
小俣 陽一 21

むしろあみ

平野 恵子 21~22

ねむれないとき

藤井 雅苗 22

生活記録 にがい松茸

佐々木雪雄 23~25

「文学の友」十二月号「キイをたたく指」に答

える 土を掘る手——農村から都会の友へ

宮坂多田志 26~35

田舎の台所——つまり僕の家

まさお・たに 31

出かせぎ

山本 又三 33

広津先生をたずねて

鈴木めぐみ 35

質問と討論 働く者の文学の創造——詩の表現方法

「表現意識」の面から

鈴木 信 36~40

質問

松浦 義行 36

詩を作る心構え

菅原 克己 40~42

講座 文章を書くてびき2——働く人々への話

老舎、竹内実／二宮一郎訳

43~50

農村喜劇一幕 鬼じじ鬼ばば

江間 修 50

江間 修

51~63

佐藤 忠良

51

(*画)

『別冊 文学の友』 総目次

第一集 一九五四（昭和二九年）年四月一日発行

〈反戦・平和の小説集〉

表紙

赤松 俊子

栗本の負傷

黒島 伝治 8 } 17

(＊画)

岩崎ちひろ

8 } 13

対談 黒島伝治と反戦文学

壺井繁治／猪野謙二 18 } 25

万吉

梅崎 春生 26 } 32

(＊画)

三浦 乃亜 26 } 27

なにがどうしたから悲惨であるか (＊解説)

新田 朝男 32

どこまで

大田 洋子 33 } 44

(*画)

箕田源二郎

いたい作品
新イソップ物語

松田 解子 89
安部 公房 91
安部 真知 91

解説 抗議の精神

荒 正人 33
野間 宏 38
39

(*画)

安部 真知 91
編 集 部 91
塩川 潔 94

星の歩み／スターリン (*詩)

野間 宏 46
47

応募原稿について

編 集 部 95

楽天主義

ベラ・イルレス、坂井松太郎訳 48
52

媿婦児

塩川 潔 96
107

(*画)

朝倉 撰 48
49

(*画)

吉井 忠

海外短信 放射性原子を農業に実験 (ソヴェト)

96
100
101

／戦争犠牲者の碑に花輪 (フランス)

中国民衆の不幸の中に (*解説)

野間 宏 107
108

困難の中できたえられた楽天主義

坂井松太郎 53

寒椿 (*詩)

野間 宏 107
108

戦場で聖歌を聞いた

田中 英光 54
61

内外短信

ほうじょう・てるお 103

(*画)

大野 碌 54
55

内外短信

108

田中英光略歴

コンミュニオン戦士のパイプ

イリヤ・エレンブルグ 109
118

「私小説」と「社会科学」

戸石 泰一 62

(*画)

井上長三郎 109
118

間島パールチザンの歌

楨村 浩 63
67

(*画)

井上長三郎 109
115

反戦詩人楨村浩について——忘れ得ぬ思い出の

ために

野川 秀夫 67
71

ために

野川 秀夫 67
71

解説 平和の戦士エレンブルグ 泉 三太郎 109
114
115

婦人輸送船

杉村 光子 72
89

『異本 反戦文学全集』内容見本 (*マンガ)

(*画)

佐藤 忠義

佐々木 哲 119
121

72・76
77・82
83

映画

解説 つくられた、というよりうまれたとい

「狂宴」撮影にボスの妨害 陽春の話題作

展望

記録的芸術作品 若き親衛隊

三つのメガホン

マンガ題名拝借

演劇 明るくなつた「どん底」——文学座公演

忠 126

歌う明日のために

草深し

(*画)

135・140
141・147

民族本来の姿を「抵抗」としてとらえている

朴 元俊

152
153・151

少年よみもの 鉢の木のなぞ

岩倉 政治 154
159・134

(*画)

老人

(*画)

解説 被抑圧者の国際的連帯性

一齣

富士 正晴 169
187

新島 繁 168

小沢 清一 160
161

藤森 成吉 160
167

遠藤てるよ 154
157

(*画)

山崎 郷 169
172・173
180・181

戦争の被害者としての日本人と中国人とのち

がいを文学はオミットすることができない

(*解説)

叙事詩 妙義のいわはだ

戦争の中で生れた「山の民」

姿なき游撃隊長

(*画)

198・204
205・218
219

「正義の戦争」ゆえのあかるさ (*解説)

竹内 実 221
222

日本文学学校第二期生募集

日本文学学校事務局

あとがき

222

第二集 一九五四(昭和二九年)年七月一日発行

〈恋愛と青春のために〉

表紙

内田 巖

発火点	足柄 定之	8	38	海の誘惑	竹内勝太郎	89	90
(*画)	桜井 誠	8	22	手	富永 太郎	91	91
愛と結婚のモラルについて	杉浦 明平	39	45	六月の雨	中原 中也	91	91
チャンス	太宰 治	46	52	虹とひとと	立原 道造	92	92
(*画)	長沢 節	46	47	十一月	伊藤 整	92	92
手袋	由起しげ子	53	57	悲歌	金子 光晴	93	93
(*画)	岡本 唐貴	53	56	労働の中の愛	小熊 秀雄	93	94
もの食う女	武田 泰淳	58	64	君の肉眼の上の一噴きの涙は	野間 宏	94	95
(*画)	朝倉 撰	58	59	解説 詩心をすりへらさぬこと	安東 次男	95	98
表紙絵「少女像」について	内田 しづ	64	64	座談会 明日の恋愛のために	乾孝 / 学生有志	99	108
恋愛——その貧困を救うには	阿部 知二	65	70	愛と生活の記録			
小二黒の結婚	趙 樹理	71	76	ともかせぎ教師のねがい	島 伸夫	109	113
映画「太陽のない街」——二つの恋愛について		77	78	話し合う恋	扇能 忠生	113	115
不滅のうた「インターナショナル」		77	78	結婚まで	中村みどり	115	118
モーリス・トレーズ、津倉淳訳		79	87	嵐の中の青春——獄窓と学窓を結ぶ手記	林恭護 / 丸山やす子	119	123
恋愛名作詩集——安東次男選		79	87	若者の瞳 (*詩)	林 恭護	123	123
山に登る	萩原朔太郎	88	88	ぐみの木——ロシア民謡 (*詩)			
夜の二人	高村光太郎	88	88	愛情と性欲——男女の正しい結びつきを獲得するには……	玉城 肇	124	127

ニノチカの像——夜学生堀光夫のはなし

小林 勝 128 ~ 137

(*画) 箕田源二郎 128・135

あいびき 黒井 力 138 ~ 150

(*画) 赤壁美紗子 138 ~ 139・146 ~ 147

世界の私達の兄弟へ——旭が丘中学生徒会のア

ツピール 半田 義之 151 ~ 160

赤い緒の下駄 久保 孝雄 151・156

(*画) 私たちは知っている (*詩) F 160

永遠は暁に始まる フランソワーズ・ドーボンヌ、柁木恭介訳 161 ~ 173

読者通信 内池滋 / 新里康三 / 長谷川勉 / 笠尾軍治 174

あとがき 174

表紙

目次カッター 栗津 潔

『日本の記録』発刊にあたって

野間宏、別冊文学の友編集部 (3)

原水爆禁止署名運動を八千万のものに (6)

生活記録運動と国民文学 戸石 泰一 8 ~ 11

この鎖を断て

——夏川ファッショとたたかう白ハチ巻の乙女たち

(*詩) 篠原かく代 12

近江絹糸となかまたち——津工場争議応援の

記録 沢井余志郎 12 ~ 27

彦根工場橘春子さん(一七)への母の手紙 14

ひととき (*詩) 赤羽とみ子 16 ~ 17

慰霊祭——二十三人の犠牲者に捧げる (*詩)

菅原いつえ 18

休憩どき (*詩) 新里 石子 19

不安 (*詩) 須田 正子 20 ~ 21

予備隊はごめんだ (*詩) 呉井ふじ子 22 ~ 23

蜜柑色の灯の下で (*詩) 阿久根 恵 24 ~ 25

念仏のうた(黒人民謡) / 起ち上つた労働者

第三集 一九五四(昭和二九)年一〇月一日発行

〈日本の記録〉

(民族独立行動隊)

近江絹糸寮生活の記録——夢と不安と怒りを

こえて

戸川 節子 28 ~ 35

フラフラ節——アホラシの巻 (*詩)

35

新しい愛情

水沢宏 / 今泉良子 36 ~ 39

(*詩)

三村 繁子 36

美しい心のために 古い日記よさようなら

——愛情の苦難にたえて

中村 明子 40 ~ 46

シグナルは青だ——前進する国鉄労働者

くつじよくをけつて

青木 一郎 47 ~ 50

ビラ (*詩)

やま・まさを 50

年末斗争日誌 前進のあしおと

前島 利平 51 ~ 54

てつ夜の客車洗い

黒川 清 52 ~ 58

僕たちは玩具じゃあない

滝本 清 54 ~ 58

僕らで作った幻灯——『駄手物語』ができる

まで

林 昇三 59 ~ 62

雑草の緑 (*詩)

竹内 和志 62

光栄ある攻撃——日鋼室蘭工場でのたたかい

窪田 てつ 63 ~ 68

鋼をきたえるものよ (*詩)

吉田美千雄 65

世にも不思議な物語り 金トト王国の出現

69

行く手には光がある——労働者の統一のために

益田 哲夫 70 ~ 78

皆はたらいだ (*詩)

長谷 留治 71

太陽の子 (*詩)

藤田 弘輝 72 ~ 73

怒り (*詩)

藤田 弘輝 74

去る友よ (*詩)

中里くみ子 75

室町二番地 (*詩)

北 典夫 76 ~ 77

最後の手紙

浜賀 知彦 78 ~ 79

波多間君の手記 力——生え出ずる芽は鉄板を

通す

79 ~ 85

激突——どんとこい斗争の一齣

80 ~ 82

ビラ入れ (*詩)

浜賀 知彦 84 ~ 85

土と汗と——新しい村づくりのために

かがりや——私は農村をとび出したけれど

森田千鶴子 86 ~ 90

(*詩)

びんぎり (*詩)

多岐 茂夫 87

奥羽線Y駅にて (*詩)

小坂 太郎 88

農繁期（*詩）	楠本よし枝	90	おれたちの生活——けつまずいてもころんでも	浅井 弘	123 ~ 125
牛（*詩）	松崎 一正	90	霧の飯場——或るニコヨンの日記	松本 信也	125 ~ 128
ヤロビ結婚	黒木 正彦	91 ~ 93	おれたちの血を（*詩）	有安 茂	128 ~ 130
黄金の穂波はざわめく（*詩）	山中 一郎	92	秋空ばかり美し——病に抗して	古野 八郎	130 ~ 132
山里の診察室	生田 勉	93 ~ 95	兄への手紙——夜学生は斗う	浜野 童	131
健康なやつだけを（*詩）	北本 哲三	94	かえうた しらないまに	有田 吉平	133 ~ 136
宣誓拒否——ある自衛隊員の手記	安部 晟俊	96 ~ 98	煙突から煙が出る日まで——俺たちこそ再建の主人公	野間 宏	137 ~ 140
ノートの落書（*詩）	谷 雄二	97	新しい人間の誕生	真鍋 呉夫	140 ~ 142
文化サークルの活動のために	宮下 弘治	99 ~ 102 ・ 173	生活記録の意義と方法——『生きる』を例証として	滝崎安之助	142 ~ 146
サークル誌が出来るまで——A会での経験	S	103 ~ 104	税金・商店・委員長——暴力徴税をはねつける街	秋山 勉	147 ~ 149
サークルをはじめてつくる人々のために	U	104 ~ 106	練馬南町一丁目——復刻版「赤旗」第四巻を見	菅原 克己	150 ~ 151
生活記録・手記の書き方——はじめて書く人々	K	107 ~ 108	て（*詩）	ああの頃のこと	150 ~ 151
のために			ああの頃のこと	越山 正人	152 ~ 155
御協力をくださった方々		109 ~ 110	ああの頃のこと		
別冊文学の友第4集原稿募集		111	ああの頃のこと		
もう一つの「アメリカ」——映画「地の塩」について	千田 義人	112 ~ 119	ああの頃のこと		
新しい風よ 吹け			ああの頃のこと		
土にすわつて——母は強し	山田 君子	120 ~ 122	ああの頃のこと		

炭鉱をまもるもの——三鉱連、首切り反対斗争より

あとがき

こぶしはふるえて……

松尾 晴輔 156

ぼくは炭こうはすきだ (*詩)

160

(*詩)

今田 義光

157

悪水川のうた (*詩)

出海 溪也

158

一家のにくしみをこめて

竹内 俊雄

159

いしひろい (*詩)

160

われわれのうしろの黒い手——退職者と借金

161

北村千麻夫

162

(*詩)

冬木 月夫

163

家ぐるみ町ぐるみ

164

切られても地獄残つても地獄——首切り返上

165

デモ

或る主婦の手記より

166

炭婦協ジグザグデモ

うえの・のぶゆき

167

会社幹部夫人と会つた日

椎葉 つね

168

山ノ上のかがり火

169

獄舎の暴言

古賀 進

170

勝つたぞ (*詩)

171

読者通信

林上 十吉

173

174

単行本

『小林多喜二——人と作品』

(岩上順一著、一九五二年二月、人民文学社)

まえがき

赤木 健介 3 5

1 小林多喜二はこうして殺された

7 11

2 小林多喜二の生涯

11 19

3 「防雪林」と「不在地主」——農民をとり

あつかった作品

19 25

4 「蟹工船」——労働者をとりあつかった作

品

25 27

5 「一九二八年三月一五日」と「党生活者」

——権力のバクロとそれにたいする不屈のた

たかい

27 31

附録 多喜二略年譜／参考図書

32 34

索引

あ

- | | |
|---------------|--|
| あいくに・わへい(わへい) | 2-9-74,
2-10-56, 2-11-53, 3-3-28 |
| I 生 | 3-2-73 |
| 相田百世木 | 2-4-15 |
| 艾 青 | 4-2-60 |
| あいはら・きよし | 2-1-76 |
| 相原克允 | 4-2-180 |
| 相原文雄 | 2-10-83 |
| 相原美子 | 5-10-80 |
| あおき・あきら | 5-7-63 |
| 青木 麿 | 4-7-67 |
| 青木一郎 | 別3-47 |
| 青木修三 | 3-7-4 |
| 青木倍夫 | 3-1-111 |
| 青倉月海 | 2-5-62 |
| 青倉人士 | 2-6-52, 2-8-29, 2-8-95 |
| 青沼律子 | 6-2-17 |
| 青森労働者文学研究会 | 2-5-8,
2-11-48, 2-11-75 |
| 青柳昭夫 | 3-11-133 |
| 青柳照夫 | 3-11-57 |
| 青山光二 | 4-2-112 |
| あかい・いさむ | 3-1-55 |
| あかい・いし | 3-4-82 |
| あかい・すゝむ | 2-11-65 |
| 赤石甚三 | 3-8-94 |
| 赤石達也 | 2-10-38 |
| 赤い薔の会 | 2-11-49 |
| 赤岩 栄 | 3-6-34 |
| 赤形直吉 | 3-2-70, 3-2-85, 3-3-29,
3-4-73, 3-11-135 |
| 赤壁美紗子 | 別2-138 |
| 赤木健介(A、伊豆公夫) | 1-1-50,
2-7-9, 2-8-46, 2-10-44,
2-10-113, 2-11-77, 2-11-113,
3-1-113, 3-2-70, 3-2-83,
3-2-113, 3-3-113, 3-4-110,
3-4-113, 3-5-129, 3-6-42,
3-6-44, 3-6-133, 3-7-38,
3-7-91, 3-7-129, 3-8-32,
3-10-32, 3-12-46, 3-12-68,
4-2-68, 4-2-80, 4-4-153,
4-4-附8, 4-6-138, 4-8-54,
5-1-31, 小-3 |
| 赤城さかえ | 4-4-40 |
| あかぎ・しげお | 4-6-144 |
| あかしごろう | 4-1-138, 4-6-158 |
| 赤羽とみ子 | 別3-16 |
| 赤間勝美(あかまかつみ) | 3-6-102,
4-4-168, 6-2-15 |
| 赤松俊子 | 4-8-59, 5-1-1, 別1-表紙 |
| 赤松まり | 4-8-124 |
| 阿川弘之 | 5-6-4, 5-11-7 |
| 秋田雨雀 | 2-5-55, 3-6-34, 4-4-附7 |

- | | | | |
|---------------|---|---------------|--|
| 秋月人見 | 3-1-66 | あつし・こじおー | 3-11-134 |
| 秋葉恵子 | 5-3-50 | 熱田五郎 | 2-9-83, 3-7-111, 4-3-8,
4-4-附8, 5-2-68 |
| 秋山軽太郎 | 5-7-61 | 姉崎哲夫 | 4-6-162 |
| 秋山銑夫 | 4-8-89 | アブザグ, マーチン | 4-4-115 |
| 秋山 勉 | 別3-147 | 阿部市次 | 2-4-44, 2-8-63, 3-1-111,
4-11-120 |
| あきら・みえ | 3-1-66, 3-3-110,
3-4-112 | 安部公房 | 3-3-27, 3-5-104, 3-10-1,
3-12-21, 4-2-112, 4-4-126,
4-4-附8, 4-9-140, 5-1-28,
5-2-50, 5-3-68, 5-4-50,
5-4-52, 5-6-18, 5-10-49,
別1-91 |
| 阿久根恵 | 別3-24 | 安部晟俊 | 別3-96 |
| 明野 進 | 3-7-65 | 阿部知二 | 4-5-104, 5-8-12, 別2-65 |
| 赤馬吉直 | 3-1-95 | 阿部文勇 | 3-11-40 |
| 浅井秀夫 | 5-2-96 | 安部真知 | 別1-91 |
| 浅井 弘 | 別3-123 | 阿部義治(阿部よしはる) | 3-6-71,
3-6-103, 4-2-99, 4-2-105,
4-2-181 |
| 朝香顕二郎 | 3-9-105 | 阿部・小松救援会 | 5-1-95 |
| 朝香進一 | 2-11-63, 3-5-88, 3-8-48 | 天野一夫 | 3-5-103 |
| 朝倉 撰 | 別1-48, 別2-58 | 天野一也 | 3-7-95, 5-3-67 |
| 浅沼源治 | 2-3-92 | 荒 正人 | 2-5-56, 3-9-45, 別1-45 |
| 浅野 | 2-4-5 | 荒井 勇(あらい・いさむ) | 2-4-46,
3-3-66, 3-3-109, 3-4-112,
3-5-72, 3-6-16, 3-6-92,
3-6-102, 3-7-65, 3-7-66,
3-8-95, 3-9-105, 3-10-56,
4-1-114, 4-5-130, 5-3-77 |
| 浅野 行 | 4-4-173 | 新井一雄 | 5-4-94 |
| 浅野純一 | 2-8-22, 2-10-55, 3-1-66,
3-2-70, 3-6-93 | 荒井金弥 | 1-2-71 |
| あさはら・こうじ | 3-11-178 | 新井紅石 | 2-5-62 |
| しげる・あさむら | 4-5-98 | 荒井 肇 | 5-3-49 |
| 葦百合子 | 2-8-4 | | |
| 足柄定之 | 4-5-8, 4-6-8, 4-7-112,
4-8-131, 4-9-68, 4-10-108,
4-11-75, 5-3-24, 5-4-52,
5-6-4, 5-7-41, 別2-8 | | |
| 芦田 弘 | 4-7-168 | | |
| 東 竹雄(東竹男、東、竹) | 2-7-52,
3-1-75, 3-12-13, 3-12-68,
4-3-95, 4-3-183, 4-4-191,
4-10-74, 4-11-148 | | |
| 東 武雄 | 2-5-62, 4-1-129 | | |
| 東 八郎 | 3-5-102, 3-6-101 | | |

新井八郎	5-7-55	池田良子	5-1-54
荒川署四四号	4-1-181	居 坂	2-4-27
アラゴン, ルイ	3-9-41, 4-7-26, 5-11-14, 5-12-28	イサコフスキー, エム	2-7-60
新里石子	別3-19	イシアントウラエワ, サラ	2-3-85
新里康三	別2-174	いしい・こう	3-6-68, 3-10-105
荒田弘子	5-11-80	石井 努	2-10-38
有賀清己	3-5-72	石井藤子	2-6-76, 2-7-58, 3-5-19, 3-6-44
有田吉平	別3-133	石井真朱男	3-2-85
有馬文武	3-6-103	石垣りん子	4-2-80
有本牛彦	4-4-173	石川文子	4-1-130
有安 茂	別3-128	石川 清	3-6-68
粟津 潔	5-8-66, 別3-目次	石川 淳	別1-127
安藤長蔵	2-1-96	石川達三	2-10-4
安東次男	3-1-39, 3-12-52, 4-3-95, 4-4-163, 4-4-附8, 4-7-72, 4-9-133, 5-2-38, 5-4-36, 5-4-40, 5-5-48, 5-5-53, 5-6-49, 別2-95, 5-3-72	石川冬子	3-12-61
安藤彦太郎	3-11-61	いしかわみつお	3-7-67
安藤正昭	2-11-93	石川 湧	2-11-57, 4-1-132
アントーノフ	2-10-84	石黒 博	5-1-94
飯島俊一	4-3-目次, 4-3-カット, 4-9-カット	石黒米次郎	2-9-78, 3-1-77, 3-7-76, 3-11-107, 4-4-146
飯田実治	3-2-69, 3-3-111	石毛助次郎	2-1-64, 2-5-71, 2-10-93
家城巳代治	5-5-75	石沢 武	3-7-65
五十嵐武司郎	4-6-181	石 二	3-11-38
生田 勉	別3-93	石田 仁	2-8-93, 3-4-111, 3-8-43
池上徳三	3-5-72	石田幹雄	2-4-76, 3-1-25
池田誠治郎	4-1-16	いしだ・みちお	4-6-146, 6-1-22
池田竜雄	4-7-46	石田ゆたか	4-2-96
池田虎之助	3-5-90	石田幹雄	3-6-38
池田久子	3-8-89	石谷良三	4-9-140
池田 洋	5-5-4	石塚友二	3-3-22
		石野健吉	3-8-38
		石橋二郎	3-6-100, 3-6-101
		石橋貞次	2-5-62

石原青竜刀	3-4-73, 3-6-70, 3-11-57, 4-2-105, 4-7-163, 4-7-180, 4-11-74, 5-7-40	伊藤徳次郎	5-1-32
石原健夫	2-7-63	伊藤登美子	3-11-81
石原 正	2-11-92	伊藤 一	3-8-2
石本かずえ	4-1-141	伊藤 洋	2-3-92
伊豆公夫→赤木健介		伊藤まき	4-9-149
いずみきよし	2-11-93	伊藤義夫	5-5-32
出海溪也	別3-158	伊藤吉太郎	3-9-20, 3-11-78, 3-11-80, 4-9-150
和泉鋼吉	5-1-86, 5-8-4, 5-10-23, 6-1-38	糸川健一	3-3-111
泉三太郎	5-4-63, 5-5-60, 5-6-64, 5-7-68, 5-12-26, 別1-118	糸野つぎ子	3-6-56
泉ふか子	3-10-56	稲垣 哲	2-11-92
泉沢 俊	4-1-114, 4-5-40	稲垣元博	4-6-142
いぜき・みちお	2-11-39, 2-11-63, 3-3-65, 3-7-86, 4-1-43, 4-8-49	稲葉とよ子	5-11-1
磯 武平	3-1-76	乾 孝(いぬい・たかし)	3-11-59, 3-12-82, 別2-99
磯田敏夫	5-1-62	乾 弘	3-8-2
いその・ありひで	4-2-17	猪野謙二	3-10-1, 4-6-132, 別1-18
磯村英樹	3-11-40	猪野健治	3-11-133, 4-3-126
板橋ひさ子	5-8-33	猪野千鶴	3-3-53
伊知井幸三	2-3-42	井上正蔵	4-4-附1
市谷 博	5-3-51	井上知恵子	4-3-83
市川楽三郎	2-5-10	井上長三郎	4-7-目次, 4-9-表紙, 4-9-111, 4-10-54, 別1-109
一 読 者	3-12-40	井上俊夫	2-7-57, 4-1-142, 4-3-89, 4-5-43
一 老 人	4-1-179	井上友一郎	3-3-25
いでい冬平	2-5-62	井上 満	3-2-91
伊藤永之介	4-8-43	井上靖子	4-2-99
いとうかつえい	4-3-111	井之川巨	4-2-97
いとうけんきち	4-3-111	今井教子	4-9-132
伊藤 仁	4-5-174	今井 隆	2-7-59, 3-5-87
伊藤 整	別2-92	今井高行	4-11-133, 5-6-96
		今井 正	3-4-111
		今井哲郎	3-5-72

今井朝二	4-11-60	岩瀬日出雄	2-6-63, 2-8-6
今泉良子	2-10-52, 5-9-19, 別3-36	岩田 清	3-4-55
今岡正三	2-6-58	岩田恒雄	3-1-66, 3-6-92
今田義光	別3-157	岩田ようこ	3-12-58
今村景火	2-5-62	岩藤雪夫	3-5-93
いむた・ささこ	3-2-72	岩間正男	4-8-174
入江澄夫	1-2-71, 4-4-182	岩本みつ江	3-6-69
入江つとむ	3-11-82	因藤莊助	3-2-61
入山仁一	2-10-38	上坂くにお	3-4-65, 3-6-69, 3-7-67
イルレス, ベラ	別1-48	上坂国博	3-1-66
岩井孝二	2-7-95	上杉捨彦	4-2-106, 4-3-80, 4-4-165, 4-5-100, 4-6-111
岩井哲郎	3-12-63	上田千之	2-2-62, 4-7-181
岩上順一	2-7-4, 2-7-54, 2-8-82, 2-10-15, 3-2-81, 3-3-46, 3-3-52, 3-5-74, 3-7-91, 3-9-118, 3-10-123, 4-1-133, 4-2-8, 4-2-112, 4-2-120, 4-3-128, 4-4-附8, 4-7-140, 4-7-170, 4-9-84, 4-10-74, 4-11-66, 5-7-88, 5-7-88, 5-9-64, 5-10-70, 5-11-35, 小-7	上野英信	6-2-4
岩倉政治	2-2-56, 3-2-99, 3-3-84, 3-8-111, 3-9-56, 3-10-88, 4-1-53, 4-3-112, 4-9-101, 4-10-8, 5-3-58, 別1-154	うえの・のぶゆき	別3-166
岩崎 昶	2-8-60, 4-2-112	上原暁子	5-7-30
岩崎茂夫	5-9-80	上原康文	2-8-29
いわさき・ちひろ(岩崎ちひろ)		うえまつ・かずお	2-10-74, 2-10-82, 2-11-77, 3-1-112
2-8-目次, 別1-8		植松和人	3-1-66, 3-4-82
岩崎宏文	3-1-88	上村朝子	6-1-10
岩沢克子	2-8-29, 3-2-70, 3-2-85	植村 諦	2-11-74
岩沢道子	3-2-85, 3-6-68, 3-7-67, 4-2-99	上村 武	5-10-51
		上村白塔波	2-5-62
		鵜飼礼子	4-2-80
		宇佐美静治	4-9-128, 5-3-81
		うさみなおき	2-6-62, 3-5-56, 3-5-91
		氏家惇二	2-9-70
		潮 文子	6-2-18
		潮田春苑	2-6-73, 3-6-104
		牛越玉恵	1-2-61, 2-1-63
		宇田 礼	3-7-89, 3-11-109, 4-2-60, 4-11-102

宇多川良	2-4-37	STAB	6-1-44
内池 滋	別2-174	S・U	4-1-181
内田 巖	3-3-24, 3-4-57, 4-3-表紙, 別2-表紙	江刷屋珪子	4-5-7
内田しづ	別2-64	枝 法	4-4-附4
内灘村接收反対実行委員会	4-10-8	江津菘枝	4-5-56
内野由輝男	3-5-72, 3-6-69, 3-7-67	H	4-2-183, 4-3-183, 4-5-183, 4-9-151
内堀和泉	6-2-20	江頭 茂	5-3-95
内村 清	4-7-181	江藤 徹	4-2-95
内山完造	2-10-4, 2-11-55, 4-5-149	榎本春吉	3-5-98
内山賢次	2-10-5	江原光太	2-1-96
海上とし子	2-10-55, 3-6-69	海老名礼太	2-8-94
海野岩雄	2-6-73, 4-2-99	海老原友忠	4-5-カット, 4-6-カッ ト, 4-7-カット, 4-9-カット, 4-10-55
海野孺子	3-8-93, 4-1-129	海 老 原	4-11-カット
海野猛雄	4-10-57	F	2-2-85, 2-3-80, 別2-160
海野なるみ	4-2-97	江馬 修(江馬なかし、江馬生、な かし)	1-1-52, 1-1-64, 1-2-26, 1-2-73, 2-1-97, 2-2-4, 2-2-23, 2-2-97, 2-3-1, 2-4-1, 2-4-48, 2-5-1, 2-5-97, 2-6-97, 2-7-14, 2-7-97, 2-8-50, 3-12-148, 4-1-88, 4-2-159, 4-4-附8, 4-5-131, 4-7-164, 4-9-8, 6-2-51, 別1-196
梅崎春生	3-7-68, 3-10-1, 5-1-42, 別1-26	M	4-1-167, 4-4-191, 4-5-183, 4-6-183, 4-7-164, 4-7-183, 4-8-182
梅田 正	3-2-70, 3-3-82, 3-6-92	M・I	3-2-72
漆畑吐志男	2-5-62, 2-7-62, 2-8-29	M 生	2-2-60
運 送 屋	3-6-41	エリュアール, ポール	4-2-56, 5-4-36, 5-10-1
うんなん詩の会	2-11-74		
A→赤木健介			
江上つぎお	2-3-40		
江木タツミ	3-11-44		
江口 渙	3-7-13		
江口榛一	2-11-74		
江口のぼる	2-5-62		
江口 寛	3-11-19, 4-8-49		
江崎美実	2-8-29		
S	4-1-167, 5-1-96, 5-2-97, 5-3-96, 5-6-96, 5-7-96, 5-8-35, 別3-103		
S 生	5-3-95		

エレンブルグ, イリヤ	4-3-72,	5-2-1	
	4-10-46, 5-4-63, 5-5-60,	大田 守	3-7-66
	5-6-64, 5-7-68, 別1-109	大田洋子	別1-33
遠藤てるよ	3-10-72, 別1-154	太田義久	3-10-57
おいかわ・とおる(及川とおる)		大竹直子	4-3-111
	2-4-46, 2-5-34, 2-11-48,	大竹博吉(おおたけ・ひろきち)	
	3-1-53, 4-1-カット		2-1-13, 4-11-130
近江幸正	2-5-7	大谷竹雄	3-8-64, 4-4-60, 4-8-174
大 井	2-4-5	大谷久次	5-7-96
大井一男	3-7-65	おおつ・まさこ	3-7-64, 3-10-57
大井四郎	3-8-93, 3-9-105	大塚 勇	6-1-表紙
大内 卓	2-1-96	大塚キミコ	4-3-145
O・S生	2-7-13	大塚敬三	4-7-107
大岡昇平	4-8-22	おおつか・まさこ	3-6-92
大木石子	2-6-73, 2-8-29, 3-5-71	大津詩人集団	3-1-52
大木清一	3-1-112, 3-3-54	大照八重子	3-10-56
大久保忠利	5-3-84	鳳 真治	3-8-92, 3-10-54
大倉君枝	4-7-180	ヨーコ・オートリ	3-10-54
大蔵千穂	2-5-62	大野加代	3-8-25
大阪 操	4-4-158	大野健一	3-6-92
大崎栄太	2-4-45	大野 碌(おおの・ろく)	3-4-98,
大崎倫夫	5-4-19		3-5-115, 3-6-カット, 3-7-31,
大里人文友の会	5-1-94		3-7-106, 3-8-101,
大沢三太	3-9-73		3-12-カット, 4-1-カット,
大沢盈夫	4-11-64		4-3-カット, 4-4-150,
大島博光	4-2-40, 5-6-49		4-4-カット, 4-5-カット,
大島浜吉	2-10-81		4-7-カット, 4-9-カット,
おおせき・こういち	2-5-35, 2-5-69		4-10-カット, 別1-54
大逸敬二郎	2-6-72	大野碌郎	3-1-カット
太田愛子	6-1-10	大場 進	2-3-57
太田和枝	5-6-95, 5-8-32	大橋利広	6-1-17
太田狷之助	2-10-55	大原三郎	4-6-104
太田順治	3-8-2	おおはら・よしお	2-6-72
太田省次	2-4-45, 2-8-21, 2-9-29,	大堀 勝	4-1-115, 4-1-129

大間信一	4-7-108	おがわ・けん	5-2-8
大宮 健	4-4-173	小川三郎	3-8-92
大牟田風流グループ	3-4-87,	小川せつ	5-6-37
3-5-80		小川 銑	3-8-1, 3-9-前付1,
大室 茂	2-7-95	3-9-前付1	
大森ひろし	3-5-100	小川達彦	3-4-82
大山郁夫	3-4-1	沖田一男	4-6-95
大山和枝	5-3-48	荻原花子	4-2-91
大山みよ子	2-8-4	沖村喜美子	5-8-51
おおよし・まさる	5-5-32	奥田 武	3-11-57, 4-2-105
岡亮太郎	3-10-67, 4-2-80, 4-3-95,	小口一郎	3-7-13, 4-3-カット,
4-4-163, 4-11-62		4-4-7	
岡崎ふゆ子	2-3-78	奥野竹治	4-3-144
小笠原強	5-3-78	おくはら・かねお	3-8-92
小笠原八重	5-4-19	小熊忠二	4-9-129, 4-11-61
岡田一夫	3-1-80	小熊秀雄	別2-93
岡田十良松	3-1-112	ケンキチ・オサ	2-5-62
岡田よし子	4-3-143	尾坂徳司	5-2-47
岡田芳彦	3-3-111, 3-6-60	長田時子	4-3-144
岡野敬二	4-9-105	長部舜二郎	3-8-63, 4-4-148
オカノ・ケン	3-1-67	小沢 清	3-1-84, 3-4-25, 3-6-44
岡部光男	3-2-70	小沢清一	別1-160
岡村 栄	4-2-182, 4-3-145	小沢太子	2-10-81
岡本一彦	2-9-72	小沢とおる	3-6-71
岡本敬一	6-2-18	オストロフスキイ	2-1-13
岡本重吉	2-5-38, 3-4-56, 3-7-87	押 仁 太	2-2-81, 2-4-表紙,
岡本 潤	4-1-179, 4-2-45,	2-6-41, 2-10-101	
4-4-附2		小関 茂	3-12-26
岡本 勉	3-11-168	小関芙美子	3-6-69, 3-7-67
岡本唐貴	別2-53	小田玲子	5-10-35
岡本俊夫	3-3-63	小田切秀雄	4-4-附2
岡本芳雄	5-3-95	小田島森良	5-12-50
岡山幸子	5-2-79	音 無 庵	3-3-45, 3-4-65
小川宇一	2-9-29	小野 篤	4-7-180

小野 英 2-8-93, 4-3-24, 4-4-143
 小野十三郎 2-11-74, 3-3-23,
 4-2-48
 小野友吉 3-12-65, 5-11-8
 小野 弘 2-7-93
 斧 由男 2-9-72
 おのだ・すゝむ 2-4-47
 小場瀬卓三 2-10-4, 3-3-24,
 4-8-174, 5-2-93, 5-11-14,
 5-12-28
 小幡陽一 5-1-37, 5-2-6, 5-2-8
 小保方康年 4-4-182
 小村 弘 2-11-91, 3-2-70, 3-2-85,
 3-3-44, 3-4-65, 3-4-82
 小宅隆幸 5-9-80
 オンチ詩人グループ 5-4-73

か

高 玉宝 4-1-44
 加賀耿二 2-6-41, 3-1-96
 化学太郎 4-1-178
 香川一彦 2-11-93, 3-4-111
 加川定雄 5-12-42
 加川治良 4-1-146
 郭 沫若 2-1-2, 2-9-71, 3-10-18
 影山 啓 3-2-63
 加古里子 4-4-180, 4-5-146
 笠尾軍治 別2-174
 笠置正邦 5-7-40
 鹿地 亘 1-2-38, 1-2-50, 2-3-38,
 4-1-6, 4-4-178, 4-9-52
 香椎敏衛 3-3-82, 3-5-115, 3-8-82,
 3-10-106, 4-4-147, 4-4-150
 かしはら・かずを 2-5-83, 3-10-50

加島重作 4-3-160
 鹿島てる 2-1-96
 梶本準一 2-7-95
 柏木源蔵 3-5-22
 柏原知広 4-5-121
 春日きよみ 5-8-7
 春日正一 2-5-33, 2-6-53, 2-7-17,
 2-11-76, 3-2-82, 3-3-30,
 3-6-77
 片倉照男 3-7-80
 形屋政美 4-11-42
 片野 潔 4-6-42
 片羽登呂平 2-2-24, 3-1-52,
 4-2-98, 4-9-127
 勝 宗章 1-2-71
 勝谷ふきお 2-2-39
 加藤朝吉 2-4-47
 加藤謙三 2-10-41
 加藤三佐 2-8-96
 〔加藤〕楸邨 2-8-17
 加藤超子 5-7-60
 加藤紀夫 1-2-71
 加藤平八 4-7-155, 4-10-24,
 4-10-30, 4-11-102
 かとうよしこ 4-3-110
 加藤佳郎 3-10-70
 門久綾子 5-8-9
 金井 広 2-3-93, 4-6-54
 金親 清 2-5-56, 3-1-2, 3-4-5,
 3-5-108, 3-6-118, 3-7-20,
 3-7-124, 3-9-106, 4-8-174,
 4-10-70, 5-9-44
 金子明子 5-5-96
 金子蛙次郎 2-6-72

金子光晴	2-10-3, 別2-93	河原一枝	2-11-83
金田明夫	2-6-75, 2-9-67, 3-6-92, 3-9-105, 4-1-114, 4-3-126, 4-7-55	川原 浩	4-3-147
金 永生	5-11-26	川村志青	2-5-62
かのおおる	4-4-161	河村まさ子	3-8-84
稼農アサ子	5-4-94	川本 純	6-1-16
加辺利二	5-7-96	川本松三	5-8-66
鎌田うた子	5-4-19	河原崎長十郎	1-2-65, 2-5-56, 3-3-26
かまた・ひろし	5-5-58	甘 文芳	2-9-39
神近市子	3-3-27	韓 炳玉	5-12-64
神山勝治	3-7-67, 3-8-93	カングラティの農民	5-3-11
神山彰一	3-10-39, 3-11-82, 4-1-159, 4-4-附8	神沢知義(神沢ともよし)	3-11-57, 3-11-133, 3-11-135
神 老	3-3-63	菊池謙一	4-1-123, 4-10-8
亀井勝一郎	2-11-54, 5-3-28	きくちさかり	2-7-56
亀下てつし	4-4-172	岸佐千子	4-3-144
加茂六郎	3-4-82	岸 美枝	5-7-29
唐木田明雄	3-2-45	貴司山治	3-4-49
烏 徹	2-10-24	岸佑喜夫	5-7-62
ガリソン, ウイリアム・ロイド	6-2-1	木島 始	3-2-79, 4-1-177, 4-2-56, 4-2-57, 4-4-附8, 6-1-37
かわい・ゆりこ	4-10-59	記 者	3-2-4
河合好子	2-5-94	木曾弥市	3-12-8, 4-6-156
河内南天	4-7-180, 4-11-74	きだ・かおる	4-11-125
川上きよ	5-8-42	北 民彦	3-7-71
川久保正博	3-2-72	北 輝男	4-1-143
川崎隆志	2-2-24	北 典夫	別3-76
川崎 徹	3-7-66, 4-2-99	北丘求介	2-5-62, 2-11-93
河尻隆次	4-4-カット	北奥三郎	2-6-48
河田良三	3-6-57	北川昭夫	3-6-93
川 野	4-10-148	北川吸江	2-11-91
河野貞子	3-6-92	北川雅一	5-9-80
川原 治	2-5-39	北沢 実	5-12-10
		北塔英示	2-9-29

北原れい	4-1-144, 4-7-182,	金 龍楫	4-2-91
4-10-62		近代日本文学研究会	
北村千麻夫	別3-162	→日本近代文学史研究会	
北村透一	3-4-65	くきもとたけひこ	4-8-123
北本哲三	別3-94	くさか・まもる	2-11-77, 3-1-66
紀賀良之	4-2-99	くさか・よしすけ	2-10-75
木下順二	3-8-13, 4-11-118	草島ゆき子	5-8-80
木原速夫	4-4-75	草野和夫	5-4-29
キム・サング・オ	4-6-97	草野心平	4-2-112, 5-2-60
キム・ジヨギユ	4-6-96	草部典一	4-1-168, 4-5-154,
キム, ロマン	1-1-40	4-8-83, 4-11-141	
キムラ・キイチ	3-1-55	クジエアン・ジエウ	5-3-11
木村三郎	5-12-64	楠田俊子	2-2-94
きむら・しげとし	4-4-172	グスターヴ・ユスト	5-9-28
木村莊十二	4-6-164	楠本よし枝	別3-90
木村鉄路	2-8-29, 3-2-85	工藤武雄	2-5-85
木村成敏	3-10-57	国井清文	6-1-27
木村 浩	2-10-20	国木田稔	2-10-38
木村落子	4-3-127	久野 和	4-2-109
木村幸雄	5-12-4	久保 栄	3-3-24
木目田蟻夫	5-4-26	久保孝雄	別2-151
姜 喜鉄	3-4-82	久保田正一	4-7-37
京大文学サークル	3-1-40	窪田てつ	別3-63
共同印刷労組人民文学友の会		窪田節次郎	3-5-32
2-5-6		久保田正文	3-3-25
京都詩文学作家集団	2-11-75	熊王徳平	3-11-110
金 敬在	2-9-1	熊木勢代子	2-9-29, 3-1-66
金 時鐘	5-12-24	熊本再春荘人民文学友の会	
金 昌洛	別1-135	2-11-42	
金 史良	別1-135	久米宏一	2-10-カット
金 達寿	5-3-56	倉石武四郎	2-11-51
金 哲	2-8-93	倉岡純一	3-3-112
金 徹昇	2-11-92	倉上二郎	2-8-29, 3-6-69, 4-2-99
金 就楫	3-9-52	クリーニング屋	3-6-41

栗風一平	5-7-51	「現在」の会	4-10-35
栗栖亀甲	4-11-74	小	5-4-35
栗栖 継	1-1-22, 1-1-25, 1-1-32, 1-2-28, 1-2-40, 2-1-85, 3-7-48	呉 林俊	3-6-102, 4-6-カット, 5-3-80
栗田 巖(栗田がん、くりたがん)	3-3-112, 4-1-179, 4-2-100	小泉みち子	2-10-61
栗林農夫	3-12-43, 5-1-44	黄 谷柳	4-3-68
呉 隆	2-9-76, 3-4-88, 4-4-附8	黄 成玉	5-12-20, 5-12-22
呉井ふじ子	別3-22	甲賀富士雄	4-4-182
黒井 力	3-12-99, 4-10-150, 別2-138	甲 吉	3-11-41
黒川 清	別3-52	高原詩の会	3-3-72
黒木正彦	4-4-182, 別3-91	洪 荒	2-6-目次
黒木みち子	5-2-42	小内原文雄	3-9-41, 4-2-20
黒崎桃吉	2-2-80	洪 寧	3-6-62
黒沢一太	3-3-44	河野 直	5-1-73
黒島伝治	別1-8	紅野敏郎	4-7-175
黒須童明	4-6-158	こうの・わたる	2-10-77
黒田喜夫	4-5-166, 4-8-88	河本武則	5-7-95
黒谷流二	3-2-64	好山 勝	5-3-5
桑島信一	2-10-4	紅 露	2-8-17
桑原 武	2-11-39, 3-1-112, 3-2-69	コージン	3-3-71
桑原 宏	3-7-96	ゴールド, マイケル	1-2-40
くわむら・こう	4-2-96	古賀 進	別3-170
桑山あき子	4-2-99	古賀光枝	5-6-36
郡司光雄	5-10-80	国際写真通信	3-8-前付2
群馬勤労者集団	2-11-75, 4-10-78	国分一太郎	5-2-14
圭 二	2-7-92	古 元	2-10-目次
K	3-10-55, 3-11-45, 3-12-30, 4-5-183, 5-1-96, 別3-107	小坂太郎	別3-88
K・I生	2-7-92	小島悦子	3-2-72
K・A生	2-10-52	小島 進	2-6-30, 3-4-17
権 敬沢	2-10-76	小島美代子	4-8-82
		越山正人	別3-152
		小谷一美	2-9-29, 2-11-76, 5-3-77
		小溪住久	4-9-51, 4-10-7
		小谷つや(小谷ツヤ)	3-2-85,

3-6-69
 ごとう・たかお 4-9-131
 五島武雄 3-12-41, 4-1-115
 ごとう・ひさお 3-9-104
 後藤 洋 4-4-181
 後藤料光 2-9-72
 小林 明 3-3-45
 こばやしじつや 2-8-9
 こばやし・つねお 2-3-59, 4-3-95,
 4-4-163, 5-3-82, 5-5-51,
 5-6-49, 5-7-66, 5-8-26
 小林哲平 2-2-20
 小林英次 4-1-129
 小林 勝 3-12-86, 4-1-8, 4-1-182,
 4-4-149, 4-4-154, 4-7-79,
 5-2-81, 5-4-52, 5-9-10,
 別2-128
 小林道哉 5-11-25
 小林玲二 4-7-180
 小牧近江 2-10-3, 3-3-24
 小俣陽一 6-2-21
 こまち・たかし 2-3-93
 小松 清 2-10-4
 小松三千夫 2-6-74, 2-7-68,
 2-9-67, 2-11-77, 3-1-66,
 3-3-7, 3-4-82, 3-5-72,
 3-6-92, 3-7-65, 3-9-105,
 3-10-56
 小松原徹 4-3-87
 ゴミ屋 5-2-65
 小宮昭子 2-8-29
 小室健一 4-2-99
 古茂田喜一 3-5-101
 小柳蛙飛 2-5-62

しげる・こやま 2-7-81
 小山田二郎 5-6-74, 5-7-81
 近藤 東 2-11-74
 近藤アツ子 3-6-39
 近藤篤子 4-5-108
 近藤 汎 4-4-41

さ

サークル誌をよむ会 4-8-55,
 4-10-74
 サークル土曜会 5-4-19
 斎木サチ子 2-2-93
 西郷竹彦 2-5-12
 西郷信綱 3-10-1, 4-7-15
 財津幸雄 3-1-112
 斎藤秋男 2-10-3, 3-3-33
 斎藤あつ子 4-8-80
 斎藤和子 4-8-81
 斎藤勝夫 5-4-95
 斎藤克己 5-7-95
 斎藤 清 3-3-110
 斎藤繁子 2-8-13
 斎藤利雄 3-6-105, 4-5-66
 斎藤ふみよ 2-5-94
 斎藤瑞穂 2-9-29
 斎藤 千(さいとうゆき) 2-1-96,
 2-2-93, 2-3-82, 2-4-29,
 2-6-61, 2-7-96, 2-8-12,
 2-8-64, 2-10-42, 3-4-83,
 3-5-73, 3-6-104, 3-9-53
 斎藤義治 2-10-52
 斎藤芳郎 5-11-52, 5-12-52
 斎藤隆介 3-4-29, 3-10-122,
 4-4-146

在日朝鮮文学会	2-9-38	坂本ゆり	5-1-24
佐伯	2-4-20	相良春子	2-6-64
佐伯良夫(さえきよしお)		佐川研二	4-11-133
1-2-カット, 2-1-56, 2-1-64,		佐川保治	5-2-64
2-5-71		佐木伸	5-2-42
佐伯わかえ	3-4-83, 3-9-104	向坂愁風	2-5-62
三枝ともみ	3-2-41	さきのかずこ	3-9-54
早乙女勝元	2-1-96	さきの・もりあき	3-9-55
阪 亜夫	5-3-79	佐久馬光男	5-7-95
さかい	4-10-78	桜井清助	3-10-122
酒井真右	2-2-26, 2-4-20, 2-10-79,	桜井忠雄	5-7-31
3-1-111, 3-5-96, 4-10-147		桜井博道	2-5-62
酒井孝	2-6-74, 2-7-81	桜井誠	4-5-108, 別2-8
サカイトルコ	2-10-1	桜井陽司	3-5-121, 3-7-97,
サカイ・トクゾー (サ、サカイ)		4-1-表紙, 4-4-カット,	
1-1-16, 1-2-49, 2-1-24,		4-6-カット	
2-2-26, 2-2-70, 2-5-30,		サクラサワ・ユキカズ	4-4-附7
2-5-36, 2-6-54, 2-8-57,		桜田良則	4-5-122
2-9-7, 2-10-1, 2-10-113,		ささすすむ	2-8-9, 2-11-49
2-11-66, 2-11-94, 3-2-1,		笹井徹	3-3-112
3-2-32, 3-2-38, 3-2-54,		佐々木彰	3-2-4
3-3-68, 3-3-72, 3-5-92,		佐々木悦子	3-9-105
3-5-104, 3-6-62, 3-10-64,		佐々木基一	5-1-16
4-2-52, 4-4-附8, 4-5-99,		佐々木忠	4-4-120, 4-10-57
4-5-168, 4-6-114, 4-7-42,		佐々木延子	5-8-31
4-9-134, 4-10-63		佐々木雪雄	6-2-23
坂井松太郎	別1-48, 別1-53	笹田久雄	5-5-56
境野みち子	4-2-102	笹本光一路	3-2-70
さかいばらいつお	2-5-37	サト・ヨシロー	3-5-72, 3-9-105
坂口ユイ	6-1-9	佐藤和男	4-4-181, 4-4-カット,
さかざきつねろう	3-11-98	4-5-カット, 4-6-カット	
坂下強	4-8-89	佐藤久良子	3-8-86
坂村忠	3-1-46	佐藤修一	2-5-15
坂本俊雄	2-4-24, 2-9-28	佐藤代治	2-4-44, 2-8-96, 2-9-73

佐藤精也	4-8-173	J	4-1-167
佐藤忠義	別1-72	塩川 潔	3-5-23, 4-4-附8,
佐藤忠良	1-1-カット, 1-2-カット,		4-10-74, 5-7-80, 別1-96
	2-1-46, 2-1-54, 2-2-27,	志賀智之	4-8-51
	2-2-73, 2-3-17, 2-3-33,	志賀はるみ	5-8-36
	2-3-43, 2-4-88, 2-5-63,	宍戸弥生	2-3-53, 2-11-60
	2-6-4, 2-7-カット, 4-5-表紙,	シチパチョフ, ステパン	3-2-4
	4-8-7, 5-1-表紙, 5-2-表紙,	じつかわ・すすむ	2-4-76
	5-2-27, 5-3-表紙, 5-3-目次,	失 名 子	3-3-24
	5-3-85, 5-11-52, 5-12-表紙,	篠原かく代	別3-12
	5-12-52, 6-1-49, 6-2-51	信夫澄子	4-6-116
佐藤 一(さとう・はじめ)	2-8-96,	柴崎公三郎	4-4-附8
	3-3-68, 5-1-11, 5-4-19	柴田一彦	3-8-2
佐藤久次郎	2-5-62	柴田昭司	4-8-174
佐藤日出夫	5-6-95	柴田昭三	2-3-23
佐藤ひろし	5-2-43	柴田竜雄	2-8-22, 3-2-85, 3-6-69,
佐藤文雄	3-8-2		4-2-99
さねとうけいしゅう	4-4-181	柴田利夫	3-1-83
佐野海三	3-7-64	芝野正男	3-4-82
佐野節子	3-8-93	柴山康夫	4-5-114
佐羽赤石	3-2-85	渋谷勝男	5-5-95
佐山 済	2-10-3	島 俊一	3-8-11
サルトル, ジャン・ポール	4-10-41	島てる子	6-1-11
沢まや子	2-8-37, 4-10-45	島 伸夫	別2-109
沢井余志郎	別3-12	島 陽二	5-1-30
沢田正夫	2-11-81	島川 実	5-8-79
沢村創二	4-7-107, 4-7-169	島崎二郎	5-3-94
沢村秀夫	2-11-49	島田三郎	4-2-99
三国 一	3-5-102, 3-9-22	島田ちかし	4-5-55
三 太	3-8-103	島田福子	4-11-141
三町半左	3-6-91, 3-7-93, 3-9-115	島田政雄(島田)	1-1-34, 2-1-2,
G・K生	2-9-70		2-1-16, 2-1-77, 2-2-11,
榛葉英二	5-6-4		2-2-23, 2-3-1, 2-3-4, 2-4-1,
椎葉つね	別3-168		2-4-16, 2-5-1, 2-5-21,

- 2-9-43, 2-10-65, 2-11-111,
2-11-112, 3-2-2, 3-2-82,
3-4-33, 4-2-110, 4-3-68,
4-4-176, 4-4-附8, 4-8-172,
4-8-174
- 島原健三 5-12-35
島村順一郎 5-8-50
しまもとただお 2-11-60
清水幾太郎 3-6-9
清水邦生 3-11-6
清水信行 5-6-34
事務局 2-11-113, 3-5-前付1,
3-6-117
事務局財政部 3-4-81
志村幸子 2-4-24
下村敏夫 4-9-121
しももとただお 5-2-96
下山 一 5-2-(97)
社 一 同 4-9-151
車 楽 生 4-9-147
上海文学芸術界連合会 2-10-73
シュポールタ, ヤロスラフ
2-10-22
庄司直人 4-10-58, 5-1-14, 5-3-1,
5-6-49
東海林瓊子 5-4-19
常 青 5-11-28
宵 石 2-8-17
ショーロホフ, M 4-7-140,
5-9-64, 5-10-70, 5-11-35
植 字 工 3-6-41
白井健三郎 4-4-附5
白石笛男 3-4-66, 3-11-133,
4-1-129, 4-2-99
- 白石笛太郎 3-11-57, 4-2-105,
4-7-180, 4-11-74, 5-2-79
秦 兆陽 4-10-120
新岩手詩人集団 2-11-74
新郷 宏 3-8-62
仁昌寺與七 3-2-70
真谷幸介 3-5-87, 3-12-31
陣ノ内鎮 3-5-48, 3-6-68
人民文学宇都宮友の会通信員
2-6-94
人民文学大阪友の会(人文大阪友の
会) 3-9-24, 4-1-178
「人民文学」詩委員会(人文詩委員会)
3-12-1, 4-1-146, 4-2-19,
4-3-92, 4-6-53
人民文学社(人民文学(社)編集部、
人民文学編集委員会、編集部、
編集委員会) 1-1-33,
1-1-49, 1-2-35, 1-2-70,
1-2-72, 2-1-67, 2-1-96,
2-2-68, 2-2-96, 2-3-95,
2-4-4, 2-5-95, 2-5-96,
2-6-64, 2-6-68, 2-7-1,
2-7-61, 2-7-80, 2-8-63,
2-8-81, 2-8-92, 2-9-4,
2-10-2, 2-10-20, 2-10-39,
2-10-52, 2-11-52, 3-1-1,
3-1-73, 3-2-30, 3-2-57,
3-2-71, 3-2-112, 3-3-前付1,
3-3-22, 3-3-30, 3-3-68,
3-3-81, 3-4-1, 3-4-66,
3-5-93, 3-6-77, 3-6-84,
3-7-21, 3-7-48, 3-7-53,
3-8-2, 3-9-2, 3-10-16,

- 3-10-30, 3-10-113, 3-11-4,
3-11-143, 3-12-4, 3-12-6,
3-12-31, 3-12-40, 3-12-41,
4-1-151, 4-2-41, 4-3-72,
4-4-39, 4-4-58, 4-4-146,
4-4-160, 4-4-附1, 4-4-附8,
4-5-103, 4-7-22, 4-7-78,
4-8-22, 4-8-30, 4-8-46,
4-8-87, 4-9-6, 4-9-138,
4-10-56, 4-11-4, 4-11-118,
5-7-94, 別1-95
- 人民文学盛岡友の会 2-11-49
- 新村 猛 3-4-49
- 穂 水 2-5-62
- 末次正寛 5-6-44
- 菅野和子 5-8-22
- 菅野富士雄 4-8-89
- 菅原いつえ 別3-18
- 菅原克己 4-8-52, 5-5-49, 5-5-53,
5-6-49, 5-6-54, 5-7-66,
5-9-4, 5-11-4, 6-1-36,
6-2-40, 別3-150
- 杉 伸子 4-10-142
- 杉浦三郎 4-8-77, 6-2-11
- 杉浦弘祐 5-1-31
- 杉浦ふき 2-8-56
- 杉浦明平 3-11-26, 4-4-附8, 4-9-99,
4-11-129, 5-2-27, 5-3-85,
5-7-37, 別2-39
- 杉原征价 3-2-72
- 杉村光子 別1-72
- 杉村佳子 5-9-34, 5-10-30, 5-11-30,
5-12-37
- 杉本二郎 3-3-111, 3-5-103
- 杉本佳郎 5-3-4
- 杉山秀男 3-3-112, 4-1-178
- 鈴木午太郎 5-3-94
- 鈴木和男 3-3-110
- 鈴木和夫 3-11-134
- 鈴木数馬 2-10-52
- 鈴木禧八 4-5-174
- 鈴木桂子 4-8-88
- 鈴木賢二(スズキ・ケンジ)
2-1-表紙, 2-5-54, 2-5-85,
3-2-目次, 3-3-目次,
3-9-目次, 3-9-1, 3-10-目次,
3-11-目次, 4-1-カット,
4-4-カット, 4-6-カット,
4-7-カット
- 鈴木賢士 2-4-45
- 鈴木幸子 3-5-73, 3-8-94
- 鈴木静枝 5-11-9
- 鈴木 信 2-8-88, 2-9-56, 2-10-40,
3-2-46, 3-6-71, 4-1-52,
5-1-94, 5-2-1, 5-2-61,
5-9-27, 5-12-1, 6-2-36
- 鈴木信二 4-11-133
- 須々木清一 3-2-70
- 須々木誠一 3-2-85, 3-4-83,
3-4-111, 3-5-73, 3-6-70,
3-6-93
- 鈴木西州 4-6-140, 4-7-69
- 鈴木西夫 2-8-22
- すずき・はるえ 5-1-15
- 鈴木 浩 5-7-28, 5-11-80
- 鈴木めぐみ 6-2-35
- 鈴木盛義 4-6-181
- 鈴木揖吉 6-1-27

須田正子	別3-20	千田梅二	6-2-4
スターリン, イ	3-2-30, 3-11-6	仙田茂治	5-7-64
すどう・かずお	3-2-71	千田義人	別3-112
須藤五郎	3-9-前付1, 3-9-前付1	扇能忠生	別2-113
須藤伸一	4-2-74, 4-5-99, 4-6-131, 4-7-46	宗 俊子	5-1-94
首藤瓢々	3-2-68	曹 良奎	4-6-表紙, 4-6-6, 4-7-7, 4-7-カット, 5-10-表紙
須間 純	3-10-99	草 雨	2-8-17
角 圭子	5-1-92	創作研究会	4-4-125
角 俊広	2-9-68	相馬よし子	4-1-75, 4-3-44
住谷春也	3-6-102	草 明	2-2-64, 2-6-70
須山広志	3-1-54	袖木衆三	2-11-47
駿河三郎	3-7-21	其井 豊	2-6-81, 2-7-47, 2-10-22
諏訪弥佐吉	2-10-50, 2-11-76	園田綾子	5-5-15
孫 犁	2-3-72	園部芳子	2-6-93
成 達一	2-4-47	祖父江貞子	4-7-70
清野 進	4-3-110	染谷ひろし	4-4-182
清野正秋	4-7-64		
晴 風	2-8-17	た	
ゼーガース, アンナ	4-3-148	だいとう・たかはる	5-7-52
関 鑑子	2-5-4	ダヴィンチ, レオナルド	3-4-表紙
関 英一	2-11-77, 3-4-82, 3-5-72, 3-6-92, 3-7-65, 3-8-83, 3-8-95, 3-9-104, 3-10-50, 3-11-135, 4-1-115, 4-2-99, 4-2-105, 4-7-169, 4-7-180, 4-11-74	高井信子	5-4-72
瀬木富夫	2-4-19, 3-3-67	高市 実	3-12-66
関 義	4-7-23	高沖陽造	4-4-附8
関口恒四郎	2-9-29, 3-2-69	高木正一	4-10-41
関根 弘	4-2-43	高木 伸	4-5-164
勢登 秀	4-2-99	高木 進	6-1-39
瀬戸泰士	5-4-19	高木辰夫	6-1-11
瀬藤 祝	2-3-68	高木まさる	2-5-62
		高木みどり	2-5-62
		タカクラ・テル	1-1-13, 2-1-26, 2-2-96, 2-5-40, 2-9-30
		「高崎五万石」製作委員会	3-5-96
		隆	3-9-117

高島青鐘	2-11-43, 4-5-99	高柳正次	1-2-71
高島鉄哉	3-3-58	高山藤三	5-2-96
高島 洋	4-2-47, 4-2-92	多岐茂夫	別3-87
高瀬俊介	4-5-182, 4-7-107, 4-9-120	滝 修一	4-9-112
高田糸子	3-8-110	滝崎安之助	3-6-94, 3-8-96, 3-10-25, 4-7-164, 4-8-8, 別3-142
高田国代	2-10-38	多喜二研究会	4-2-8
高萩歌人集団	2-11-74	滝平二郎	2-5-21, 2-7-カット, 2-8-カット, 2-10-93, 2-10-カット, 2-11-目次, 3-1-カット, 3-4-目次, 4-1-目次, 4-6-目次, 4-6-カット, 4-8-目次, 4-9-目次, 4-10-目次, 4-10-カット, 4-11-表紙, 4-11-目次
高橋昭子	6-2-20	滝本 清	別3-54
高橋イツ子	3-7-105	滝本 互	2-5-62
高橋門吉	6-2-19	田口 恒	5-3-5
高橋錦吉	5-7-表紙	竹→東 竹雄	
高橋流石	2-10-81	竹内和夫	5-12-64
高橋祥八	5-12-目次	竹内和志	別3-62
たかはし・しんいち	2-11-34	竹内勝太郎	別2-89
高橋慎一	4-5-131	竹内景助	4-11-116
高橋新治	3-2-76	竹内俊雄	別3-160
高橋星河	2-5-62, 3-4-65	竹内 実	5-11-28, 6-1-12, 6-2-43, 別1-221
高橋テイ	5-6-35	竹内 好	2-5-54, 2-10-4, 4-4-附3
高橋暁樹	1-1-21	武田泰淳	4-1-149, 4-5-131, 5-1-23, 別2-58
高橋登美子	5-10-55	武田 久	2-10-83, 3-4-32, 3-9-54, 4-8-70, 5-2-61, 5-4-19
高橋トヨ	4-5-110	たけだやすこ	4-8-81
高橋晴雄	6-2-15		
高橋正夫	3-7-2		
たかはしまん柳	5-7-40		
高橋元弘(たかはし・もとひろ)	2-6-75, 2-7-81, 3-9-118, 3-10-123		
高橋義孝	4-4-附3		
高橋良三	4-1-180		
高松甚二郎	5-4-表紙, 5-5-表紙, 5-6-表紙, 5-7-表紙, 別1-198		
高村光太郎	別2-88		
隆村孝平	2-11-46		

竹田葉介	2-10-74	たに, まさお	6-2-31
竹村文一	2-5-62	谷 雄二	別3-97
多胡比佐志	2-6-72	谷川みどり	4-2-93
太宰 治	別2-46	谷村康子	4-10-58
たざわ・ごろう	2-6-93	田沼 肇	4-7-61, 4-8-74, 4-9-136
田沢良子	1-2-70	タバタテル	3-7-83
田島啓二郎	4-11-50	田原詩郎	4-2-180, 4-3-145
多田藤次郎	2-11-76	田部勝夫	5-6-96
多田洋一	2-3-62, 3-1-74, 3-2-58	玉井五一	5-9-50, 5-10-56
ただし・きんだ	4-5-94	玉井 仁	2-11-92
立花 明	5-3-77	玉置風郎	4-7-169
たちばな・かおる	4-7-180	玉城 肇	3-3-76, 4-4-附3,
橘 孝治	2-3-95, 2-8-22	別2-124	
立花宗夫	3-6-93	玉木葉月	2-3-84, 2-10-54, 3-4-65
立原道造	別2-92	玉置風子	3-2-69, 3-6-92
伊達得夫	4-8-66	玉城 実	4-6-164, 4-6-164
田所 泉	4-11-8, 5-11-24	玉城 素	2-3-55
田中静夫	2-11-98	民庄太郎	3-4-83, 3-11-39
田中修三	3-1-66, 3-3-7, 3-7-64,	田宮虎彦	3-8-12
	3-10-28, 3-11-135, 4-1-115,	田村英一	2-9-69
	4-2-100	田村 茂	5-7-表紙
田中昭三	5-6-48	田村ひろし	3-3-44
田中 正	4-2-181	田村 実	2-10-82
田中英光	別1-54	タムラ・ミノル	4-5-180
田中政雄	1-2-2, 5-10-36	他山せき	5-3-7
田中政子	3-8-2	淡徳三郎	2-5-55, 2-10-2, 3-8-14,
田中マサル	3-2-34	4-4-附6	
田中山五郎	4-3-146	たんじまさお	4-7-107
たなはし・一じ	2-1-22	丹治芳郎	3-10-122
たなべちさこ	4-3-110	丹田 一	2-7-62, 3-5-101
田辺若男	2-7-63	チェン・イエンチヤオ	2-5-表紙
谷 九助	2-7-62, 2-11-91, 3-7-67	茶 坊 主	5-2-65
谷 新助	4-7-139	忠	5-5-68, 5-6-62, 別1-126
谷 垂水	2-7-63	中華全国文学芸術界連合会	

3-10-前付1		鄭 泰裕	3-12-137
張 阿明	5-12-22	丁 玲	2-7-87
趙 基天	2-9-40	T・H生	2-9-60
趙 樹理	2-1-77, 2-2-11, 別2-71	T	2-6-49
張 朴基	4-2-101	出口泥子坊	4-11-74
千代田詩人集団	4-2-25	手島千恵子	4-9-149
陳 孝敬	3-9-51, 3-9-52	手塚捨三	3-6-68
築城申二	4-7-169	出目和子	2-11-92
津川真理子	4-7-169	寺内みふみ	2-10-52
つぎお	4-5-122	寺田 貢	4-10-8
月島丸生	5-4-26	寺西邦雄	3-3-63
津 吉	4-6-141	輝旗信治	3-11-158
つくば・ひでお	4-4-172	電話交換手	5-5-96
津倉 淳	別2-79	ト フー	5-3-12
津田 孝	3-5-95	土井道子	2-7-81, 2-8-22, 2-9-67, 2-11-76, 3-1-66
つだ, ひろし	2-7-52	どい・よしのぶ	2-4-25, 2-7-76, 3-2-64, 3-4-50, 4-4-148, 4-4-162
土屋正子	4-5-113	戸石泰一	4-2-112, 5-6-4, 別1-62, 別3-8
土谷美好	2-5-94	ドゥージン, ミハイル	2-10-20
土谷 亘	3-1-111	東京朝鮮人中学校第三学年自治会一 同	2-6-95
津々美真一郎	3-8-108, 3-12-29	東京南部文芸工作者集団	3-12-34
堤 真砂	4-3-86	唐 至	2-3-86
角田かね	5-10-38	東大文学研究会	3-5-8
津野田近	4-11-74	塔編集部	3-3-111
椿 一郎	3-9-105	当山青波	2-8-29, 3-2-85, 3-6-69, 4-2-99
椿 正康	3-10-52, 4-3-91	ドーボンス, フランソワーズ	別2-161
津布久晃司	5-5-52, 5-7-95	トーマ, エデイト	3-1-39
壺井繁治	別1-18	遠山茂樹	3-11-58
坪内なお子	5-8-24		
坪野哲久	2-10-5		
積田鯉士	4-9-カット		
つやまけいこ	3-3-56, 5-8-80		
鶴 喜	4-6-182		
鶴見三郎	3-6-69		
鶴見鉄雄	5-2-26		

戸川節子	別3-28	2-8-70	
とくいさお	3-10-122	トレーズ, モーリス	4-7-35,
とくしまぐんぞう	2-11-93	別2-79	
徳田 穰	4-10-149, 5-8-80	呑	3-9-117
徳 永	3-12-41	呑木呆天	3-9-117
徳永 直	2-5-54, 2-9-80, 2-10-34, 3-2-23, 3-2-30, 3-2-66, 3-3-35, 3-4-44, 3-6-44, 3-6-65, 3-6-102, 3-7-48, 3-10-58, 4-1-15, 4-1-152, 4-3-55, 4-4-58, 4-4-97, 4-4-附8, 4-5-152, 4-6-106, 4-6-164, 4-7-181, 4-9-104, 4-10-36, 4-10-80, 4-10-150, 5-1-2, 5-3-45, 5-10-27	屯 子	3-9-117
		な	
徳永富子	2-4-目次	内藤三歳子	2-10-76
徳永富士子	2-4-48	長井愛子	5-3-19
戸坂基次郎	5-5-31	永井 謙	2-8-94
とし子	2-8-17	中井文雄	5-2-43
豊島二三雄	5-5-45	長江武一郎	6-1-17
都竹通年雄	2-7-94	長尾 修	4-9-140
戸塚署三十二番	4-3-93	中垣虎児郎	2-3-72
鳥取和男	3-1-111	中川順子	5-7-57
富岡 隆	3-5-51	中川 拓	5-1-52, 5-3-32, 5-5-34, 5-6-40, 別1-187
富田弘一	2-5-62, 2-6-73	長崎S生	3-3-81
富永太郎	別2-91	中里くみ子	別3-75
トムスキー	2-8-表紙	中沢 勇	3-8-93
豊田正子	1-1-19, 1-2-62, 2-1-46, 2-2-23, 2-2-73, 2-2-97, 2-3-1, 2-3-96, 2-4-1, 2-4-88, 2-4-97, 2-5-1, 2-5-63, 2-6-97, 2-7-82, 2-8-13	長沢 節	別2-46
豊田 操	3-1-111, 3-3-44, 3-5-100	長沢正行	5-2-45
ドルマトフスキー, エフゲニー		なかし→江馬 修	
		永島 鼎	2-7-63
		中島健蔵	3-4-3
		長島実男	5-6-95
		永島敏子	5-8-58
		長瀬克一	5-4-94
		中蘭英助	4-3-34
		長田志郎	2-10-21, 2-10-21
		中田久敏	4-11-63
		中田ひろ子	4-10-8
		中田良克	2-7-56

- 中谷 泰 4-2-表紙, 4-7-表紙,
 5-9-表紙
 永塚恒夫 3-1-66
 中西次郎 3-8-94, 3-11-135,
 4-2-100, 4-7-174, 4-8-123,
 5-3-77
 中根節子 2-7-81
 中野 昭 3-3-29
 中野和夫 2-11-92
 永野慶志 4-6-182
 中野三郎 2-5-94
 仲野酢素 3-4-73
 中野秀人 2-10-5, 3-9-表紙,
 4-2-42, 4-4-附8
 仲野谷清 2-5-95, 2-11-93, 3-1-53
 長畑喜一 4-5-117, 4-5-120
 中原桂太郎 6-1-24
 中原淳吉 2-8-28, 3-9-92
 中原信吉 2-8-8
 中原中也 別2-91
 中原保男 3-4-5, 3-4-29, 3-5-8,
 3-5-23, 3-5-108, 3-6-118,
 3-7-124, 4-8-66
 長淵芳麿 3-8-110
 中村明子 別3-40
 中村 朗 4-9-139, 6-1-17
 中村梅之助 3-8-48
 中村翫右衛門 2-8-18, 3-2-47,
 3-8-52, 3-11-77, 4-3-104
 中村信司 3-10-53, 4-3-90
 中村 宏 4-6-109
 中村みどり 別2-115
 中門英幸 2-11-43
 中山一進路 2-5-62
 中山和夫 2-8-29
 中山義秀 4-5-131
 中山五郎 2-1-3, 2-2-72
 中山 正 4-6-7, 4-6-カット,
 4-7-カット
 中山久枝 5-3-7
 中山ユリ 4-7-カット
 中山亮一 3-11-79
 長与善郎 2-10-2
 なごみ 4-4-172
 名古屋学生救援会 3-7-25
 梨本 栄 4-11-74
 那須田稔 5-8-79
 夏川令三 3-7-50
 某 2-6-93, 2-8-95
 並木和夫 2-11-76
 並木ひでお 3-12-40
 成田忠一 5-1-58
 鳴木民夫 2-3-58, 4-5-164
 なわみちお 4-2-109
 南山政子 5-10-80
 新居広治 1-2-表紙, 2-2-表紙,
 2-5-30, 2-5-40, 2-5-54,
 2-11-表紙, 3-3-表紙,
 3-3-カット, 3-7-目次,
 3-11-表紙, 4-2-目次,
 4-3-カット, 4-4-目次,
 4-6-カット, 4-9-カット,
 4-10-51
 新潟詩のなかまの会 2-11-45
 新島 繁 2-5-55, 2-11-28, 3-9-36,
 3-10-1, 3-10-34, 3-12-74,
 4-4-174, 4-4-附8, 4-8-174,
 別1-168

新山光子	4-1-114	野木たかし	3-8-37
西 杉夫	4-2-94, 4-9-133,	野口 彰	3-6-92
別1-189		野口彰一	3-5-72
西尾 章	3-6-72	野口 肇	3-10-49
西尾章二	2-10-6, 4-4-附8	ノサカ・ハタエ	3-3-66
仁科一路	3-2-85, 3-6-69	のせかつを	5-2-52
西村八代	2-6-72	野田克信	4-8-112
西村玲子	3-8-2	昇 曙夢	2-9-25
西山梅雄	4-1-38	野間 宏	2-2-23, 2-2-27, 2-3-1,
西山勝己	4-1-111		2-3-17, 2-4-1, 2-4-34, 2-5-1,
西山 隆	4-6-181		2-6-78, 2-7-64, 2-10-43,
西山正男	3-11-135		2-10-57, 3-2-80, 3-6-44,
新田朝男	5-5-69, 別1-32		3-6-66, 3-9-26, 3-9-118,
新田信久	2-10-55		3-10-68, 3-10-123, 3-11-14,
日中友好協会	3-8-前付5		3-11-82, 3-11-98, 4-2-49,
二宮一郎	6-2-43		4-2-112, 4-3-6, 4-4-6,
二宮キク	4-8-78		4-4-附6, 4-4-附8, 4-5-92,
二宮 豊	3-6-92, 6-1-19		4-8-22, 4-9-投込み, 4-9-114,
日本近代文学史研究会(近代日本文学研究会)	4-1-168, 4-2-128,		4-10-150, 5-1-18, 5-2-22,
	4-3-138, 4-5-154, 4-7-175,		5-3-10, 5-3-13, 5-3-52,
	4-8-83, 4-10-142, 4-11-141		5-4-30, 5-4-52, 5-5-10,
日本文学学校事務局	別1-222		5-6-4, 5-7-32, 5-9-6, 別1-46,
根岸 忠	3-3-62		別1-107, 別2-94, 別3-1,
ネクセ, アンデルセン	4-9-84,		別3-137
	5-7-88	野村欣治	3-11-134, 4-7-139
根本 篤	2-11-112	野村 忠	3-6-64
ネルーダ, パブロ(ネルーダ)		野村 実	2-10-52
	3-7-72, 5-5-1, 5-6-1, 6-1-1	野本 達	4-4-182
能州山人	5-2-20	のり子	4-5-122
能智愛子	3-1-69, 3-11-108,		
	4-6-126	は	
能智修弥	3-3-52	羽賀律夫	2-10-55, 2-11-77
野川秀夫	別1-67	萩村 繁	4-6-148
		萩原朔太郎	別2-88

朴 元俊	2-11-112, 4-4-107, 4-4-133, 4-6-87, 別1-152	浜田初広	2-3-70
朴 準熙	3-12-66	浜野 童	別3-131
迫 樹	3-1-45	林あき子	3-1-66
白 老 児	5-1-30	はやしいさを	5-2-17
橋口清一	4-4-182	はやし・かずお	3-9-73, 4-4-24, 4-7-90
橋本英吉	3-3-27	林 克也	4-10-64, 5-6-26
橋本勝三郎	2-3-77	林 恭護	別2-119, 別2-123
橋本公成	3-2-66	林 昇三	別3-59
橋本夢道	3-3-38	林 二郎	3-5-77
橋本芳久	5-2-(97)	林 尚男	3-11-23, 3-12-13
長谷留治	別3-71	林緋紗子	5-7-52
長谷川昭俊	2-6-94	林 瓢月	2-5-62
長谷川匡史	4-3-110	林 文雄	3-9-84
長谷川勉	別2-174	林 稔	3-2-74
長谷川とし子	3-4-82	林 美子	3-6-92, 3-8-95, 3-9-104, 3-11-135, 4-1-115, 4-2-100
長谷川義二	3-7-84	林上十吉	別3-173
羽田昭治	5-5-95	林野滋樹	4-7-65
畑中俊平	2-6-60	原 暁子	5-6-47
畑中ひろし	2-6-74, 2-7-62	原 伊市	3-3-83
八目女十	3-11-39	原 修	3-5-34
初汐惣一	5-10-80	はらきょうこ	5-2-44
服部之総	4-5-131, 5-4-41, 5-6-56	原謙太郎	3-1-81
鳩 雅美	2-7-63, 3-2-69, 3-9-104	原 武男	2-1-56
羽鳥文昭	5-4-76	はら・てつし	5-7-81
花岡次郎(花岡)	3-10-68, 3-12-68, 4-1-103, 4-4-163, 4-5-112, 4-6-149, 4-7-72, 4-8-72	原波次郎	3-3-44
花田英二	5-5-50	原田 純	5-3-50
浜賀知彦	別3-78, 別3-84	原田利光	3-8-2
浜口国雄	3-12-62	針生一郎	5-8-65, 5-9-28, 5-10-10
浜崎二雄	4-1-52, 4-3-84, 5-2-1	播磨碩水	3-6-69
浜田矯太郎	3-2-70, 3-6-69, 3-7-67	針谷正治	2-7-63
		春川鉄男	2-6-4, 2-8-30, 2-8-34, 2-11-2, 4-2-15, 4-2-134.

4-3-175, 4-4-89, 4-4-附8, 5-4-52		火吉生	5-5-58
パルチザン	2-2-94	比良信治(ひら・しんじ)	2-5-6, 4-9-97
春山すゝむ	5-7-57	平井立茶	3-4-73, 3-6-70, 3-8-93
坂正之助	3-9-105	平島静子	3-4-66, 3-6-69
半田義之	2-1-38, 3-10-72, 4-3-146, 4-4-8, 4-4-附8, 別2-151	平中忠信	2-1-5
万能鉄次郎	3-6-93	平野恵子	6-2-21
P 生	2-10-52	平野 謙	3-3-22
ひがし紘平	3-8-61	平野幸男	4-7-181
ピカソ	2-5-12, 2-9-2, 4-7-22, 4-10-36, 4-10-47	平林和男	5-6-95
氷川 九	5-3-17, 5-3-21, 5-3-27, 5-3-31, 5-4-21, 5-4-25, 5-4-55, 5-4-59, 5-5-38, 5-5-79, 5-5-85, 5-5-89, 5-6-7, 5-6-9, 5-6-13, 5-6-17, 5-7-7, 5-7-12, 5-7-21, 5-7-24, 別1-124	平山二郎	3-2-71
疋田あさ	5-4-19	比留雅夫	5-6-20
引地正美	3-8-95	ヒルスカ, V	3-7-48
樋口武和	3-9-97, 3-12-125, 4-4-148	広江天痴人	3-2-78
ヒクメット	1-2-50, 2-3-38	広島E生	3-3-81
久富勝義	2-4-47	広島平和祭祭典準備会	2-8-1
土方重巳	別3-表紙	広末 保	3-3-24, 3-11-64, 3-11-82, 4-4-附8, 4-5-131
土方 鉄	3-6-79	広田耕作	2-10-48
日高澄子	5-10-29	広津和郎	5-1-6
ひとつばし・すすむ(一橋 進)	2-11-77, 3-2-92, 3-3-82, 4-7-51	ひろみ	4-5-122
ひの・まさし	3-7-86	広保 治	5-3-94
ひやまえたろう	4-1-144	貧 男	3-9-117
日向仁治太	4-1-181	ファデーエフ, ア	2-6-49
		フージュロン	4-7-23
		深井三木夫	3-7-88
		深尾須磨子	3-3-22, 3-6-34, 4-2-39
		深川宗俊	2-8-28, 3-3-62, 3-8-33
		深田喜市	5-4-95
		深野利雄	1-2-71
		福沢正一	2-2-93
		福島要一	2-4-30, 2-5-54, 2-8-95, 3-4-85, 3-9-18
		福田一郎	4-9-149

- 福田恒太 4-7-46
 福田小猫 3-4-73
 福田 穂 2-2-25, 2-6-29, 2-6-76,
 2-11-50, 2-11-99, 3-1-74,
 3-10-50
 福田久道 4-4-附8
 福田律郎 4-2-63, 4-3-116
 福原真志 2-4-25
 袋 一平 2-3-27, 2-5-56, 2-6-86
 富士正晴 別1-169
 藤井 透 4-3-148, 4-4-115
 藤井雅苗 6-2-22
 藤井 譲 3-1-111
 藤尾龍四郎 3-5-目次, 3-6-表紙,
 3-7-表紙, 3-8-表紙, 3-10-表
 紙, 3-12-表紙, 4-9-7, 4-9-カ
 ット
 藤川健夫 3-11-106, 4-2-118,
 4-2-150, 4-3-63
 藤 田 2-2-94
 藤田弘輝 別3-72, 別3-74
 藤田宏司 5-1-58
 ふじたたかお 4-5-122
 藤田孝美 2-3-43, 3-6-44
 藤塚三郎 4-6-43
 藤原俊夫 5-4-74
 藤原仲次郎 3-3-111
 藤村千恵 5-11-6
 藤本知近 5-7-96
 藤森成吉 1-1-45, 1-2-60, 2-1-68,
 2-2-23, 2-2-55, 2-3-1,
 2-3-63, 2-3-69, 2-4-1, 2-5-1,
 2-5-53, 2-6-65, 2-8-79,
 2-10-30, 3-1-57, 3-2-83,
 3-3-31, 3-4-84, 3-6-83,
 3-7-89, 3-10-80, 4-3-6,
 4-4-6, 4-4-附8, 5-1-60,
 5-2-66, 5-3-62, 別1-160
 藤原審爾 5-7-47
 藤原仲次郎 2-9-72
 藤原正高 5-5-57
 布施辰治 3-6-34
 淵田一久 2-10-82
 淵脇 巧 4-1-179
 船越 亨 4-6-30
 冬木月夫 別3-163
 プラリニコフ, エフゲニー 2-5-59
 フリードマン, ロバート 1-2-55
 ブリュムセル, アンドレ 1-2-54
 古井戸重介 2-4-46
 古川明子 3-4-86
 古川 宏 3-9-114, 3-12-34, 4-7-72
 古川 稔 4-9-140
 古沢太穂 2-10-81, 3-2-85, 3-2-91,
 3-3-45, 3-5-100, 3-6-68,
 3-6-68, 3-6-76, 3-7-66,
 3-8-92, 3-10-50, 3-11-133,
 4-1-129, 4-2-99, 4-4-附8
 古沢多慶夫 3-2-70
 古田 弘 3-5-101
 古野八郎 別3-130
 古野雅美 3-4-82, 3-11-144
 古林 尚 4-1-139
 古谷綱武 4-4-附3
 文芸報社文芸報編集委員会 2-2-19
 文章 五 3-11-46
 「平和のうたごえ」編集委員会
 4-1-15

- ベック, ヨアヒム 5-10-10
別冊文学の友編集部 別3-1
ペトロフ, セルゲイ 2-8-68
ベルジュロン, レエジイ 4-2-20
ヘルムリン, シュテファン 6-1-24
編集委員会→人民文学社
編集部→人民文学社
許 南麒 2-7-18, 2-9-1, 2-11-74,
3-3-18, 3-8-16, 3-9-69,
3-10-39, 4-2-58, 4-2-80,
4-6-96, 5-4-82
北条さなえ 2-10-39, 4-4-139,
4-4-152, 4-4-附8, 4-9-133
ほうじょうてるお 4-1-140,
別1-103
ぼくたく 5-7-40
星野虎夫 3-4-78
星野まもる 2-4-12
細井 勇 4-1-37
細川 俊 3-1-71
細見正三郎 3-1-66, 3-3-83
堀田 浩 3-11-134
堀田善衛 3-6-44
堀 5-4-35
堀 三郎 5-12-44
堀井敏弘 4-7-169
堀内春吉 2-7-94, 2-9-68, 2-10-82
堀越克子 2-2-96
堀間春吉 2-9-29
華 山 別1-198
本郷一郎 4-8-174
本郷二郎 5-10-4, 5-11-80
本郷 新 2-1-55, 2-2-40,
2-6-表紙, 4-6-164, 4-8-表紙,
5-2-53
本沢養志 3-9-104
本上靖夫 3-7-66
本田喜代治 3-3-15
本多秋五 4-4-附4
ほんだ・たつんど(本多竜人)
2-11-91, 3-4-66, 3-5-89,
3-5-101, 3-7-66
本多延嘉 3-3-110
本田 昇(ほんだ・のぼる) 4-3-85,
4-7-14, 4-11-122, 5-9-26,
6-2-12, 6-2-16
本田 実 4-2-180
本田嘉博 4-8-78
本根史朗 5-9-80
- ま
- 馬 烽 4-7-155
馬 凡陀 2-4-5, 2-4-33
麦 桿 1-1-表紙, 2-5-目次,
2-5-5
前川亨一 5-5-95
前倉艶子 3-1-112
前芝確三 2-10-32
前島利平 別3-51
前田喜美子 3-2-69, 3-3-82, 3-5-22
まえだこおいち 3-10-51
前田芳雄 4-6-121
茅 盾 4-10-24, 4-11-102,
5-2-47
マカル, マフムド 1-1-25, 1-2-28
まき・あきら 3-4-54
まき・かずひろ 2-7-58
牧喜美子 3-8-95

真木 潔	5-7-54	松井舜平	3-2-70
牧 健介	3-3-44, 3-4-83, 3-6-99, 3-7-64, 3-8-92, 3-8-94	松浦保善	4-2-181
牧 浩平	2-7-87, 2-8-23	松浦義行	6-2-36
真木尚二	2-5-95, 2-8-10	松江大衆診療所一所員	3-12-59
榎新太郎	4-1-142	松尾晴輔	3-1-111, 別3-156
牧 清一	3-3-64	松尾 勝	2-5-62
マキ・タカシ	3-4-53	松川晴二	3-6-36
まき・のりこ	3-10-57, 4-4-172	松川大作	6-2-15
まき・ひろし	2-11-65, 2-11-77	松川哲雄	4-10-8
牧子 実	3-3-112	松川詩人集団	2-11-94
牧下一巳	4-3-147	松木良雄	2-2-93, 2-3-94
まきの・さくま	5-4-73	松崎一正	別3-90
榎村 浩	別1-63	松沢政治	4-1-178
まさき・うきち	5-7-59	まつしま・えいいち(松島栄一)	
真崎一男	3-5-58		3-1-62, 3-9-86, 4-5-131
榎木恭介	4-9-140, 5-5-40, 5-5-53, 5-6-49, 5-6-50, 5-7-66, 6-1-26, 別2-161	松島緑林子	3-2-85
正木十与	1-2-70	まつだ・あきら(マツダアキラ)	
正木 昊	4-4-附1		3-7-53, 3-9-104, 4-1-114, 4-2-101
正木 豊	5-4-86	松田 武	2-9-59
正子→豊田正子		松田解子	1-2-58, 2-5-55, 2-9-10, 2-10-101, 2-11-67, 2-11-103, 3-2-86, 3-4-98, 3-5-121, 3-6-12, 3-7-90, 3-7-97, 3-10-24, 3-10-69, 4-1-116, 4-3-18, 4-3-96, 4-4-169, 4-4-附8, 4-5-124, 4-5-181, 4-10-31, 5-1-40, 5-6-74, 6-1-49, 別1-89
真 弘	5-9-1	松田 優	4-2-181
増子正司	3-12-60	松田雪子	6-1-20
ましま・てつじ	3-11-136	松野 進	2-5-62, 2-6-73, 2-11-91, 4-1-129
馬島 侷	3-6-34	松原健二	3-6-85, 4-5-95
升内義夫	4-3-41		
増田西嶽	2-5-62		
益田哲夫	別3-70		
増山太助	1-2-36		
真 知子	3-8-58		
まつい・しげお	2-10-82		
松井重治	4-2-182		

松村一人	2-10-2	水落義一	5-2-4
松村哲男	4-3-146	水上正弘	3-3-63
松本鋼一	3-1-34, 4-11-133	水木 剛	2-11-77
松本二郎	2-11-64	みずさわひろし	3-11-98
松本新八郎	2-11-78, 4-5-131	水沢 宏	5-9-19, 別3-36
松本信也	別3-125	水沢凡太郎	5-1-54
松本銅一	5-3-96	水田栄三	5-2-(97)
松本 亨	3-4-87	水谷 護	2-3-77
松本正幸	3-3-82, 3-4-75, 3-5-73, 3-7-106	水野 繁	4-4-141, 5-4-44
松山 映	4-8-174	箕田源二郎(みたげんじろう)	
松山 繁	3-9-4, 4-1-108, 4-3-79		3-5-2, 3-6-カット, 3-7-111, 3-8-目次, 3-8-111, 3-9-56, 3-10-88, 4-1-54, 4-1-カット, 4-3-30, 4-3-カット, 4-4-カット, 4-5-79, 4-5-カット, 4-6-カット, 4-10-表紙, 4-10-8, 5-4-4, 5-5-76, 5-6-82, 5-7-4, 5-9-50, 5-10-56, 5-11-表紙, 6-2-表紙, 別1-33, 別2-128
まつやま・ふみお	3-4-88		
松山みどり	3-5-73	三竹 柊	4-2-99
真鍋呉夫	4-2-112, 4-4-附8, 4-5-131, 4-6-107, 4-7-74, 4-9-140, 4-10-8, 4-10-35, 5-1-34, 5-9-45, 別3-140	三田署七番	4-5-118
マヤコーフスキー	3-5-56	道家忠道	4-6-150
丸木位里	3-6-34, 4-8-59, 5-2-目次, 5-2-81	箕作秋吉	3-2-51
丸山三郎	2-9-73, 3-2-44, 3-4-111	美那川順一	3-10-57
丸山 静	4-9-91	湊 三吉	3-3-82
まるやま・てるお	3-3-2	南 昌三	3-3-8, 3-4-112
丸山やす子	別2-119	南 沼夫	3-4-80, 3-7-64
マレンコフ	4-7-34	南 義郎(みなみよしろう)	5-1-23, 5-2-25, 5-2-79
三浦郁雄	3-6-33	峰のぼる	2-5-95
三浦久仁人	5-6-96	蓑輪喜作(みのわきさく)	4-2-100, 5-2-18
三浦乃亜	別1-26	三原タケシ	3-3-110
三木郁元	5-3-77, 3-3-83		
三木進一郎	4-9-130		
三木冬吉	5-2-52, 5-3-61, 5-8-52		
三木比呂志	4-1-135		
三坂多一郎	4-8-88		

ミハルコフ, セルゲイ	2-10-21	村石玉恵	2-5-62, 2-5-83, 3-2-68
壬生照順	4-4-附4	村上十吉	3-4-111, 4-8-174
三村繁子	別3-36	村上章一	5-3-6
三村義夫	5-1-27	村上草太郎	3-1-52
宮木春也	3-10-44	むらかみ・たかを	2-3-61
宮坂多田志	6-2-26	ムラカミタモツ	2-5-62, 3-2-69
宮坂彦市	5-12-64	村上安正	4-3-145
宮崎ひろし	3-7-53, 3-11-69, 4-1-44, 4-10-120, 4-11-102	村杉 彰	5-9-42
宮下弘治	別3-99	村田幸夫	4-9-140
宮下 森	4-7-90	村田順子	4-7-181
宮寺己之吉	2-8-54	むらた・ひろし	3-5-2
宮乃宇良夫	3-2-62, 3-3-70, 3-6-81	村山家国	5-2-17
宮久入達夫	4-4-181	むらやま・たかし	3-7-12
宮部八重	4-10-60	村山知義	5-3-14
深山さよ	5-5-30	村山 学	3-5-28
みやもと・きだお	3-11-133	室谷好枝	2-1-96
宮脇千秋	2-7-94	メーデー被告荒川署四四番	3-11-43
みよし	4-10-149	モイセイエンコ	2-5-15
三好 一	2-2-64	本川 正	4-4-172
未来信二郎	4-7-169	元口三吉	3-10-56
三輪和彦	5-5-95	元田斗志	3-6-102
三輪民吉	3-5-91	もとね・しろう	3-12-64
民正太郎	3-1-66	モノ, フランソワ	6-1-26
関 丙均	5-4-83	森 武郎	4-1-132
向山 宏	2-2-94, 2-3-93, 3-3-109, 4-2-181	森 毅	2-11-92
麦畑生子	5-9-15	森 春夫	4-10-74
無茶苦茶生	5-5-31	森 道夫	5-4-28
宗方春雄	5-3-15	森井武夫	5-6-95
宗子 敏	5-8-48	盛岡ペンと自由グループ	4-8-50
無名氏	3-1-111, 3-11-36, 4-7-169	森田祥一	4-7-181
村井琢美	3-6-93	森田千鶴子	別3-86
		森本義輝	2-3-92
		森山秀男	5-12-64

や

- | | | | |
|----------|---|--------|---|
| 八木忠雄 | 3-2-70 | 山崎 郷 | 3-4-17, 3-4-25, 3-6-105,
3-8-65, 4-1-カット,
4-3-カット, 4-4-60, 4-5-104,
4-5-カット, 4-6-カット,
4-7-カット, 4-10-カット,
4-11-カット, 5-4-86,
別1-169 |
| 矢島昇一 | 2-2-36 | 山崎達志 | 3-6-23 |
| ヤシロ・コーイチ | 4-4-157, 5-3-49 | 山崎正和 | 2-8-4, 3-2-32 |
| 矢代東村 | 2-8-22, 2-10-38, 3-2-84 | 山崎良一 | 4-5-123 |
| 安田幾代 | 4-5-106 | 山路源兵 | 5-1-56 |
| 安田幸雄 | 5-1-25 | 山路隆司 | 3-2-43 |
| 安豊定子 | 3-12-60 | 山下楨子 | 6-1-27 |
| 安永 守 | 4-6-41 | 山代 巴 | 4-3-99, 4-4-134, 4-4-附8,
4-6-122 |
| 安信サツエ | 2-7-53 | 山田一郎 | 5-4-27 |
| 矢田妙子 | 3-2-61 | 山田うた子 | 5-3-35, 5-4-4, 5-5-76,
5-6-82, 5-7-4 |
| やただあき | 4-2-100 | 山田悦哉 | 3-3-44, 3-4-73, 4-7-180 |
| 谷中 修 | 4-2-182 | 山田君子 | 別3-120 |
| 柳 青芽 | 2-10-81 | 山田源太郎 | 3-4-65, 3-7-66,
3-8-92, 3-10-50, 3-11-133,
4-1-129, 4-2-99 |
| 柳田謙十郎 | 4-4-附2 | 山田耕筈 | 5-2-17 |
| 柳町京平 | 4-7-68 | 山田順太郎 | 3-5-49 |
| 柳瀬正三 | 4-6-154 | 山田清吉 | 5-8-79 |
| 矢根郁子 | 5-2-79 | 山田清三郎 | 3-3-23, 3-8-101,
4-5-161, 4-10-91, 5-8-18 |
| 谷野耿太郎 | 4-7-56 | やまだとおる | 4-5-165 |
| 矢野正次 | 1-2-71 | 山田秀厚 | 2-10-55, 3-2-85 |
| やま・まさを | 別3-50 | 山田真広 | 4-4-160 |
| 山岡明雄 | 6-1-6 | 山田道生 | 6-2-17 |
| 山川 亨 | 3-10-121 | 山畑たけお | 4-7-169 |
| 山川 亮 | 3-7-31 | 山中一郎 | 5-6-45, 5-6-46, 別3-92 |
| 山川 渡 | 5-5-56 | | |
| 山岸外史 | 3-3-26, 3-5-81, 3-6-44,
3-8-20, 4-4-附8, 4-10-74,
4-11-134, 5-7-50, 5-8-14 | | |
| 山草もゆる | 4-2-105 | | |
| 山口行雄 | 5-10-40 | | |
| 山口与七 | 3-11-133 | | |
| 山崎 朗 | 3-7-67 | | |
| 山崎 謙 | 5-1-47, 5-2-35, 5-3-64 | | |

山西次郎	4-7-180	由利左門	3-1-56, 3-2-61
山野五郎	3-1-16	養 志	3-8-91
山野 進	5-2-63	葉 挺	2-2-61
山野卓造	4-7-46	除村ヤエ	5-8-27
山畑しげお	5-11-1	除村吉太郎	2-8-74, 2-10-12,
山花陽香	4-4-173		3-4-67, 3-8-55, 3-11-11,
山原袈裟乃(山原けさの)	2-3-33,		4-2-8, 4-4-附8, 4-7-8,
	2-5-46, 2-11-89		4-8-31, 4-8-46
山村民男	3-4-82	横井源次郎	2-7-63
山元あさ	5-8-25	横田平九郎	4-10-149
山本厚則	3-7-67	横田瑞穂	3-3-39
山本幸一	3-3-7	横村貞光	2-6-72
山本正一	2-10-38	横山志郎	5-6-39
山本須美子	2-7-63	横山 浩	2-1-96
山本憲親	4-2-180	吉井 忠	1-1-カット, 1-2-カット,
山本 洋	4-8-90		2-5-54, 2-8-54, 4-4-表紙,
山本平八郎	2-11-85		4-4-カット, 4-5-目次,
山本又男	1-1-2, 2-2-40		4-5-148, 別1-96
山本又三	6-2-33	吉岡 憲	1-2-カット, 2-2-62,
山本洋助	3-3-69, 3-3-112		2-5-46
山屋寛子	4-4-181	吉沢和夫	4-3-105
湯浅いさお	2-7-94	吉田嘉志雄	2-3-91, 2-9-62
U	4-1-167, 4-1-183, 4-2-62,	吉田繁樹	5-2-16
	4-2-183, 4-3-183, 4-4-191,	吉田重蔵	4-7-182
	4-5-183, 4-6-183, 4-8-182,	吉田治平	3-1-33
	4-9-151, 4-11-148, 5-4-25,	吉田太郎	4-4-カット
	別3-104	吉田敏子	5-2-44
ゆうき・かおる	2-11-62, 4-7-72,	吉田 博	4-4-173, 4-7-107
	5-2-46	吉田美千雄	別3-65
湯川 純	2-11-61	吉田 豊	4-9-120, 5-3-77
由起しげ子	5-6-4, 別2-53	ヨシダ・ヨシエ	4-8-59
行方藤男	4-6-39	吉中 功	4-6-164
柚木衆三	2-2-95, 3-10-121	良永康一郎	4-4-182
湯地美佐子	4-11-141	吉永チトセ	6-1-9

吉成大志 2-7-60
 吉村きくよ 2-10-55
 吉村京子 5-5-22
 吉村金之助 4-6-145
 吉村タツエ 3-6-92
 吉原武安 2-10-84
 四元桂子 4-1-114
 米田 登 3-11-35

ら

ライナー, マーグリット 4-2-150
 老 舎 6-1-12, 6-2-43
 李 殷直 4-6-64
 李 純 5-12-24
 李 秉哲 5-4-82
 李 泰俊 3-12-50, 4-4-107, 4-6-64
 リ・ビヨンチヨル 4-6-100
 柳 貞姫 4-8-48
 林 和 3-3-18, 4-2-58
 林 影 3-12-64
 ルー キ キー 5-3-10
 ルヴォヴァ, イー(リヴォヴァ, イ)
 3-10-44, 4-3-63
 ルカッチ, G 4-5-174
 レイヴァ, ラウル 5-8-6
 レオナルド 3-4-59
 六角一良 2-5-62
 ロワ, クロード 4-10-48

わ

YYグループ(YY同人) 3-7-94,

3-9-116
 若杉卓二 3-2-36
 わかつま・けいすけ 2-7-94, 2-8-8,
 3-3-67
 若林 頼 3-3-110
 若山愛子 6-2-19
 脇 2-4-47
 脇田道保 3-12-41, 4-11-133,
 5-11-80
 ワシーリコフ, セルゲイ 2-10-21
 和田芳子 5-8-43
 渡辺兼雄 4-5-115
 渡辺金司 4-5-79
 ワタナベ・ゲンゾー 3-11-133,
 3-11-135, 4-1-129
 渡辺 淳 4-8-39
 渡辺順三 2-5-54, 2-11-75, 3-3-83,
 3-4-60, 3-4-83, 3-5-73,
 3-6-93, 3-7-65, 3-8-95,
 3-9-105, 3-10-57, 3-11-134,
 4-1-115, 4-2-101, 4-4-173,
 4-4-附8, 4-7-162, 4-8-69
 渡辺進司 3-6-93, 3-8-95
 渡辺宣民 4-2-99
 渡部雄吉 5-8-表紙
 亘理妙子 2-3-60
 亘 3-9-117
 わへい→あいくに・わへい